

大学院履修案内

平成 17 年度

(2005 年度)

慶應義塾大学

文学研究科

本案内は、大学院文学研究科における履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を申告してください。

履修申告を期日に行わない者は、退学の処置にすることがあります。(学則 161 条)

申告後の履修科目変更、追加、取消は認めません。又、履修届の閲覧も認めませんので「履修届」の本人用控え（コピー）を手許に残し、後日送付する確認表と合わせて確認の上、年度末まで必ず保管して下さい。この確認を怠った為に生じた不利益（申告漏れ、科目間違い等）については学校側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間（詳しくは提示により指示します）で、この期間経過後は、確認を終了したものと見做します。

申告をしていない授業科目を受験しても一切無効であり、単位は取得できません。

目 次

学事関連スケジュール	3
一般注意事項	4
履修申告方法	14
履 修 要 項	24
講 義 要 綱	29
修士課程設置 哲学・倫理学専攻	30
美学美術史学専攻	41
史 学 専 攻	51
国 文 学 専 攻	61
中国文学専攻	68
英米文学専攻	71
独 文 学 専 攻	82
仏 文 学 専 攻	86
図書館・情報学専攻	89
博士課程設置 哲学・倫理学専攻	102
美学美術史学専攻	104
史 学 専 攻	107
国 文 学 専 攻	111
中国文学専攻	113
英米文学専攻	115
独 文 学 専 攻	117
仏 文 学 専 攻	120
図書館・情報学専攻	122
全研究科共通（修士・博士課程共通）	125
他大学大学院との相互科目履修に関する協定	171
関係規程抜粋	173
学位請求論文製本表紙見本	181

平成17年度（2005年度）学事関連スケジュール（三田）

春 学 期	4月1日(金) 12:30~	成績証明書発行開始
	4日(月) 10:45~12:15	情報処理教育室設置講座ガイダンス (516番教室)
	13:00~14:30	慶應義塾大学在外研修プログラムガイダンス (528番教室)
	5日(火) 14:45~15:45	教育実習事前指導 (今年度実習予定者) (517番教室)
	7日(木) 9:00~	大学院入学式〈西校舎ホール〉
	12:00~13:20	履修案内等資料配布 (110番教室)
	13:30~	文学研究科全体ガイダンス (教室は掲示します)
	18:30~	アート・マネジメント分野ガイダンス (313番教室)
	18:30~	情報資源管理分野ガイダンス (314番教室)
	16:30~18:00	教職課程ガイダンス (大学院生対象) (517番教室)
	18:10~19:10	教職課程ガイダンス (来年度実習予定者対象) (513番教室)
	8日(金)	春学期授業開始
	14日(木) 10:00~16日(土) 13:00まで	Webによる履修申告期間
	15日(金) 8:30~18:10まで	用紙による履修申告日
	22日(金)~18:10まで	Webによる履修申告科目一覧提出締切日(学事センター)
	23日(土)	開校記念日【休校】
	28日(木) 9:00~	学事 Web システム履修科目確認画面稼働開始
	28日(木)	在学科等納入期限(全納または春学期分納)
	5月上旬(掲示を出します)	履修申告科目確認表送付(本人宛)
	上・中旬	健康診断
	6日(金)以降	修士課程2年生修了見込証明書発行開始 博士課程3年生単位取得退学見込証明書発行開始
	6日(金)~10日(火)〈予定〉	履修エラー修正期間(期間は履修申告科目確認表に記載)
	下旬	早慶野球戦
7月11日(月)・15日(金)	春学期補講日	
16日(土)	春学期授業終了	
19日(火)~27日(水)	春学期末試験(この期間の授業はありません)	
28日(木)~9月21日(水)	夏季休業(8月9日(火)~15日(月) 三田キャンパス一斉休業)	
秋 学 期	9月22日(木)~24日(土)	秋学期ガイダンス 文学研究科のガイダンスはありません
	26日(月)	秋学期授業開始
	29日(木)	9月学位授与式
	10月31日(月)	在学科等納入期限(秋学期分納)
	下旬	早慶野球戦
	11月18日(金) 1・2時限	秋学期補講日
	11月18日(金) 3時限~24日(木)	三田祭(準備,本祭,後片付けを含む)【休講】
	30日(水)	休学願提出期限
	12月23日(金)~1月5日(木)	冬季休業(12月28日(水)~1月5日(木) 三田キャンパス一斉休業)
	1月6日(金)	秋学期授業開始
	10日(火)	福澤先生誕生記念日【休校】
	18日(水)	秋学期月曜代替講義日
	20日(金)	秋学期補講日
	21日(土)	秋学期授業終了
	23日(月)~2月4日(土)	秋学期末試験(この期間の授業はありません)
	31日(火) 10:00~11:30, 12:30~14:00	修士学位論文提出
	2月3日(金)	福澤先生命日
	上旬~3月下旬	春季休業
	下旬	博士課程3年生 在学期間延長申請
	下旬もしくは3月上旬	修士論文面接
	3月10日(金)	修士課程修了者発表
	中旬	学業成績表送付(本人宛)
	29日(火)	3月学位授与式

注意事項

土曜・日曜・祝日・義塾が定めた休日および大学事務の休業期間については、学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。なお期日については、決定次第掲示によってお知らせしますので、掲示板をご覧ください。諸般の事情により、日程・教室等の変更が発生することがあります。変更があった場合は、学内掲示板にてお知らせします。掲示に注意しなかったために、自身が不利益をこうむることがありますので、必ず注意してください。

一 般 注 意 事 項

学 生 証 (身 分 証 明 書)

1. 学生証は、諸君が慶應義塾大学大学院生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券を購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦4cm、横3cm カラー光沢仕上げ）1枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により当日発行できないこともありますのでご了承ください。
学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料として2,000円が必要です。
4. 返 却
再交付を受けた後、前の学生証が見つかった場合、退学・修了などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

掲 示 板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて大学院校舎1階の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示板に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が非常な不利益を被ることもあります。
なお、他研究科・学部設置科目を履修した場合は、その科目を設置している研究科・学部の掲示板に注意してください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については、共通掲示板に注意してください。
2. 主な掲示事項
授業の休講・補講、時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係ある緊急通達、各試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。休講・補講、呼出しについては、インターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-modeのみ）により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。また、試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。

試験・レポート・成績

1. 試験

随時授業時間内に行われます。別途指示がある場合には掲示されることがありますので、掲示板にも留意してください。

2. レポート

レポート提出は、教室および研究室で直接教員に提出する場合と、学事センターに提出する場合があります。学事センター窓口への提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センター窓口および西校舎1階学部掲示板前に備えてあります。

3. 学位請求論文（修士論文・博士論文）

各研究科により手続等が異なりますので、履修要項を参照してください。

4. 成績通知

修士課程・博士課程とも学業成績表は3月中旬に本人宛に発送します。（ただし、成績証明書は次年度より発行します。）

諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱います。

1. 休学願・退学届・就学届

本年度休学する場合は、11月末日までに指導教授の許可を得たうえで休学願を学事センターに提出してください。病気を理由に休学する場合は、医師の診断書を添付してください。休学期間は当該年度末（3月31日）までとします。休学が次の年度に及ぶ時は、改めて許可を得なければなりません。

休学および留学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。

なお、病気を理由に休学をしていた場合には併せて医師の診断書を提出してください。

退学予定者は、退学届に学生証を添えて学事センター窓口へ提出しなければなりません。

2. 留 学

「研究科委員会が教育上有益と認めるときは、休学することなく外国の大学の大学院に留学することを許可することがある。」（学則第124条）

詳しくは学事センター文学研究科係に問い合せてください。

3. 住所変更届（本人・保証人）、保証人変更届、改姓（名）届

各届とも学事センター所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センターへ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。郵送および電話による届け出は受け付けません。

必要書類

・住所変更届：在学カード

・保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票

・改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

また、学生総合センター学生生活支援窓口へ提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されない場合は、極めて重要な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

各種証明書

証明書の発行、申し込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。
在学料等が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証明書	発行開始日	金額
在学証明書	4月1日 12時30分～	1通 200円
成績証明書	4月1日 12時30分～	
修了見込証明書	5月6日～	
履修科目証明書	6月1日～	
修了見込証明付成績証明書	5月6日～	1通 400円
学割証（JR 各社共通）	4月1日 12時30分～	無料
健康診断証明書	6月中旬～年度内	1通 200円

※料金は改定されることがあります。

(1) 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱い時間内

南校舎 1 階 設置 発行 機：9 時～20 時 [授業期間外の土曜日および休日・大学休業日は除く]
メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

(2) 学割証は 1 人 1 年間 10 枚まで発行。有効期限は発行日から 3 か月以内（有効期間内でも学籍を失った場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センター窓口で申し出てください。なお、定期健康診断を未受診の場合には、学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

(3) 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センター窓口で申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）

(4) 健康診断証明書は 6 月以降、定期診断受診者を対象に発行されます。なお、奨学金申請等で 6 月中旬以前に発行が必要な者は保健管理センター三田分室受付で相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証明書	発行開始日	金額
英文在学証明書	4月1日 12時30分～	1通 200円
英文成績証明書	4月1日 12時30分～	
英文修了見込証明書	5月6日～	

※料金は改定されることがあります。

※2003年4月以降の入学者は証明書自動発行機で発行できます。その他の学生については従来どおり窓口での発行となります。ただし、2004年4月以降、窓口で一度英文証明書の申請・交付を受ければ、その翌日から証明書自動発行機での発行が可能になります。

3. 学事センター窓口で日数を要して発行する証明書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書，公認会計士用証明書，英文履修科目証明書，他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては，余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。

なお交付には和文書類は申請後標準 3 日，英文書類は申請後標準 1 週間日数を要します。

学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

(1) 授業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8 時30分～18時10分

〔なお，各学部・研究科に関する相談・問い合わせは，次の時間帯でお願いします。〕
8 時30分～16時30分

(2) 休業期間中は次のとおり取り扱います。

月～金曜日…… 8 時30分～11時30分，12時30分～16時30分

土曜，日曜，祝日，義塾が定めた休日および大学事務の休業期間は閉室となります。

事務取り扱い時間を変更する場合，および事務室の閉室については，掲示等でお知らせします。

2. 学事センター窓口業務

- (1) 学籍・成績・履修に関すること
- (2) 授業・試験・レポート等に関すること
- (3) 時間割に関すること
- (4) 休講・補講に関すること
- (5) 追加試験の申し込み（学部設置の科目）
- (6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓（名）届等
- (7) 学生証の発行
- (8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行（和文はおもに証明書自動発行機）
- (9) 教室に関すること
- (10) 通学証明書の発行

落とし物は学生総合センター学生生活支援窓口が取り扱います。

修了後および単位取得退学後の成績証明書等の申込・発行は，塾員センター（北館 3 階）で行います。

教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

専門科目担当（三田）専任教員（教授・助教授・専任講師・助手）……研究室（三田新研究室棟）
他地区専任教員および塾外からの出講者（講師）……教員室（南校舎 2 階）

学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養・奨学金および学生健康保険互助組合を担当する学生生活支援窓口、就職進路を行う就職・進路支援窓口があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学生生活支援

学生談話室 A・B の使用申し込み受付

授業・ゼミ以外の会合のために学生談話室 A・B を使用したい時は、使用希望日の 4 日前までに申し込んでください。休日の使用はできません。

山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食・西校舎学生食堂ホール・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生生活支援窓口で使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後 1 週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合、予約は取り消されますので注意してください。なお、日曜日・祝日は利用できません。

学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その 4 日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。合宿等で団体割引が必要な場合についても学生生活支援窓口で受け付けています。

学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生生活支援窓口へ届け出て、場所等の指示を受けることが必要です。

備品使用申請の受付

公認学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の 4 日前までに申請してください。

車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、やむを得ず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の 4 日前までに申請してください。

学生ラウンジの使用

南校舎 1 階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は 8 : 45 ~ 21 : 00 です。室内での飲食はできません。

伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。A 4 用紙 1 枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の研究科・学年・氏名・連絡先を明記してください。

その他

学生総合センター「大学生生活懇談会」では見学会、講演会、討論会、映画会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生生活支援窓口には、財団法人大学セミナー

ハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生生活支援窓口で取り扱っています。

○奨学金

学生生活支援窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

慶應義塾大学奨学金 [給費]

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

慶應義塾大学特別奨学金 [給費]

家計支持者の死亡・失職等により家計状況が急変し、経済的に学業の継続が困難になった者を援助することを目的とします。募集日程は西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

日本学生支援機構奨学金 [貸費]

4月中旬に出願受付を行います。第一種（無利子）と1999年度から設置された、第二種（きぼう21プラン）（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（第一種）・応急採用（第二種）があります。

地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金

募集は主に4・5月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

指定寄附奨学金 [給費]

募集は主に4月に行います。募集日程はその都度、西校舎1階中央ホール学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度（奨学金付き学費ローン）

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借り入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は学生生活支援窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を提示し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。なお、給付方法は銀行振込となりますので、口座登録が必要です。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を学生生活支援窓口へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月20日に、入院は翌々月20日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

学生生活支援窓口においてある「医療費領収証明書」に、病院で1か月ごとの診療内容を記入

してもらい、塾生記入欄を各自記入して、学生生活支援窓口へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の3点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4か月以内に提出されない場合は無効となります。振込日は証明書を提出した月の翌月20日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの開設などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」(学生総合センターにも置いてあります)をご参照ください。

就職・進路支援

就職担当は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG情報などを、南校舎地下1階の就職担当事務室、1階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職担当のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10月から2月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OGや内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職担当は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職担当を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室 (西校舎地下2階)

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています(このスケジュールは相談室に問い合わせてください。)

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

学生総合センター窓口取扱時間

学生生活支援、就職・進路支援

月～金曜日……8時30分～17時 都合により閉室することがあります。

土曜日……………閉室

学生相談室

月～金曜日……9時30分～16時30分

土曜日……………閉室

昼休み……………11時30分～12時30分

学生教育研究災害傷害保険について

皆さんの教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業（総称して以下「授業」といいます）を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。

ただし、もっぱら被保険者の私的生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舍にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登はんやハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生生活支援窓口で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生生活支援窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶應生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先 (株)慶應学術事業会 Tel.. 03-3453-6098

慶應生活協同組合 Tel.. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

全学生

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生生活支援窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生生活支援窓口に出してください。）

定期健康診断について

定期健康診断は、学校保健法に基づいて全学年を対象に年1回実施しています。

慶應義塾大学学則第179条にも「学生は毎年健康診断を受けなければならない」と定められていますので、必ず受診してください。

未受診の場合には、「体育実技」の履修および健康診断証明書・学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）の発行はできません。

緊急時における授業の取り扱いについて

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合などの授業の取り扱いは次のとおりとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京 高尾間） ・京浜東北線（大宮 大船間） ・東急（電車に限る）
のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記の通りとします。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常どおり授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
4. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
5. 正午を過ぎても運行が再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じません。掲示や構内放送、下記のホームページによる大学からの指示に従ってください。

<http://www.gakuji.keio.ac.jp/index.html>

交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、政府や気象庁から「東海地震注意情報」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記のとおりとします。

[1] 「東海地震注意情報」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。

[2] 地震が発生することなく「東海地震注意情報」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

XI 早慶野球戦が行われる場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。

(3回戦以降もこれに準じます)。

雨天等により試合が中止になる時は、神宮球場の判断によります。

神宮テレフォンサービス TEL 03-3236-8000

履修申告方法

第1 履修申告について

履修申告は、指導教授の許可を得た上で指定された期日に必ず行うようにしてください。

1 履修申告方法について

履修申告は WEB もしくは申告用紙で行ってください。履修申告のしかたについては後述の「学事 WEB システムによる方法」および「履修申告用紙による方法」を参照してください。

2 学事 WEB システムによる方法

(1) はじめに

学事 WEB システムを使って履修するためには、新生はまず資料配布時に配られたパスワードを使って、インターネットにアクセスしてください。

(2) 学事 WEB システムによる履修申告の日程および URL

日程：4月14日（木）10時～4月16日（土）13時まで

WEB による履修申告システムの URL は、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> です。

(3) 学事 WEB システムによる履修申告すすめ

履修申告は学事 WEB システムによる申告か、履修申告用紙による申告のできる限りどちらか一方で行ってください。

学事 WEB システムによる履修申告の大きなメリット

- ・申告期間中であれば、いつでも、何回でも履修の修正が可能
- ・期間内であればエントリーされている科目を画面で確認が可能

(4) その他

操作方法については、<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/> の画面内にマニュアルを用意してあります。また、後述「学事 WEB システムマニュアル」を参照してください。

3 履修申告用紙による方法

履修申告用紙は、下記の期日に必ず提出してください。

提出日：4月15日（金）8時30分～18時10分 学事センター（修士・博士同日）

なお、履修申告用紙（マークシート）の記入については、後述の説明を参照してください。

履修申告用紙提出後の履修科目の変更・追加・取消は認められません。また履修申告用紙の閲覧、履修科目の照会にも応じませんので、各自提出する履修申告用紙の控え（コピー）を必ず手元に残すようにしてください。

（学事 WEB システムによる申告であれば、履修の修正と確認が可能です。）

4 注意事項

(1) 履修申告を期日に提出しない者は、退学の処置にすることがあります。（学則第 161 条）

(2) 履修申告用紙提出後の科目登録の確認を 5 月上旬頃行います。学事センターから履修申告科目確

認表を郵送しますので、手元に残した履修申告用紙の控えと科目名、担当者名、曜日、時限、分野等を必ず確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。履修の確認は修正期間（5月中旬予定）までに行い、修正すべき点または疑問点があれば、修正期間に必ず申し出なければなりません。この確認を怠ったために生じた不利（申告漏れ、科目間違いなど）は各自の責任となります。

- (3) 時間割は変更することがありますので、掲示を確認のうえ提出日直前に記入してください。
- (4) 履修申告をしていない授業科目を受験しても一切無効ですので、単位は取得できません。
- (5) 留学（学則 124 条）が認められた者および予定の者の履修申告については、学事センター文学研究科係まで問い合わせてください。（P. 26 「留学について」 参照）

第2 履修申告にあたっての注意事項

1 登録番号

1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義，外国語教育研究センター設置の口語外国語および実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても，必ず登録番号は1か所のみ付いていますので，その登録番号で申告することで，他の時限についても登録されます。この場合，番号の付いていない曜日・時限に別の科目を登録することはできませんので注意してください。

早稲田大学大学院，学習院大学大学院，および上智大学大学院設置の科目は，P.24「他大学大学院との相互科目履修」を読んで，別途履修申告をしてください。(修士課程のみ)

2 A欄・B欄について

履修申告欄は，A・B欄によって構成されています。どちらの欄で申告するかは以下のとおりです。ただし，同一科目をA欄およびB欄の両方で申告する必要はありません。

〈A欄に記入する科目〉

所属課程・所属専攻設置の科目

〈B欄に記入する科目〉

上記以外の科目(認定科目，研究所等設置科目，自由科目として申告する科目)

なおB欄で申告する際は(3)系列表のB欄分野番号を指定の上，登録してください。

3 系列表

修士課程在籍者			
種類	分野番号	B欄分野番号	A欄・B欄の区別
文学研究科 修士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p.19～参照)	01-01-01	—	A欄で申告すると自動的に01-01-01の分野で登録されます。
上記以外の認定科目 (指導教授の許可が必要です)	01-02-01	12	B欄でB欄分野番号を指定した上で登録してください。
自由科目	09-01-01	99	
他大学交流科目	01-03-01	—	他大学大学院設置科目履修申告用紙に記入してください。

博士課程在籍者			
種類	分野番号	B欄分野番号	A欄・B欄の区別
文学研究科 博士課程所属専攻 設置科目 (履修案内 p.52～参照)	01-01-01	—	A欄で申告すると自動的に01-01-01の分野で登録されます。
上記以外の認定科目(指導教授の許可が必要です)	01-02-01	12	B欄でB欄分野番号を指定した上で登録してください。
自由科目	09-01-01	99	

〈認定科目〉(B欄分野番号12)

研究上適当と認められた場合に限り，大学院学則の修士は11条，博士は18条に定める以外の科目をこの系列で登録出来ます。課程修了に必要な単位として計算されますので，この登録には指導教

第3 学事 WEB システムマニュアル

校内のパソコンからは無論のこと、自宅や海外からでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 WEB システム（以下 WEB システム）を利用して履修申告をすることができます。

WEB システムを利用するための ID（学籍番号）とパスワードは、入学時に学生証と一緒に配布されます。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間、使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

WEB システムには以下の 5 つの機能があります。

- ・履修申告
- ・登録済科目確認
- ・休講補講情報
- ・パスワード変更
- ・メールアドレス変更

WEB システムを利用すれば、履修申告期間中に履修登録の修正を何度もすることが可能です。また、履修申告期間終了後は、ある一定の期間で自分の登録した科目を Web 上で確認することができます。さらに、全キャンパスの休講補講情報を、パソコンや携帯電話（i-mode のみ）を使って確認することができます。

...注 意...

- ・学事 Web システムは、4 月 1 日（金）から休講情報の確認ができます。必ず 4 月 7 日（木）までにログインできることを確認してください。
- ・もし学事 Web システムのパスワードを忘れてしまった場合には、4 月 7 日（木）16：30までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。（2004年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2005年 3 月に送付した学業成績表に印字されています。）
- ・校内のパソコンを利用するための Windows パスワードを忘れてしまった場合には、三田インフォメーションテクノロジーセンター（三田 ITC：大学院棟地階）で変更申請の手続きを行ってください。
- ・学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、三田 ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。
学事 Web システムのユーザー名：学籍番号 Windows アカウントのユーザー名：f*****

1 履修申告

WEB システムを利用しての履修申告日程と WEB システムの URL は以下の通りです。

日程：4 月 14 日（木）10 時 ~ 16 日（土）13 時まで

学事 WEB システムの URL：<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

学事 WEB システムは、保守のため午前 4 時から 1 時間程度利用できません。

学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし [ブラウザ用] をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。

学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。[ログイン画面へ] ボタンをクリックしてください。

ログイン

「ID (学籍番号)」と、事前に通知したパスワードを入力し、[ログイン] ボタンをクリックしてください。

画面がうまく表示されない場合は、前述 の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。

トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」で、必ず履修申告前に登録されているメールアドレスを確認してください。履修登録後に自動送信される受付確認メールの宛先となります。必要に応じ、メールアドレスを登録・変更してください。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを 2 箇所入力（再入力欄にも同じものを入力）し、[登録] ボタンをクリックしてください。メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス (*****@mita.cc.keio.ac.jp 等) を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定を利用してください。

メールアドレスのユーザー名 (例:「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** の部分) は変更できません。

またユーザー名 (例:「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** の部分のみ) 登録しても届きません。すべて入力してください。

履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

科目の選択

(a) と (b) の 2 通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。(初期設定では、所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています。)

科目選択画面 (時間割選択) が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択し、最後に[選択を終了]を押してください。

(b) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面 (登録番号) が表示されますので、時間割表に記載されている 5 桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に [選択を終了] を押してください。

(a) (b) いずれの方法も、分野 (A・B 欄) の選択はマークシート用紙による記入と同様です。

(a) (b) の手順は、連続して行うことができます。

「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。

同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

選択した科目の確認

で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。(各科目の右端の〈状態〉欄に「未登録」と表示されています。)

選択した科目を取り消す場合

の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。

(選択) および (取消) で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。(エラーメッセージの詳細については、 の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の右側にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。)

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。エラーがある場合は、「状態」欄が「保留中」と表示されています。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、 からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください。)

受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、 で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。

メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

今回のみの一時的な指定を行わず で登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、[指定しない] ボタンを押してください。なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合があります。

ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

2 登録済科目の確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。確認できる日程や詳細などは塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) に掲載します。ただし、5月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 1 の (トップメニュー画面) までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

3 休講・補講情報の確認

学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

[ブラウザー編]

1 の から までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。

1 の の画面 (トップメニュー画面) から [休講補講情報] ボタンをクリックしてください。

自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、[休講・補講情報を検索する] ボタンをクリックしてください。

休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された

(したがって通常通り実施する) 科目となりますので注意してください。確認後は [ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

学事 Web システムの URL (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力し、前述 1 の画面上で [i-mode 用] を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくとう便利です。

[サーバー 1] もしくは [サーバー 2] のどちらかを選択してください。選択は任意です。

「学籍番号」と (1) で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、[ログイン] ボタンを押してください。

この画面から [休講情報] [補講情報] ボタンを押してください。

パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の (4) を参照してください。

自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から 1 週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、[検索画面へ戻る] ボタンを押してください。

4 パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

前述 (1) の画面 (トップメニュー画面) から、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を 2 箇所入力後 (再入力欄にも同じものを入力する)、[パスワード変更] ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください (大文字 / 小文字を区別します)。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。

第4 履修申告用紙（マークシート）の記入について

（記入には HB か B の鉛筆を使用）

1 記入時の注意事項

研究科，専攻（分野），学年，氏名，学籍番号および提出日を記入して下さい。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。修士または博士どちらかに 印をつけてください。なお，学科欄の記入は必要ありません。

- (1) 登録番号は，時間割に記載されている5桁の数です。科目名・教員名・番号が正しく書けていてもマークを間違えると登録されません。
- (2) 一度記入した科目の訂正・変更等は，消しゴムを使用せず，無効マーク欄を塗りつぶして改めて記入してください。
- (3) 提出期限外の受付は一切できません。
- (4) 提出前に必ずコピーを取ってください。

2 履修科目の記入方法

(1) A 欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 形態 [春・秋・通年] を で囲み，登録番号をマークします。

(2) B 欄記入上の注意

- ア 時間割に記載されている曜日時限・科目名・教員名・登録番号を記入します。
複数の教員が担当する科目は時間割上段に記載されている教員名を記入します。
- イ 第4(3)系列表を参照しB欄分野番号を記入します。
- ウ 形態 [春・秋・通年] を で囲み，登録番号・B欄分野番号をマークします。

(3) A・B 欄共通の注意

科目名・教員名・登録番号などを記入しても，マークの塗り忘れがあると科目は登録されませんので注意してください。

(4) 無効マーク

無効マークをマークすると，その枠内の登録内容について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，無効マークを利用してください。

(5) 履修申告用紙の再交付について

履修申告用紙提出前の科目の訂正および変更等は，なるべくこの欄無効マークを使用して無効にした上で正しい科目を登録してください。それでも訂正し切れない場合は交換しますので，その履修申告用紙を持参の上，学事センターに申し出てください。

交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

第5 他大学大学院との相互科目履修

修士課程在学中に、8単位を限度として早稲田大学大学院文学研究科・学習院大学大学院人文科学研究科・早稲田大学大学院教育学研究科および上智大学大学院哲学研究科（哲学・倫理学分野のみ）の設置科目を履修することができます。

また、この科目は課程修了に必要な単位とすることができます。

巻末（P. 159）に記載されている協定を参照してください。

大学院交流手続き方法について

1. 交流履修届（本塾学事センター窓口にあり）に必要事項を記入して、指導教員の承認（サインをA・B・C三片にもらうこと）をうけてください。次に相手校へ赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認をうけた後、（A・B・C三片にサインをもらうこと。ただし上智大学の場合は口頭で許可を得ればよいこととする。）早稲田大学・文学研究科事務室，早稲田大学・教育学研究科事務室，学習院大学・教務部，上智大学・学事部へ指示された期間中に提出してください。

【履修届受付期間：4月11日（月）～18日（月）】

2. 履修が許可された場合、本塾学事センター窓口にて、本人用交流履修届（A片）を確認の上、交流学生証を発行します。
3. 相手校の学科目を履修する場合は、必ず予め指導教員の承認をうけてください。これは履修決定以前の聴講の場合でも同様です。
4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手方教務部および指導教員、本塾学事センターに連絡してください。

履 修 要 項

第 1 課程修了にいたるまでの要件

課程修了の認定は、研究科委員会が行う。(学則第 109 条)

1. 修士課程

文学研究科修士課程に 2 年以上在籍し、32 単位以上の授業科目を修得し、かつ研究上必要な指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 11 条・15 条・109 条参照)

2. 博士課程

文学研究科後期博士課程に 3 年以上在籍し、原則として各年度 2 科目 4 単位以上を 3 年にわたり履修、指導教授の担当する 2 科目を含め、合計 6 科目 12 単位以上の授業科目を修得した上、学位論文(博士論文)の審査及び最終試験に合格することとする。(学則第 18 条・19 条・109 条参照)

なお、上記要件のうち、学位論文の審査及び最終試験を除き、所定の教育課程を終えた段階で修了する場合「単位取得退学者」として扱われます。(第 5 単位取得退学及び在学期間延長について参照)

第 2 学位請求論文の提出について

1. 修士論文の提出と修士学位の授与

修士の学位は、大学院前期博士課程、大学院修士課程を修了した者に与えられる。(学位規程第 3 条)

第 3 条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文 3 部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。(同第 7 条)

・ 修士論文提出及び学位申請に関する手順は次のとおりです。

(1) 修士論文題目届

指導教授と相談の上、修士論文の提出が許可された場合は、所定用紙にて論文題目を届出てください。詳細については 10 月中旬に掲示板にて指示します。

なお、この届を提出した後に論文提出を辞退する場合は、必ず学事センターに申し出てください。

(2) 論文提出 (1 月下旬予定)

提出日、提出方法については掲示板上にて指示します。なお、論文題目については (1) で提出した題目 (副題目も含む) と同じものとします。

(3) 修士論文面接 (3 月上旬予定)

提出された論文をもとに面接が行われます。面接時間等については論文提出時にお知らせします。

2. 博士論文の提出と博士学位の授与

(1) 課程による博士学位の授与（「課程博士」）

博士の学位は、大学院博士課程を修了したものに与えられる。（学位規定第4条）

第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。（同第7条）

なお課程による博士学位は原則として、修了に必要な単位を取得し、在学中に学位論文を提出し、かつ文学研究科委員会にて受理され、合格した場合に与えられますが、博士課程入学後6年以内に学位論文が文学研究科委員会にて受理されれば、課程博士として申請することができます。

これは、在学期間内の文学研究科委員会にて論文受理後、審査の途中で退学を希望する場合や、博士課程入学後6年の期間内に学位論文が提出され、同期間内の文学研究科委員会にて受理された場合などが該当します。

(2) 論文による博士学位の授与（「論文博士」）

博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。（学位規程第5条）

第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

（同第8条）

- ・博士論文を提出する場合は、学事センターで手続方法等について確認してください。

3. 論文体裁について

学位請求論文については三田メディアセンター（図書館）及び国立国会図書館（博士論文のみ）に所蔵しますので、なるべく下記の体裁に整えるよう協力をお願いします。なお、資料等の都合でどうしても規定の大きさに入らない場合は、これに従って表紙を付けて製本してください。

本文の縦書き・横書きにかかわらず、原則として縦A4版で製本してください。

（縦書きの場合は右綴じ、横書きの場合は左綴じとなります）

表書きは、本文が縦書きの場合は縦書き、横書きの場合は横書きとします。

表紙は黒を原則とし、白文字を使用してください。

製本の背文字は、本文の縦書き、横書きに係わず縦書きとしてください。

一部英単語が入る場合は、英単語のみ横書きとし、他の日本語は縦書きとしてください。

表紙の見本をこの案内の巻末に示します。既に公刊されている書物等を学位請求論文とする場合についてはこの限りではありません。

4. 三田メディアセンターからの修士論文複写許諾協力依頼

三田メディアセンター（図書館）では修士論文を保存し利用に供しています。利用者が修士論文を学術目的のために「複写する」ことに対し、現行の著作権法下では、事前に著作権者からの許諾を必要としています。

上記趣旨に賛同いただける方は必要事項を記入の上、修士論文と共に「修士論文複写許可回答」を

学事センターに提出してください。なお、今年度の学位授与名簿に記載されなかった場合は、メディアセンターが責任をもって廃棄します。 <http://www.mita.lib.keio.ac.jp/info/masters-thesis.html>

第3 留学について

留学を希望する場合は原則として、出発3ヶ月前までに次の学内手続きをしてください。

学事センター窓口で国外留学申請書の交付をうけ、必要事項を記入してください。

国外留学申請書に記載されている必要書類を用意してください。

と を合わせて学事センターに提出して検印を受け、これらの書類をもとに国際センターで留学の認定を受けてください。(交換, 奨学金, その他の認定)

国際センターの認定後, と の書類を持参して指導教授と面接し, 留学の許可を得てください。

による許可を受けた上で, と の資料を学事センターに再び提出してください。

上記の手続きをへた外国の大学院またはそれに準ずる機関への留学が, 研究科委員会で教育上有益であると判断された場合は, 休学することなく留学することができます。(学則第124条1項)

また, この場合は1年間に限り留学期間を在学年数に参入することができます。(学則第124条2項)

なお, 留学中に外国の大学院で履修した授業科目の単位のうち10単位を越えない範囲で, 修得単位が課程修了に必要な単位として認定されることがあります。(学則第124条3項)

留学期間の在学年数への算入と単位の認定(いずれかひとつの場合も含む)を希望する場合は, 帰国後, 就学届を提出する際, その旨を所定用紙にて申し出て研究科委員会の承認を得なければなりません。なお, その際単位認定希望者は, 単位修得を証明する書類を添付してください。

研究科委員会で上記の留学として認定されなかった場合には, 休学による留学になります。この場合には留学期間は在学年数に算入されず, 外国の大学院で修得した単位も上記の単位認定はされません。

留学期間を延長する場合, 延長理由を詳細に明記したうえで, 上記と同様の手続きをとってください。

帰国した場合は, 速やかに就学届等の必要書類を学事センターに提出してください。

留学期間中の在学料等については学事センター窓口にお問い合わせください。

海外の教育機関に留学する場合の取り扱いについて（文学研究科）

- ・在学期間中に留学を希望する場合、「留学」と「休学」の2通りに分けられます。

		留 学	休 学
種 類		研究科委員会において適正と認められた海外の大学で正式な手続を経て正規生と同じ授業を受ける場合（「編入制度による留学」「STUDY ABROAD PROGRAM」等）。 なお、留学は「交換留学」「奨学金による留学」「私費留学」の3つに区別しています。	<ul style="list-style-type: none"> ・語学研修（その他左記の留学として認定されない海外研修など） ・病気による休学（医師の診断書が必要） ・一身上の都合による休学
期 間	申 請 期 間	「留学」の開始日から半年以上1年まで。 「留学」は年度途中に開始し、年度の途中で終了することが可能です。 (例) 2005. 9. 22 ~ 2006. 9. 21)	休学は1年単位の申請となります（4月1日～3月31日）。 * 休学の開始日がいつであってもその年度は在籍期間に参入されません。 * 複数年度に渡って休学する場合は、新年度に再度休学願を提出してください。 * 休学願の提出締切はその年度の11月末日です（但し、4月1日から休学する場合は、履修申告までに休学願を提出してください）。
	延 長	2回まで可能（最長で留学開始日から3年まで） それ以降は「休学」となります。 * 「留学」を延長する場合は、「国外留学申請書（延長）」を提出してください。	留学の延長が出来ない場合（左記の延長期間を過ぎても留学継続を希望する場合など）の休学期間は、前回の留学申請期間終了日翌日より年度末までとなります。
学 費 ・ 渡 航 費	学 費 減 免 措 置	<ul style="list-style-type: none"> * 1年目：減免制度はありません。 * 2年目以降：減免される場合があります。 「留学」の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6カ月以上2年以内の場合は、留学開始日から1年を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除します（減免額が返金されます。留学許可通知と共に申請書類を保証人宛に送付します）。	<ul style="list-style-type: none"> * 語学研修、その他留学と認定されない場合の減免制度はありません。 * 但し、上記以外で特別事情のある者及び1年以上の休学者については、別に定めるところにより授業料その他が減免される事があります。
	登 校 費 補	「交換留学」及び「奨学金による留学」の場合には渡航費が補助される場合があるので、国際センターで所定用紙を受け取ってください。	
単 位 認 定 ・ 取 得	は 留 学 期 間 を 履 修 す	年度の途中から「留学」する場合は、「留学」前に履修申告をした科目を「留学」後継続履修し、単位取得することが可能です（ただし、同一科目名・同一担当者に限る）。必ず「留学」前に各科目担当者へ「留学」終了後、継続して履修する意志があることを伝えてください。	休学中の年度は履修できません。 【年度始めから休学】履修申告は不要です。休学届を履修申告日までに提出してください。 【年度途中から休学】4月に履修申告した科目は全て削除されます。
	単 位 認 定	10単位を超えない範囲で、学則の規定する単位に認定することがあります。認定を希望する場合は、就学後学事センターで所定の用紙を受け取ってください。	単位認定はありません。
就 学 後		「留学」終了後は、速やかに就学届を提出してください。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。	「休学」終了後は、速やかに就学届を提出してください（病気による休学については、医師の診断書を添えてください）。なお、就学後の行事日程については、年度末に郵送される行事日程表を参照してください。
へ 在 籍 算 入 年 数	進 級 ・ 卒 業 (修 了)	「留学」の期間は1年間に限り在学年数に算入することができます。希望者は「留学」終了後、学事センター窓口に申し出てください。ただし、遡及卒業（修了）は認められません。	「休学」の期間は在学年数に算入されません。ただし、実質的な在学年数に拘らず、休学中も最学年まで進級します。

第4 休学について

休学を希望する場合は、指導教授と面接の上、休学する年度の11月末までに休学届を学事センターに提出してください。

第5 単位取得退学及び在学期間延長について（後期博士課程のみ）

1. 単位取得退学

大学院後期博士課程修了に必要な単位を取得し、規定の在学年数（3年）を満たした場合、単位取得退学者として修了することができます。

年度の途中で単位取得退学を希望する場合は、単位取得退学届を提出してください。年度末で「在学期間延長許可願」を提出し所定の手続を取らない限り、単位取得退学者として扱われます。

なお、3年以内に博士論文を提出する目処がある場合に限り、三田メディアセンターの図書貸出を受けられる「塾員貸出券」（有料）を発行しています。詳細は図書館1階メインカウンターまでお尋ねください。

有効期間：申込日より6ヶ月もしくは1年

サービス範囲：三田メディアセンターに関しては大学院生と同等の貸出規則を適用する。

日吉、理工学、湘南藤沢の各メディアセンター、白楽サテライトライブラリーへの入館・閲覧が可能。

他大学図書館への紹介状の発行。

2. 在学期間延長許可願について

3年間の在学中に博士課程修了に必要な単位を取得した者で、博士論文作成にまだ時間を要する場合、在学最長年限を超えない範囲で、1年を単位として在学期間の延長を許可することができます（通常3回まで）。例年2月末までに「在学期間延長許可願」を学事センターに提出することになっています。

講義要綱・シラバス

修士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊講義Ⅰ（春学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

科学理論と観測の両方で確率が用いられる場合が多いが、この講義では確率のもつ様々な側面を取り上げたい。確率の基本を解説した上で、確率の哲学に関する論文を読みながら、議論したい。

哲学特殊講義Ⅱ（秋学期）

科学と確率

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の継続で、確率に関する主要論文をさらに検討する。

哲学特殊講義Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

現代論理学の諸問題と修士課程（哲学特殊）との共通。

- (1) 線形論理、証明論を中心とした現代論理学的手法の導入と、論理哲学、情報科学等への応用を行う。
- (2) 又、これと並行して、「論理学研究」第6研究を中心としたフッサール論理学、現象学的論理学の検討を現代的観点から進める。

哲学特殊講義Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

哲学特殊講義Ⅲと同じ。

哲学特殊講義Ⅴ（春学期）

意味、真理条件、解釈

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

言語表現の意味にかかわる哲学的な問題を検討する。言語表現の意味については、(i) 言語表現と世界との関係で論じる立場、(ii) 言語表現と使用（とくに

言語行為）との関係で論じる立場、(iii) 言語表現と話者の知識との関係で論じる立場などがあるが、それらの立場を比較しながら、人間言語なるものが、世界、心、論理といかに関係しているかを理解していただく。

哲学特殊講義Ⅵ（秋学期）

意味、真理条件、解釈

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

言語表現の意味にかかわる哲学的な問題を検討する。言語表現の意味については、(i) 言語表現と世界との関係で論じる立場、(ii) 言語表現と使用（とくに言語行為）との関係で論じる立場、(iii) 言語表現と話者の知識との関係で論じる立場などがあるが、それらの立場を比較しながら、人間言語なるものが、世界、心、論理といかに関係しているかを理解していただく。

哲学特殊講義Ⅶ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

秋学期集中で、2コマつづけて授業を行ないます。フッサール現象学にかかわるドイツ語文献を読みながら、参加者と議論を重ねたいと思います。今のところ、ヤン・パトチカの論考を議論のたたき台に、と考えています。

なお、秋学期最初の授業日程については、掲示に注意して下さい。

哲学特殊講義Ⅷ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義Ⅶ」と同じ。

哲学特殊講義Ⅸ（春学期）

計算・証明・不完全性

講師 照井 一成

授業科目の内容：

本講義および哲学特殊講義Ⅹでは、再帰的関数論（recursion theory）および算術のメタ理論の入門的解説を行う。まずはどのような関数や述語が計算可能であるか、それらについてどのような性質が（算術の形式的理論において）証明可能であるかといった初歩的な話題からはじめ、最終的にはゲーデル＝ロッサー

の第一不完全性定理（おおざっぱに言って、「数学的真理を単一の形式的体系によって完全に特徴づけることはできない」）、ゲーデルの第二不完全性定理（おおざっぱに言って、「無矛盾な数学理論は自分自身の無矛盾性を確立することができない」）まで到達することを目標とする。

両不完全性定理は、数学の基礎付けに対する形式的アプローチにとって否定的な意味合いを持つ結果であるため、定理の文面だけを聞きかじっていると過剰にネガティブな形式的体系観に陥りがちである。しかしその証明（特に第二不完全性定理の証明！）を詳しく見れば、それがいかに多くのポジティブな結果により支えられているかがわかるだろう。

本講義では、まず再帰的関数や算術の体系についての様々な肯定的な事実をおさえ、その上で不完全性定理の証明を現代的な観点から解説する。そうすることで、なるべくバランスの取れた形式的体系観を確立することができればと思う。

哲学特殊講義 X（秋学期）

計算・証明・不完全性

講師 照井一成

授業科目の内容：

本講義は哲学特殊講義 IX の続きである。内容についてはそちらを参照のこと。

哲学特殊講義 XI（春学期）

カント『プロレゴメナ』の読解と分析（前半）

講師 大橋容一郎

授業科目の内容：

例年の通り、カントの批判期主要著作を読解し分析します。本年は、『純粹理性批判』の完成後に、その「設計図」として著された『プロレゴメナ』を通読することで、カントの認識論および理性批判の全体像に迫りたいと思います。

哲学特殊講義 XII（秋学期）

カント『プロレゴメナ』の読解と分析（後半）

講師 大橋容一郎

授業科目の内容：

例年の通り、カントの批判期主要著作を読解し分析します。本年は、『純粹理性批判』の完成後に、その「設計図」として著された『プロレゴメナ』を通読することで、カントの認識論および理性批判の全体像に迫りたいと思います。

哲学特殊講義 XIII（春学期）

中東キリスト教（シリア語）文献入門

講師 高橋英海

授業科目の内容：

中東で誕生した宗教であるキリスト教とその思想は主にギリシア語とラテン語を介して世界に広まっていったが、中東およびその周辺にはギリシア語、ラテン語ではなくシリア語、コプト語、アルメニア語、エチオピア語、アラビア語等を媒体として広まっていったキリスト教がある。中でもその時間的、空間的な広がり（西は地中海沿岸から東はインド、中国まで）において最も重要なのはシリア語を媒体とするキリスト教であり、キリスト教の発展の正確な理解にはシリア語文献の研究が欠かせない。また、シリア語およびシリア系キリスト教徒はギリシア哲学・科学のイスラム圏への伝達にも大きな役割を果たしており、哲学史、科学史の分野でもシリア語文献の研究が重要となる。本講ではシリア語が用いられた世界の歴史と文化について概観するとともに、シリア語文献の講読に必要な知識を習得し、受講者の関心に合わせて選んだ文献の講読を試みる。（シリア語はセム語の中では比較的容易な言語であり、18世紀のオリエント研究者の間ではアラビア語やヘブライ語を学ぶ際にはシリア語から始めるのが適切であるとされていたこともここに付け加えておく）。

哲学特殊講義 XIV（秋学期）

中東キリスト教（シリア語）文献入門

講師 高橋英海

授業科目の内容：

「哲学特殊講義 XIII」と同じ。

哲学特殊講義 XV（春学期）

現象学と「理性」の問題

講師 田口茂

授業科目の内容：

近代的「理性」との批判的対決が現代哲学の大きな関心事となって久しい。しかし、そうした理性の批判は単純な非合理主義を目指すものではありえない。むしろ、そこでの焦眉の課題は「理性」概念の新たな捉え直しであるといえる。フッサール現象学は、二十世紀における「理性」概念の変貌に道を開いたという面をもつが、そこにおける微妙だが決定的な転換を吟味することによって、現代哲学の課題が新たな角度から照射されてくる可能性がある。こうした観点から、受

講者諸君と共に現代における「理性」概念の意味を様々な角度から検討してみたい。

哲学特殊講義 XVI (秋学期)

現象学と「理性」の問題

講師 田口 茂

授業科目の内容 :

春学期に続き、二十世紀における「理性」概念の捉え直しを検討する。フッサール現象学を媒介項としつつ、主にレヴィナスとアドルノの思想を取り上げる。フッサール研究から出発しつつフッサールを超えてゆくこの両者においても、やはりそれぞれ独特の仕方「理性」概念の捉え直しが行われている。そこでは、「理性」と「倫理」との関係がとりわけ焦点となるであろう。

哲学特殊講義演習 I (秋学期)

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容 :

秋学期集中で、2 コマつづけて授業を行ないます。エマニュエル・レヴィナスとジャック・デリダが提起した問題にかかわるフランス語文献を読みながら、参加者と議論したいと思います。

なお、秋学期最初の授業日程については、掲示に注意して下さい。

哲学特殊講義演習 II (秋学期)

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容 :

「哲学特殊講義演習 I」と同じ。

哲学特殊講義演習 III (春学期)

休 講

哲学特殊講義演習 IV (秋学期)

休 講

哲学特殊講義演習 V (春学期)

教授 堀江 聡

授業科目の内容 :

紀元後 3 世紀の『エンネアデス』後半部分の翻案『アリストテレスの神学』には、9 世紀バグダードで成立したアラビア語版(流布版)とは別に、16 世紀の二種類のラテン語訳(日吉メディアセンターにマイクロ・フィルム媒体で取り寄せ済み)とその約 2/3 相

当残存のヘブライ文字で書かれたアラビア語版(長大版)がある。二年前より世界的にも初めて本格的にこの長大版に取り組んでいる。全 10 章の流布版に対して、長大版は全 14 章からなり、ロゴス(kalimah)を創造主と知性の間に措定するなど新たな教説の存在が指摘されている。古代ギリシア末期の哲学の落し胤がイスラーム思想圏、中世ユダヤ思想圏、西欧近世思想圏に幾重にも投げかけた波紋を追跡することは並々ならぬ臂力を問われるが、壮大な眺望を以て報われるであろうことは創造に難くない。手順としては、1519 年のペトルス・ニコラウスの羅訳をベースに、1571 年のジャック・シャルパンティエの羅訳を補助として参照する。そして、ユダヤ・アラビア語で伝承されている部分に関しては異読を註記し、場合によっては羅訳による歪みを推測、是正する。また、流布版との相違をゴチック体で明示するので、毎回配布する拙訳はモザイク状を呈することになるだろう。古代中世哲学専攻の者以外は、横でこの作業を見届けるだけでもよいが、ラテン語のイロハを習得する機会として利用していただいても一向に構わない。総体としてはマニアックな講義演習だが、ラテン語そのものは平易な方であろう。膨大な哲学史・文化史的教養が必要なこの編者捜しのために、広く諸賢の智慧を求めている。

哲学特殊講義演習 VI (秋学期)

教授 堀江 聡

授業科目の内容 :

「哲学特殊講義演習 V」と同じ。

哲学原典研究 I (春学期)

休 講

哲学原典研究 II (春学期)

教授 飯田 隆

授業科目の内容 :

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学原典研究 III (春学期)

教授 中川 純男

授業科目の内容 :

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究Ⅳ（秋学期）

教授 中川 純 男

授業科目の内容：

アウグスティヌス『告白』をラテン語で講読する。
ラテン語の読解力と共に哲学文献の分析手法を身につけることを目的とする。

哲学原典研究Ⅴ（春学期）

プラトン『国家』講読

教授 堀 江 聡

助教授 納 富 信 留

講師 栗 原 裕 次

授業科目の内容：

『国家』はプラトン中期の代表作であり、正義論から教育論、文芸批評、心理学、存在論、認識論、政治学、学問論、快樂論ときわめて幅広いテーマを論じる、全 10 巻の大著である。今年度からこの作品を読み進めるが、その際、J. Burnet や J. Adam 以来一世紀を経て新たに出版された最新の校訂 (S. R. Slings の OCT 版) を用いていく (旧版との異同に特に注意する)。ギリシア語の基本的な読解と内容の理解を柱とし、毎回相当量を読みながら、議論していく。

『国家』については、新プラトン主義者プロクロスによる註釈が残っており、本文と並行して関連箇所にあたる必要がある。Procli diadoci, *In Platonis Rem publicam commentarii*, ed., G. Kroll, vol.1, Amsterdam, 1965 (Leipzig, 1889). その翻訳・訳註として、Proclus. *Commentaire sur la République*, traduction et notes par A. J. Festugière, tome I: dissertations I-IV (p.1-111), Paris, 1970. *Proclo. Commento alla Rebbblica di Platone*, a cura di Michele Abbate, Testo greco a fronte, Milano, 2004 を参照する

哲学原典研究Ⅵ（秋学期）

プラトン『国家』講読

教授 堀 江 聡

助教授 納 富 信 留

講師 栗 原 裕 次

授業科目の内容：

春学期に引き続いてプラトン『国家』を読みすすめる。

倫理学特殊講義ⅠA（春学期）

カントの超越論的主観における想像力の意義

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

カントの『純粹理性批判』(第 1 版 1781 年, 第 2 版 1787 年) 原理論第 2 部門第 1 部「超越論的分析論」における「想像力(Einbildungskraft)」の役割と射程を、認識主観の総合機能との関連において考察する。ハイデガーのテキストは前年度の続きを読み継ぐ。

倫理学特殊講義ⅠB（春学期）

一神教の歴史と思想：古代と中世

講師 市川 裕

授業科目の内容：

一神教に属する 3 つの宗教, ユダヤ教, キリスト教, イスラム教の特徴を把握する当たり, ユダヤ教からの視点を中心に据えて, 地中海を挟んだ地域の宗教文化史を古代, 中世にわたって通覧する。

視点は, 私がユダヤ教を専門としていることから, ユダヤ教を通して, 他の 2 つの宗教の特長を引き出すというやり方を採用する。ユダヤ教は, 旧約聖書を唯一の「聖書」として, キリスト教とは異なる信仰態度を示し, 法秩序を包摂する点でイスラム教と類似した宗教共同体を形成して今日に至ったからである。

また, 日本に生きている以上, 一神教とは異なる特徴をもつ宗教伝統との比較考察に留意して特徴を把握したい。

宗教儀礼や美術, 歴史的イベントなどを知るために, できるだけビデオや CD など視聴覚教材を使いたい。

倫理学特殊講義ⅠC（春学期）ケアの倫理と制度Ⅰ

講師 川本 隆史

授業科目の内容：

心理学者キャロル・ギリガンが話題作『もうひとつの声』(1982 年) で「正義の倫理」と対置した「ケアの倫理」。これは「すべての人が他人から応えられ仲間に入れてもらえ, 一人ぼっちで置き去りにされ傷つけられるような人はいない」状態を理想とするもので, 葛藤状態にある複数の責任と人間関係のネットワークを重視し, 「文脈を踏まえた物語的な思考様式」によって目の苦しさの緩和を図ろうとする。本講義ではギリガンの問題提起を受けて始まった「正義 vs ケア」論争を手がかりにしながら, 両者の統合を心理的な成熟目標に定めるのではなく, 正義を「正し

い・まともな」という形容詞に差し戻すことによって、「まともなケア」あるいは「ケアの正しい分かち合い」をサポートする諸制度を構想する理路を探りたいと思う。可能な限り、日本の医療、教育、福祉の諸制度の検討も織り込むつもりである。

倫理学特殊講義ⅡA（秋学期）

カントの超越論的主観における想像力の意義

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

倫理学特殊講義ⅡAと同じ。

倫理学特殊講義ⅡB（秋学期）

一神教の歴史と思想：近世と近現代

講師 市川 裕

授業科目の内容：

一神教に属する3つの宗教、ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の特徴を把握するに当たり、ユダヤ教からの視点を中心に据えて、地中海を挟んだ地域の宗教文化史を近世と近現代にわたって通覧する。

春学期の項を参照。

倫理学特殊講義ⅡC（秋学期）

ケアの倫理と制度Ⅱ

講師 川本 隆史

授業科目の内容：

Iに引き続き、ケアの倫理と制度との《つなぎ目》を探る。

倫理学特殊講義ⅢA（春学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

“La Russie et l’Eglise Universelle” 1889 Paris: Savine 露訳 Россия и Вселенская Церковь 1911. Москва を中心とする宗教思想関連の文献を講読していきます。

倫理学特殊講義ⅢB（春学期）

Free Will I

訪問講師 エアトル、ヴォルフガング

授業科目の内容：

The issue of freedom and determinism is probably one of the most intensely discussed and certainly one of the most fascinating philosophical problems. This fascination is to a large extent due

to the fact that it is situated at the intersection of a number of philosophical disciplines, such as metaphysics, philosophy of mind, theory of science and ethics. In recent years, a significantly higher degree of clarity in determining the structure of the problem has been achieved (again) through the application of the analytical tools of modern logic and philosophy of language. In this first part of the course we shall try to get an idea of the standard positions such as compatibilism, incompatibilism, hard determinism, soft determinism and libertarianism. Subsequently, we shall deal with two particularly important contributions to the discussions of the last decades, namely Peter van Inwagen's so-called "consequence argument" and Harry Frankfurt's denial of the "principle of alternate possibilities". Assuming determinism van Inwagen argues as follows: if we have the ability to act otherwise, we must also be able to change the past or the laws of nature, and since we can neither alter the past nor the laws of nature we don't have the ability to act otherwise. According to Frankfurt, however, being able to act otherwise is precisely not necessary for acting freely. We need to find out who is right and why.

倫理学特殊講義ⅣA（秋学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

倫理学特殊講義ⅢAと同じ。

倫理学特殊講義ⅣB（秋学期）

Free Will II

訪問講師 エアトル、ヴォルフガング

授業科目の内容：

After the discussion of van Inwagen's and Frankfurt's arguments for and against the compatibility of freedom and determinism in part I of the course, we shall turn to a number of further aspects of the free will problem. We need to examine the nature of the relation between the agent and her actions. The key question will be whether this connection can be accounted for in terms of event causality or rather in terms of agent causality or whether it is non-causal altogether. We

shall also look at the philosophical implications of neuroscientific research on the activities of the brain in "voluntary" actions.

Another topic which has been widely discussed again in recent years is the compatibility of human free will and divine foreknowledge. Ideas originally developed by Boethius and Luis de Molina have turned out to be hugely influential as well as strikingly powerful. Moreover, they are dealing with a number of issues, such as the "logic of abilities", which are relevant for the final assessment of van Inwagen's case for incompatibilism.

倫理学特殊講義演習 I A (春学期)

休 講

倫理学特殊講義演習 I B (春学期)

Global Justice

教授 樽 井 正 義

訪問講師 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容 :

Having been focused almost exclusively on the structure of singular societies, contemporary political philosophy has only recently begun to tackle normative issues of a global scale. The most prominent example is John Rawls who reapplied his famous original position argument on the level of peoples. Strikingly enough and to the dismay of many of his followers, Rawls thinks that there are only extremely weak principles of redistribution operating globally in marked contrast to the demands within a liberal society. In reaction to Rawls's claims a lively debate developed as to whether it might be possible to derive far stronger principles of global distributive justice and what they might look like. Two issues turned out to be of crucial importance: is there an equivalent to the so-called difference principle according to which inequalities are only justified if they are to the benefit of the worst-off? Between which entities are these principles supposed to operate, between peoples or states or rather between individual human beings? We are going to look at these discussions in more detail without confining

ourselves to considerations of Rawls scholarship. Instead we shall also try to take into account different lines of thought.

倫理学特殊講義演習 II A (秋学期)

休 講

倫理学特殊講義演習 II B (秋学期)

生命倫理学

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容 :

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

倫理学特殊講義演習 III (春学期)

近代イギリス道徳哲学研究

助教授 柘 植 尚 則

授業科目の内容 :

この授業では 17~19 世紀の近代イギリス道徳哲学について考察する。近代イギリス思想が共通の課題としたのは「人間本性」であった。多くの思想家が人間本性について考察し、それに基づいて倫理・法・政治・経済・社会について考察を進めている。こうした考察は「道徳哲学」と呼ばれており、それが近代イギリス思想の一つの伝統であった。授業では、近代イギリス道徳哲学の古典を講読し、それについて議論しながら、人間本性論を中心に近代イギリス道徳哲学の諸潮流について検討する。本年度は、昨年度に引き続き、David Hume, *A Treatise of Human Nature* を取り上げる。

倫理学特殊講義演習 IV (秋学期)

近代イギリス道徳哲学研究

助教授 柘 植 尚 則

倫理学特殊講義演習 III と同じ

倫理学原典研究 I (春学期)

カントの国際政治哲学

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容 :

Immanuel Kant: *Zum ewigen Frieden*. に関する二次文献(独文)を講読する。

倫理学原典研究Ⅱ（秋学期）

Immanuel Kant: Zum ewigen Frieden

教授 樽井正義

訪問講師 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容:

Kants Abhandlung zum ewigen Frieden ist sein wichtigstes Werk zur politischen Philosophie, das schon zu seinen Lebzeiten eine fulminante Wirkung erzielte und ungewöhnlich breit rezipiert wurde. Äußerer Anlaß war der Friede von Basel im Jahr 1795, mit dem Preußen aus dem ersten Koalitionskrieg gegen das revolutionäre Frankreich ausschied. Kants Schrift ist selbst nach dem Muster eines Friedensvertrages aufgebaut, nur hat sie nicht einen partikularen Frieden zum Ziel, sondern einen Friedenszustand zwischen allen Völkern auf der Grundlage einer global gültigen Rechtsordnung. Politische Philosophie ist für Kant deshalb in erster Linie Rechts- und Staatsphilosophie, und diese ist wiederum in Termini der Moralität formuliert. Dies heißt allerdings nicht, wie man ihm oft vorgeworfen hat, daß Kant eine "idealistische" Theorie der internationalen Beziehungen verträte, vielmehr versucht er realistische, an Hobbes orientierte Überlegungen mit einem idealistischen Ansatz zu verknüpfen, und zwar durch eine geschichtsphilosophische These. Ob dies gelingt und heute noch zu überzeugen vermag, werden die zentralen Fragen sein, mit denen wir uns auseinandersetzen haben. Daneben wird zu erörtern sein, von welchen Prinzipien globaler distributiver Gerechtigkeit Kants ewiger Friede getragen sein soll.

倫理学原典研究Ⅲ（春学期）

講師 杉山直樹

授業科目の内容:

ベルクソンの『時間と自由』を原書で精読する。第2章から始める。

倫理学原典研究Ⅳ（秋学期）

講師 杉山直樹

授業科目の内容:

ベルクソンの『時間と自由』を原書で精読する。第

2章から始める。

美学美術史学専攻

美学特殊講義Ⅰ（春学期）

美学における基礎概念の研究Ⅰ

講師 佐々木 健一

授業科目の内容:

参考書に挙げてある『美学辞典』の内容を発展させる形で、美学上の基礎概念を講ずる。すなわちこの本でとり上げていない重要概念を毎回1つずつ取り上げる。

美学特殊講義Ⅱ（秋学期）

美学における基礎概念の研究Ⅱ

講師 佐々木 健一

授業科目の内容:

参考書に挙げてある『美学辞典』の内容を発展させる形で、美学上の基礎概念を講ずる。すなわちこの本でとり上げていない重要概念を毎回1つずつ取り上げる。

美学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 大石昌史

授業科目の内容:

美学に関する一定のテーマについて専門的な内容の講義を行う。大学院生を対象とする講義の目的は、定説化した知識の整理や伝達ではなく、参考文献の批判的な紹介やテキスト解釈上の問題点の指摘を通じて、美学研究の具体例を示すことにある。修士論文の作成については随時指導する。

本年度は、「日本の美意識と場の論理」について講義する。

美学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 大石昌史

授業科目の内容:

美学・芸術学における基本的な文献の講読・注釈演習、および、参加者による各自の研究テーマに関する口頭発表という授業形態をとる。参加者各人の関心を考慮しながら、美学および芸術学諸分野から著作・論文を選択し、その講読を通じて、翻訳・注釈の実践的な訓練を行う。また、各人の修士論文のテーマに即した口頭発表の原稿作成に際して、事前事後に、その主

張・構成・表現等に関する助言・添削指導を行う。

美術史特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

美術史特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

美術史特殊講義Ⅲ（春学期）

西洋美術史研究の視点と方法

教 授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

今日、美術史研究の領域は作品・作家研究にとどまらず、拡大・多様化しており、さまざまな研究テーマが重層・錯綜している。研究テーマと研究方法には密接な関連があるので、研究者は自らの研究関心・視点を自覚的に把握し、それにもっとも相応しい方法を選択する必要がある。授業は、担当者および履修者が各自の研究テーマとその研究方法を発表し、履修者全員がそれぞれの視点と比較検討する、質疑応答・討論を通じて、よりの確なテーマと有効な方法を探求する。

美術史特殊講義Ⅳ（秋学期）

西洋美術史研究の視点と方法

教 授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

美術史特殊講義Ⅲと同じ。

美術史特殊講義Ⅴ（春学期）

美術と宗教

教 授 前 田 富士男

授業科目の内容：

20世紀美術の制作ならびに作品の大きな特徴として、宗教性への接近があげられる。ボルタンスキーの祭壇のインスタレーションをはじめ、キーファーやライナーあるいはライブやヴィリケンス、さかのぼってベーコンやカンディンスキーなど、作品例に事欠かない。芸術の終焉、宗教の終焉——べつだん現代にあって、かつて19世紀に終焉を予告された二つの領域が寄り添って終わりの床についているわけではあるまい。美的価値と聖なるもの、記念碑と聖遺物、制作と儀礼、驚きと信、崇高と帰依、そしてケリュグマ、あるいはグノーシス。昨年度にひきつづいて、近現代美術に特有なこうした諸問題を多面的に検討したい。参加者の能動的な思索と積極的な提言を期待する。授業

の素材は、この5年間にドイツほか欧米で発表された論考である。もちろん、ドイツ語に知識がないことはなんら問題にならない。

美術史特殊講義Ⅵ（秋学期）

美術と宗教

教 授 前 田 富士男

授業科目の内容：

美術史特殊講義Ⅴの受講を前提とする。参加者の研究領域に即して、美術と宗教をめぐる考察を発表して、討議する。テキストの講読もつづける。

美術史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教 授 林 温

授業科目の内容：

美術史の研究には古文書の読解が不可欠である。適当な古文書を選定し、参加者の輪読と討議、さらに記事内容に関連する遺品・文献の検討等を通して、美術史研究の方法を習得する。さらに、修士論文作成の指導を行う。

美術史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教 授 林 温

授業科目の内容：

美術史の研究には古文書の読解が不可欠である。適当な古文書を選定し、参加者の輪読と討議、さらに記事内容に関連する遺品・文献の検討等を通して、美術史研究の方法を習得する。さらに、修士論文作成の指導を行う。

美術史特殊講義演習Ⅲ（春学期）

祭壇画研究

助教授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

中世・ルネサンス・バロック・近代における祭壇画を論じる。特に、14-15世紀イタリアの祭壇画の類型に関する分類、図像内容、設置位置と光の表現などに注目してみたい。

美術史特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

祭壇画研究

助教授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

中世・ルネサンス・バロック・近代における祭壇画を論じる。特に、14-15世紀イタリアの祭壇画の類型

に関する分類、図像内容、設置位置と光の表現などに注目してみたい。

音楽学特殊講義Ⅰ（春学期）

音楽学の方法論

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義Ⅱ（秋学期）

音楽学の方法論

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

本講義は、音楽学で修士論文を書くための研究会と理解してください。論文の題目は自由ですが、学問的方法論を身につけるためには、批判に値する先行研究がある分野が望ましいと思います。また必要な場合は、修士論文の個別指導もおこないます。

音楽学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

休講

音楽学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休講

芸術学研究Ⅰ（A）（春学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

春秋各学期を通じバッハ＜フーガの技法＞BWV 1080 の分析を行なう。

芸術学研究Ⅰ（B）（春学期）

16～17 世紀の北イタリアおよびフランスにおける芸術パトロネージの実態とその研究

教授 美山良夫

授業科目の内容：

近年、丹念な文献、古文書調査によって 16～17 世紀の北イタリアおよびフランスにおける芸術パトロネージの実態が明らかにされてきた。フランスにおける制度化の過程は、北イタリアの宮廷のパトロネージ

とは際だってことになった様相を呈した。その比較を行うじて、芸術作品のかれた社会的なコンテクストを検討し、それを解明した先行研究の方法を学ぶ。

芸術学研究Ⅱ（A）（秋学期）

音楽分析

講師 小鍛冶 邦 隆

授業科目の内容：

芸術学研究Ⅰ（A）に同じ

芸術学研究Ⅱ（B）（秋学期）

近代における芸術パトロネージの諸問題

教授 美山良夫

授業科目の内容：

現在芸術支援の位置づけ、意義について転換期を迎えているとされながら、それに対応した十分なプログラムが用意されているとはいえない。この問題意識にたちながら、近代の芸術支援を形成してきた諸構造を反省的に考察することにする。

芸術学研究Ⅲ（春学期）

工芸史

講師 西田 宏 子

授業科目の内容：

東洋陶磁を中心に漆工、金工など、広く見てゆく。文化史的な面と考古学的な視点も考えてゆきます。

芸術学研究Ⅳ（秋学期）

工芸史

講師 西田 宏 子

授業科目の内容：

交易の影響、市場の拡大、茶の湯の変遷など、工芸の展開に力のあった歴史を考えていきます。

芸術学研究Ⅴ（春学期）

芸術における先端技術

講師 内田 まほろ

授業科目の内容：

美術分野の研究、仕事におけるデジタルメディア利用方法の解説と実践的な技術習得。「デジタル」「メディア」「テクノロジー」「サイエンス」を利用した芸術の研究。

芸術学研究VI（秋学期）

芸術における先端技術

講 師 内 田 まほろ

授業科目の内容：

芸術学研究Vと同じ。

アート・マネジメント特殊講義I（春学期）

音楽研究入門＝さまざまな領域と文献・資料 音楽関連情報検索の実習

教 授 美 山 良 夫

講 師 清 水 嘉 弘

授業科目の内容：

アートを社会にひらき、その力を活かすとともに、アートの創造につなげるためには、さまざまなフェーズで、リソース（資源）のより高度なマネジメントが必要です。ここではそのリソースを、人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱のひとつにかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について検討します。

文化装置としての美術館・劇場の運営／経営、プログラム評価の理念と実践、各セクターによるアート支援の根拠とプログラムの更新、文化施設・団体の会計管理、パブリック・リレーションとコミュニケーション戦略などが切り口になります。

基本的な文献と事例の理解と検討のほか、ゲストを招聘して討論を予定しています。具体的な内容は、学生のバックグラウンドを勘案して決定します。

アート・マネジメント特殊講義II（春学期）

美術館経営の現状と展望—美術館は生き残れるか—

教 授 林 温

講 師 鈴 木 隆 敏

授業科目の内容：

美術館及び美術界を取り巻く環境は極めて厳しい状況にある。本授業では、現在、美術館（界）が抱える諸問題、国をはじめとする文化行政等を検討し、美術館の生き残る方途を探る。授業は経営現場等で豊富な経験を有する講師を適宜招き、具体的かつ実践的な内容とする。

アート・マネジメント特殊講義III（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義IV（秋学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義演習I（春学期）

教 授 美 山 良 夫

講 師 清 水 嘉 弘

授業科目の内容：

アート・マネジメントにおけるリソースを人と組織、場と施設、ファイナンス、情報とコミュニケーションに集約し、これらの柱にかかわる、あるいはこの4つの柱を横断するマネジメントの基本と今日的課題、その克服について、検討します。

問題・課題の抽出、分析、まとめサイクルの繰り返しになりますが、受講者はあらかじめ、指示されるケース、データを読み込んだり、ゲストを迎えてのディスカッションの前には関連領域について一定の理解をもつことが求められます。

アート・マネジメント特殊講義演習II（春学期）

都市と共存する美術館のあり方をめぐって

政策メディア研究科 教 授 上 山 信 一

DMC 教 授 岩 淵 潤 子

授業科目の内容：

昨今、美術館のあり方がしばしば議論になる。収支や入館者数、さらにもちろん内容についてである。しかしこれらは単に「美術館の問題」として片づけられない。実は行政の組織や制度、あるいは日本人の社会意識や経済構造と深くかかわっている場合が多い。この授業ではこうした広い文脈の中で美術館と都市の共存のあり方、都市の資源としての美術館のあり方を多角的に探る。

アート・マネジメント特殊講義演習III（春学期）

休 講

アート・マネジメント特殊講義演習IV（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義I（秋学期）

経営管理研究科 教 授 和 田 充 夫

授業科目の内容：

マーケティングの戦略体系の基礎を学んだ上で、美術、音楽、演劇などのアート分野におけるマーケティング実践を事例（ケース）で学ぶことによって、アート・マネジャーとしてのノウハウ、能力を高めること

を目的とした科目。講義，ケース分析，グループ・フィールド・ワークを中心に授業を進める。

アート・マーケティング特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅰ（秋学期）

経営管理研究科 教授 和田 充 夫

授業科目の内容：

アート・マーケティング特殊講義Ⅰと同じ。

アート・マーケティング特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

休 講

知的資産特殊講義（春学期）

アートのリスクマネジメントと保険

講 師 箱 守 栄 一

授業科目の内容：

美術展，舞台芸術，オペラ等のアートに係るリスクマネジメントと保険につき解説します。特にリスクマネジメント手法の確立されている美術展を中心に解説します。契約書の中の Liability 条項につき理解し，保険条件との関係を解説します。

知的資産特殊講義演習（春学期）

休 講

芸術著作権演習Ⅰ（春学期）

アートマネジメントにおける著作権の位置付とその基礎

講 師 北 村 行 夫

講 師 大 井 法 子

授業科目の内容：

著作権及び著作隣接権について基本的な理解を身につけることを本講義の目標とします。

芸術著作権演習Ⅱ（春学期）

休 講

芸術資源デザイン演習Ⅰ（アート・アーカイブの構築・運用・展開）（秋学期）

教 授 前 田 富士男

教 授 林 温

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

慶應義塾大学アート・センターは，土方巽アーカイブを中心に，アート・アーカイブを構築，さらに拡充を図りつつある。土方巽アーカイブを例にしながら，アート・アーカイブの理念と使命，ヨーロッパにおける事例，アーカイブの運用と関連した実践的問題，アート・アーカイブを軸とした展開可能性を多角的に，すなわち感性教育，芸術教育，デジタル化とアーカイブとの間にある問題，文化財の保存と活用の観点なども含め検討する。

また今後重視されなくてはならないアート・アーカイブのための人材とその養成について，海外事例をふまえ，検討することになっている。

芸術資源デザイン演習Ⅱ（秋学期）

休 講

芸術資源デザイン演習Ⅲ（秋学期）

休 講

芸術資源デザイン演習Ⅳ（秋学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅰ（秋学期）

教 授 美 山 良 夫

DMC 教 授 金 子 哲 理

講 師 桜 井 武

授業科目の内容：

この演習は，アート・マネジメント，アート・マーケティング，芸術資源デザイン，知的資産の科目群を学びながら，その知識の確認と実践的な展開をトレーニングする場として位置づけられます。各自が具体的なプロジェクトを構想し提案，その提案についてさまざまな角度から検討します。

この演習は，修士論文のテーマ策定にもつながります。

アート・プロジェクト総合演習Ⅱ（秋学期）

教 授 美 山 良 夫

DMC 教 授 金 子 哲 理

講 師 桜 井 武

授業科目の内容：

アート・プロジェクト総合演習Ⅰと同等の内容です。修士論文のテーマの検討や指導を含むことがあります。

アート・プロジェクト総合演習Ⅲ（秋学期）

休 講

アート・プロジェクト総合演習Ⅳ（秋学期）

休 講

史学専攻

日本史特殊講義ⅠA（春学期）

教 授 長谷山 彰

授業科目の内容：

『令集解』の講読を中心に律令制の成立過程や諸制度の運用の実態について考える。

日本史特殊講義ⅠB（春学期）

助教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

中世史料の講読を進めながら、中世社会の特質について考えていきます。

日本史特殊講義ⅡA（秋学期）

教 授 長谷山 彰

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅠAと同じ。

日本史特殊講義ⅡB（秋学期）

助教授 中 島 圭 一

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅠBと同じ。

日本史特殊講義ⅢA（春学期）

キリシタン史

助教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

キリシタン関係史料の講読を行なう。修士論文の指導も併せて行う。

日本史特殊講義ⅢB（春学期）

名誉教授 坂 井 達 朗

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告。福澤研究関係文書の解説。（井上角五郎宛書簡など）

日本史特殊講義ⅢC（春学期）

海外からみた幕末・維新期の日本

教 授 杉 山 伸 也

授業科目の内容：

『外国新聞に見る日本』第1巻、1852～1873（本編）（毎日コミュニケーションズ、1989年）をテキストとして使用し、『タイムズ』や『ノース・チャイナ・ヘラルド』などの報道記事を通して、幕末・維新期における日本について考察する。

日本史特殊講義ⅣA（秋学期）

キリシタン史

助教授 浅 見 雅 一

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅢAと同じ

日本史特殊講義ⅣB（秋学期）

名誉教授 坂 井 達 朗

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告。福澤研究関係文書の解説。（井上角五郎宛書簡など）

日本史特殊講義ⅣC（秋学期）

教 授 杉 山 伸 也

授業科目の内容：

日本史特殊講義ⅢCと同じです。

日本史特殊講義演習ⅠA（春学期）

教 授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

『播磨国風土記』の講読。『播磨国風土記』を手がかりに、古代の在地社会の具体像を点検していきたい。本年度は、昨年度に引き続き、揖保郡条の途中から読み進めていく。

日本史特殊講義演習ⅠB（春学期）

日本中世史を史料で読み解く

講 師 本 郷 和 人

授業科目の内容：

出席者と相談の上、記録・文書を読む。

日本史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教 授 三 宅 和 朗

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅠAと同じ。

日本史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

日本中世史を史料で読み解く

講師 本郷和人

授業科目の内容：

出席者と相談の上、記録・文書を読む。

日本史特殊講義演習ⅢA（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

対馬藩宗家文書を解説しながら、そこに描かれている日本と朝鮮文化の差異、日朝交流の実情、日本人町倭館の生活実態などを考える。

履修者は、予め原文を校訂し、現代語訳・解説等の予習をしたうえで授業に臨まなければならない。

日本史特殊講義演習ⅢB（春学期）

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代国家の「国民」としての海外在住日本人移民について検討する。素材として運動会と葬送を取りあげる予定である。また修士論文の準備も併せて行なう。

日本史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢAに同じ。

日本史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢBに同じ

東洋史特殊講義ⅠA（春学期）

アジア太平洋世界における「マイグレーションとエスニシティ」の総合的研究

教授 吉原和男

授業科目の内容：

内容：アジア域内およびアジアから北米やオーストラリアなどへ出た移民や一時滞在者のエスニシティをグローバルゼーションと関係づけて考察しながらも、トランスナショナルな生き方を模索する人々にも目配りして考察したい。

東洋史特殊講義ⅠB（春学期）

齊の文化

講師 原 宗子

授業科目の内容：

銀雀山出土漢簡の『晏子春秋』講読を手がかりに、齊を中心として、戦国諸地域の文化状況を考える。

東洋史特殊講義ⅠC（春学期）

『後漢書』祭祀志の講読

教授 桐本東太

授業科目の内容：

祭祀志の講読を通して、中国古代の祭祀儀礼のシステムについて考察する。

東洋史特殊講義ⅡA（秋学期）

アジア太平洋世界における「マイグレーションとエスニシティ」の総合的研究

教授 吉原和男

授業科目の内容：

内容：アジア域内およびアジアから北米やオーストラリアなどへ出た移民や一時滞在者のエスニシティをグローバルゼーションと関係づけて考察しながらも、トランスナショナルな生き方を模索する人々にも目配りして考察したい。

東洋史特殊講義ⅡB（秋学期）

齊の文化

講師 原 宗子

授業科目の内容：

春学期に同じ。

東洋史特殊講義ⅡC（秋学期）

『後漢書』祭祀志の講読

教授 桐本東太

授業科目の内容：

祭祀志の講読を通して、中国古代の祭祀儀礼のシステムについて考察する。

東洋史特殊講義ⅢA（春学期）

オスマン帝国における宗教と民族

講師 石丸由美

授業科目の内容：

オスマン帝国を特徴づけるものとして、多民族、多宗教世界であることをあげることができる。こうしたオスマン社会の特性を、特に非ムスリム、非トルコの

側からみることで、明らかにしていく。

具体的にはトルコ語文献講読を通して、オスマン社会の多民族性、多宗教性を考察する。

東洋史特殊講義ⅢB（春学期）

中世アラビア語史料講読①

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

後期マムルーク朝期のアラビア語年代記を内容的にも掘り下げて読み進める。本年度はマクリーズィー（1364～1442年）の『諸王朝知識の旅』をテキストとする。専売制で知られるスルターン・バルスバーイの治世に関する部分から始める予定である。

東洋史特殊講義ⅢC（春学期）

イラン現代社会論

講 師 鈴 木 均

授業科目の内容：

イランの映像文化と現代社会の関わりについて、学生の習得言語に応じてペルシャ語のテキストと一緒に読み進めていく。現在のところテキストとして考えているのは Gholam Heydari, *Forugh Farrokhzad va sinema*, Tehran, 1377.である。

東洋史特殊講義ⅣA（秋学期）

講 師 石 丸 由 美

授業科目の内容：

東洋史特殊講義ⅢAと同じ。

東洋史特殊講義ⅣB（秋学期）

中世アラビア語史料講読②

助教授 長谷部 史 彦

授業科目の内容：

春学期に引き続き、マクリーズィーの年代記を精読する。

東洋史特殊講義ⅣC（秋学期）

イラン現代社会論

講 師 鈴 木 均

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊講義ⅢC」の続き。但し出席者が大幅に入れ替わった場合はテキストの変更を含めて検討する。

東洋史特殊講義演習ⅠA（春学期）

中国都市史研究のフロンティア

講 師 妹 尾 達 彦

授業科目の内容：

中国大陸における都市の歴史を、生態環境の変遷と関連させて論じる。アフロ・ユーラシア大陸の大きな歴史の中で中国大陸の歴史を位置づけることをめざしている。ただ、限られた半年間の講義時間の中で、この問題をまんべんなく論じることは不可能である。そこで、この講義では、以下の点に絞って講義をすすめる予定である。最新の歴史学の研究成果を、できるだけわかりやすく講義してゆきたい。

- (1) アフロ・ユーラシア大陸の環境と歴史の構造
- (2) 都市・王権・国家の誕生をめぐる近年の見解
- (3) 中国大陸における都市の誕生
- (4) 中国大陸における古典王朝の形成とその崩壊
- (5) 4, 5世紀から6, 7世紀にかけての転換と都市―農村関係の形成
- (6) 中国大陸の再統一と都の建築

東洋史特殊講義演習ⅠB（春学期）

休 講

東洋史特殊講義演習ⅠC（春学期）

近代日本の植民地主義と東アジア社会の変容（1）

講 師 飯 島 渉

授業科目の内容：

この授業では、近代日本の植民地主義の展開が近代東アジア（中国、台湾、朝鮮、琉球・沖縄など）の社会にどのような影響を与えたのかを、社会制度の連続性と断絶性に注目しながら検討します。近代史研究において議論されている「近代性」の問題が焦点の一つです。なお、春学期は、主として、社会の「制度化」の問題に注目します。

東洋史特殊講義演習ⅡA（秋学期）

中国都市史研究のフロンティア

講 師 妹 尾 達 彦

授業科目の内容：

中国大陸における都市の歴史を、生態環境の変遷と関連させて論じる。アフロ・ユーラシア大陸の大きな歴史の中で中国大陸の歴史を位置づけることをめざしている。ただ、限られた半年間の講義時間の中で、この問題をまんべんなく論じることは不可能である。そこで、秋学期のこの講義では、以下の点に絞って講義

をすすめる予定である。最新の歴史学の研究成果を、できるだけわかりやすく講義してゆきたい。

- (1) 前近代都市と近代都市の違い
- (2) 前近代都市から近代都市への移行をめぐる諸問題
- (3) 中国大陸における前近代都市
- (4) 中国大陸における近代都市

東洋史特殊講義演習ⅡB（秋学期）

休 講

東洋史特殊講義演習ⅡC（秋学期）

近代日本の植民地主義と東アジア社会の変容（2）

講 師 飯 島 渉

授業科目の内容：

この授業では、近代日本の植民地主義の展開が近代東アジア（中国、台湾、朝鮮、琉球・沖縄など）の社会にどのような影響を与えたのかを、社会制度の連続性と断絶性に注目しながら検討します。近代史研究において議論されている「近代性」の問題が焦点の一つです。なお、秋学期は、特に、連続性と断絶性の問題を具体的に確認し、そのことが歴史研究の方法にどのような問題を提起しているのかを検討します。

東洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

近代トルコの宗教運動

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

トルコ共和国の成立後、世俗主義政策によってスーフィズムの教団は公には禁止されている。しかし、近年、トルコにおいてスーフィズムの運動は姿をかえて復興してきている。この講義演習ではこうした運動の原点といってもいいサイド・ヌールスイーをはじめた宗教運動について考えていきたい。地域的にはトルコを扱うが、イスラームの改革運動の流れをおさえていこうとするときアラブ、イランをやろうとする人にとっても必読の文献である。

東洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

明清時代の文献研究

教 授 山 本 英 史

授業科目の内容：

明清の社会を描いた史料の講義を行い、文献読解の基礎能力を養成する。

東洋史特殊講義演習ⅢC（春学期）

中東・イスラーム史研究文献講読

商学部 教 授 湯 川 武

授業科目の内容：

本授業は、中東・イスラーム史の研究文献の講読を通じて、専門的な知識と幅広い分野の理解を広め深めるとともに、歴史研究のさまざまな視点や方法についても学ぶことを目的とする。

履修者の問題関心に応じて、テキストは順次いくつか読むが、史料や方法論についても検討する。中世史、近現代史についての論文集的なものを選んで読むことになる。

また、内容の理解とともに、発表の仕方、レジュメの書き方、論文書き方などを身に付けることも本授業の目的の一つである。

東洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

中東イスラーム社会史自由研究

教 授 坂 本 勉

授業科目の内容：

受講者が春学期の終わりまでに作成したビブリオグラフィにしがたがってあらかじめ発表すべきテーマを決めておき、それにしがたがって各時間ごとに発表者がレジュメを切るといったかたちで授業を進めていくことにしたい。

東洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教 授 山 本 英 史

授業科目の内容：

東洋史特殊講義演習ⅢBと同じ。

東洋史特殊講義演習ⅣC（秋学期）

中東・イスラーム史研究文献講読

商学部 教 授 湯 川 武

授業科目の内容：

本授業は、春学期の東洋史特殊講義演習ⅢCの継続として行う。したがって、内容・目的ともにそれに準じる。

中東・イスラーム史の研究文献の講読を通じて、専門的な知識と幅広い分野の理解を広め深めるとともに、歴史研究のさまざまな視点や方法についても学ぶことを目的とする。

履修者の問題関心に応じて、テキストは順次いくつか読むが、史料や方法論についても検討する。春学期の進み方を見ながら。その後は中世史、近現代史につ

いての専論的なものを選んで読むことになる。

また、内容の理解とともに、発表の仕方、レジュメの書き方、論文書き方などを身に付けることも本授業の目的の一つである。

西洋史特殊講義演習Ⅰ（春学期）

助教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

助教授 吉 武 憲 司

授業科目の内容：

Guibert de Nogent, *Autobiographie* (Paris, 1981) のラテン語テキストを講読します。

西洋史特殊講義演習ⅢA（春学期）

ドイツ三月前期における急進主義の研究

教 授 神 田 順 司

授業科目の内容：

下記の文献の講読を中心に、ドイツ三月前期における急進主義の成立と発展の過程を思想的、運動史的な文脈の中で多面的に考察する。

西洋史特殊講義演習ⅢB（春学期）

教 授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

テューダ朝期の内政・外交に関わる文献を講読しつつ、修士論文作成の指導をする。

西洋史特殊講義演習ⅣA（秋学期）

教 授 神 田 順 司

授業科目の内容：

西洋史特殊講義演習ⅢAと同じ。

西洋史特殊講義演習ⅣB（秋学期）

教 授 清 水 祐 司

授業科目の内容：

テューダ朝の内政・外交に関わる文献を講読しつつ、修士論文作成の指導をする。

西洋史特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

西洋史特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

西洋史特殊講義Ⅲ（春学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教 授 大 森 雄 太 郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院初級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊講義Ⅳ（秋学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教 授 大 森 雄 太 郎

授業科目の内容：

西洋史特殊講義Ⅲと同じ。

民族学考古学特殊講義Ⅰ（春学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅱ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

民族学考古学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

助教授 杉 本 智 俊

授業科目の内容：

修士論文の作製に向けた指導を行う。各自が年数回程度レポートを作製し、発表を行い、履修者全員でそれに対する検討、議論を行う。また、適宜オリエント、地中海世界における考古学的調査の現状を紹介し、自分たちが報告書を書くという視点から分析する機会を持つ。

民族学考古学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

助教授 杉本智俊

授業科目の内容：

春と同じ

民族学考古学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

教授 阿部祥人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。

民族学考古学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

教授 阿部祥人

授業科目の内容：

この50年間に膨大な資料を蓄積してきた日本の先史時代研究は、同時に多くの問題点を抱えている。それら今日的な問題点を受講者と共に取り上げ、その解決策・今後の有効な分析方法について、検討していく。

史学特殊講義Ⅰ（春学期）

助教授 神崎忠昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅱ（秋学期）

助教授 神崎忠昭

授業科目の内容：

ヨーロッパ中世のラテン語文献を講読します。なおテキストについては、受講者と相談して決めます。

史学特殊講義Ⅲ（春学期）

休講

史学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

古文書学特殊講義ⅠA（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

江戸時代古文書の解読、特に初見での「速読能力」

を高めることを目的にしている。加えて、未整理文書の分類、整理法などを実習する。

本授業でテキストとする『伊丹家文書』は、津山藩大坂藩邸の文書で、一紙文書だけである。特に難解な近世書状の解読能力を高める指導を行う。

古文書学特殊講義ⅡA（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

古文書学特殊講義ⅠAに同じ。

国文学専攻

国文学研究Ⅰ（春学期）

風土記研究

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

播磨国風土記記事の調査報告をなす。数年試みてきたことのひとつに、可能な限り、三条西家本の文字を改変することなく、また文字の位置を移動させずに、分析する試みをなす。また単独例の少なくない播磨国風土記にみる習俗信仰について注意しながら丁寧に調べていく。

国文学研究Ⅱ（秋学期）

風土記研究

教授 藤原茂樹

授業科目の内容：

播磨国風土記記事の調査報告をなす。数年試みてきたことのひとつに、可能な限り、三条西家本の文字を改変することなく、また文字の位置を移動させずに、分析する試みをなすことを継続する。また単独例の少なくない播磨国風土記にみる習俗信仰について注意しながら丁寧に調べていく。

国文学研究Ⅲ（春学期）

教授 川村晃生

授業科目の内容：

修士論文のテーマをベースに、それを共有化して議論を進めたい。受講希望者は、あらかじめ申告すること。

国文学研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村 晃生

授業科目の内容：

国文学研究Ⅲに同じ。

国文学研究Ⅴ（春学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

和歌読解法の演習。

新風歌人の定数歌をとりあげる。今年度は、藤原良経『秋篠月清集』の「正治二年初度百首」後半。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究Ⅵ（秋学期）

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容：

和歌読解法の演習。

新風歌人の定数歌をとりあげる。今年度は、藤原良経『秋篠月清集』の「正治二年初度百首」後半。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究Ⅶ（春学期）

古典資料研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅷ（秋学期）

古典資料研究

教授 石川 透

授業科目の内容：

古典文学の資料を、写本を翻刻し、読み進めていく。

国文学研究Ⅸ（春学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

受講者各自が 40 枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

国文学研究Ⅹ（秋学期）

近代文学を対象とする論文批判

教授 松村 友視

授業科目の内容：

受講者各自が 40 枚程度の論文を提出・発表し、出席者間の厳密な批判と討議によって、さまざまな角度から詳細に分析・検討する。

国文学研究Ⅺ（春学期）

『源氏物語』浮舟巻を読む

講師 三角 洋一

授業科目の内容：

『源氏物語』浮舟巻を湖月抄により読みすすめる。しばらくは講読のかたちをとるが、各自関心をもったテーマを掘り下げて、発表するということにしたい。物語を読解するだけでなく、古注釈の世界についても考えをめぐらせることになる。

国文学研究Ⅻ（秋学期）

『源氏物語』浮舟巻を読む

講師 三角 洋一

授業科目の内容：

『源氏物語』浮舟巻を湖月抄により読みすすめる。しばらくは講読のかたちをとるが、各自関心をもったテーマを掘り下げて、発表するということにしたい。物語を読解するだけでなく、古注釈の世界についても考えをめぐらせることになる。

国文学研究ⅩⅢ（春学期）

遊里文学研究 (1)

講師 渡辺 憲司

授業科目の内容：

江戸時代から明治時代まで遊里（花街）を題材とした文学作品を取り上げながら、その作品の背景にある文化様相又作者と遊里の関係さらに遊里の歴史的状況などを学んでいきたい。

国文学研究ⅩⅣ（秋学期）

遊里文学研究 (2)

講師 渡辺 憲司

授業科目の内容：

江戸時代から明治時代まで遊里（花街）を題材とした文学作品を取り上げながら、その作品の背景にある文化様相又作者と遊里の関係さらに遊里の歴史的状況などを学んでいきたい。

国文学研究 XV (春学期)

ジェンダーの日本近代文学

講師 小平 麻衣子

授業科目の内容 :

ジェンダー論は決して女性だけのものではないが、かといって、新規な読みを提出するための方法の1つであるだけでもない。文学は、一般的なジェンダー規範に対する批判の場として、それらに抵抗もしてきたが、そうした営為と、社会からの女性の排除がどのような関係を結んでいるのか、テキストを通じて分析していく。あわせて、〈女性の主体化〉が言われる際の問題を考える。

対象とする時代は明治期後期から大正初期を予定している。

国文学研究 XVI (秋学期)

セクシュアリティの日本近代文学

講師 小平 麻衣子

授業科目の内容 :

ジェンダーやセクシュアリティによる集団について、文化的承認をめぐるポリティクスと、経済的な再配分の問題はどのような関係を結んでいるのだろうか。この講義では、田村俊子などの女性が〈文学〉で収入を得るようになり、しかし表舞台から消えていく時期、そしてその後の空白に男性作家が女性を表象していく事態をきっかけに、上記の関係性について考えてゆく。

国文学研究 XVII (春学期)

鷗外歴史小説を読む

講師 須田 喜代次

授業科目の内容 :

1912 (大正元) 年 9 月 13 日、明治天皇大葬の日、乃木希典の殉死事件が起こる。それから 5 日後の同月 18 日、鷗外はその最初の歴史小説「興津弥五右衛門の遺書」を脱稿する。以後彼は多くの歴史小説群を発表することになるが、本授業では、従来比較的言及されることの少ない作品を取り上げ、依拠資料との関係をふまえつつ鷗外歴史小説の世界を検討していきたい。

国文学研究 XVIII (秋学期)

鷗外歴史小説を読む

講師 須田 喜代次

授業科目の内容 :

春学期に続いて鷗外歴史小説を取り上げるが、秋学期は授業参加者が各自 1 篇の鷗外歴史小説を担当し、レポートする形が取れば良いと考えている。

国文学研究 XIX (春学期)

教授 川村 晃生

授業科目の内容 :

各自の研究対象から、「文学と自然」をテーマとしたテキストを選んで読解する。

国文学特殊研究 III と併設。

国文学研究 XX (秋学期)

教授 川村 晃生

授業科目の内容 :

国文学研究 XIX に同じ。国文学特殊研究 IV と併設。

国文学研究 XXI (春学期)

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容 :

12~17 世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者の研究主題の発表・討論を随時おこなう。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学研究 XXII (秋学期)

教授 岩松 研吉郎

授業科目の内容 :

12~17 世紀の散文テキスト諸種につき、調査・分析の演習をおこなう。あわせて、履修者の研究主題の発表・討論を随時おこなう。

春・秋学期継続履修のこと。

国語学研究 I (春学期)

教授 関場 武

授業科目の内容 :

仮名草子・戯作の中から数点を取り上げ講読・演習を行う。その際、書誌学的・国語史的研究方法の修得も併せ目ざす。本年度は清少納言の「枕草子」の影響作を主に取り上げる。

国語学研究 II (秋学期)

教授 関場 武

授業科目の内容 :

仮名草子の中から断本系統のものを選び、その特性を探る。今学期は「百物語」を中心に、講読・演習を

行う。

芸能史 I (春学期)

教授 野村 伸 一

授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の現況と歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつながりのものです。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた思想、価値の象徴体系であり、身体表現です。その解説は仏教や道教、民俗宗教(巫俗に代表される)についての一定の認識を必要とします。ここでは何よりも国家の枠をはずして、各地域の基層に潜む特質を考えていきます。それはすなわち東アジア各地の民衆文化との具体的な接点を探求することに通じます。

芸能史 II (秋学期)

教授 野村 伸 一

授業科目の内容：

東アジア祭祀芸能の現況と歴史について考えます。この講義は春学期、秋学期とひとつながりのものです。

祭祀芸能は、地域共同体および個々のイエの祭祀、儀礼のなかで育まれた思想、価値の象徴体系であり、身体表現です。その解説は仏教や道教、民俗宗教(巫俗に代表される)についての一定の認識を必要とします。ここでは何よりも国家の枠をはずして、各地域の基層に潜む特質を考えていきます。それはすなわち東アジア各地の民衆文化との具体的な接点を探求することに通じます。

演劇史 I (秋学期)

日本の古典演劇

教授 石川 透

授業科目の内容：

日本の古典演劇について、具体的な作品を取り上げて、さまざまな種類の演劇の姿を考察する。

演劇史 II (春学期)

西洋演劇史概説

理工学部 助教授 小菅 隼 人

授業科目の内容：

西洋演劇史の羅列的な知識よりも、具体的な作品を知る方が有益だと考えますので、各回、各時代の代表

的な戯曲を取り上げ概説します。講義のうち、30分程度を受講者による報告にあてます。その後、その作品を中心に、演劇思潮の流れを概説します。受講生は、各講義のために、毎週1作品(日本語)を読んでもくることが求められます。

斯道文庫書誌学講座 I (春学期)

斯道文庫 教授 川上 新一郎

授業科目の内容：

主として歌書・物語書の書誌のとり方を解説する。具体的には履修者と相談の上決める。

斯道文庫書誌学講座 II (秋学期)

教授 関場 武

授業科目の内容：

冊子や卷子本を使い、日本の文芸を研究する際に心得ておくべき基本的な知識の修得を目的とする。時代は室町・江戸期～明治・現代に至る。特に版本を中心に各種文献の実物を使い、実習を行ない、受講者諸君の体得を目ざす。

斯道文庫書誌学講座 III (春学期)

漢籍目録著録法

斯道文庫 教授 山城 喜憲

授業科目の内容：

書誌学の基礎的な知識を修得した上で、出来るだけ広く漢籍(中国人の著作)、準漢籍(漢籍に対する日本人の注釈書類)の多様な伝本に接しながら、調査の方法・著録の要領を習得することを目標として、実修を行います。受講者個々の研究状況に応じて、対象書目を選択することも可能です。実修と平行して、日本における漢籍の受容と伝流について概述します。

斯道文庫書誌学講座 IV (秋学期)

斯道文庫 助教授 高橋 智

授業科目の内容：

中国の目録学・版本学の概要

斯道文庫書誌学講座 V (春学期)

校べ勘える

斯道文庫 助教授 大沼 晴暉

授業科目の内容：

書誌学とはどういう学問か、その基盤となる考え方を説明します。

斯道文庫書誌学講座VI（秋学期）

書誌学入門（写本）

斯道文庫 助教授 佐々木 孝 浩

授業科目の内容：

文学に限らず、日本の古典籍（特に写本）を対象あるいは材料・資料として研究に用いたいと考える学生に対する講義です。なるべく多くの現物に触れながら、古典籍の知識やその接し方、見方を学びます。

日本漢文学Ⅰ（春学期）

教授 佐藤 道 生

授業科目の内容：

平安時代の対策に関する研究。

対策とは、大学寮紀伝道の最高課程に進んだ者（多くは文章得業生）に課せられる最終論文試験である。その問題文を策問、それに対する答えを対策と呼んだ。授業では『本朝文粹』『本朝統文粹』所収の策問・対策を受講者の会読というかたちで読み進めていく。

日本漢文学Ⅱ（秋学期）

教授 佐藤 道 生

授業科目の内容：

平安時代の対策に関する研究。

対策とは、大学寮紀伝道の最高課程に進んだ者（多くは文章得業生）に課せられる最終論文試験である。その問題文を策問、それに対する答えを対策と呼んだ。授業では『本朝文粹』『本朝統文粹』所収の策問・対策を受講者の会読というかたちで読み進めていく。

中国文学専攻

中国文学研究Ⅰ（春学期）

唐詩のエポック

講師 詹 満 江

授業科目の内容：

たとえば李白の詩には「黄葉」は詠じられていても「紅葉」は見えないが、白居易の詩には「紅葉」が多く詠われているように、それぞれの詩人の生きた時代の文学の特色はそれぞれの時代によって相違している。盛唐の李白と中唐の白居易との間にはエポックが存在しているのである。唐詩におけるエポックとは、いったいどのような指標によって、どのくらい確認で

きるのであろうか。具体的な例となる詩を読みつつ検討してみたい。

中国文学研究Ⅱ（秋学期）

唐詩のエポック

講師 詹 満 江

授業科目の内容：

中国文学研究Ⅰと同じ。

中国文学研究ⅢA（春学期）

助教授 杉野 元 子

授業科目の内容：

20世紀の中国文学作品を講読する。テキストについては、受講生と相談のうえ決める。

あわせて、随時受講生の研究主題の発表・検討をおこなう。

中国文学研究ⅢB（春学期）

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

博士課程、中国文学特殊研究Ⅰと同じ。

中国文学研究ⅣA（秋学期）

助教授 杉野 元 子

授業科目の内容：

中国文学研究ⅢAと同じ。

中国文学研究ⅣB（秋学期）

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

博士課程、中国文学特殊研究Ⅰと同じ。

中国文学研究Ⅴ（春学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

本講はいわゆる古白話文献をあつかう際の基礎知識を習得することを目的として、敦煌変文から宋元平話・明清小説にいたるまでの文学作品を選んで講読します。今年度は宋・元・明の短篇・中篇小説を読む予定。まず、古白話の史的展開の概説を聴講することによってそのアウトラインを理解し、その上で実際に作品を精読し、古白話の特徴や問題点等を把握してもらいます。

作品は輪番で読み進めます。担当者は事前に担当箇

所について、テキスト上の問題点・語句の解釈・翻訳等を含めた詳細なレジュメを準備してください。授業時にはそのレジュメに基づいて内容の検討を行います。

中国文学研究VI（秋学期）

中国古白話文献を読む（変文から明清白話小説）

教授 渋谷 誉一郎

中国文学研究Vと同じ。

中国文学研究VII（春学期）

教授 八木 章 好

授業科目の内容：

『聊齋志異』を読む。

任篤行輯校『全校会注集評聊齋志異』（齐鲁書社刊）を用いて、特定の数篇を清人の注評を含めて精読する。

中国文学研究VIII（秋学期）

教授 八木 章 好

授業科目の内容：

中国文学研究VIIと同じ。

中国文学研究IX（春学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣 文

授業科目の内容：

今年度（2005年度）は、唐の積皎然の『詩式』（原本五巻。今本一卷）を読みます。『詩式』は、両漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し、五格・十九体に分けたもので、唐代の詩論の代表的著作です。五巻本の第一巻は、詩歌言論について総論的に論じ、また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは、詩の五つの格調を言い、同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は、「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は、詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので、「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現内容にかかわるものと、「高」「逸」「気」「情」「思」「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのものとに分けられます。皎然は、「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており、「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

中国文学研究X（秋学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門脇 廣 文

授業科目の内容：

中国文学研究IXと同じ。

中国文学研究XI（春学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国文学研究XII（秋学期）

李漁研究

名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国語学研究I（春学期）

休 講

中国語学研究II（秋学期）

休 講

中国語学研究III（春学期）

教授 山下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学研究IV（秋学期）

教授 山下 輝 彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中日比較文学研究I（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「格調荘厳，氣象宏麗，最為可法」（胡応麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学研究Ⅱ（秋学期）

講 師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中日比較文学研究Ⅰと同じ。

英米文学専攻

中世英語英文学特殊講義Ⅰ（春学期）

教 授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

Sir Thomas Malory, *Le Morte Darthur* を Winchester MS と Caxton 版の比較研究によって書誌学的に解明する。

中世英語英文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教 授 高 宮 利 行

授業科目の内容：

中世英語英文学特殊講義Ⅰと同じ。

中世英語英文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

13-16 世紀のテキストを精読し、中世研究の方法論を実践的に体得することを目的とする。本年度は、ロマンス、散文フィクション、寓意文学などに注目し、中世のナラティブ・ジャンルの多様性を考える。

中世英語英文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教 授 松 田 隆 美

授業科目の内容：

春学期の「中世英語英文学特殊講義演習Ⅰ」の続き。

近代英米文学特殊講義Ⅰ（春学期）

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講 師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス 18 世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした 18 世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義Ⅰ（春学期）では、原典を精読して作品解釈の問題点を整理し、特殊講義Ⅱ（秋学期）では、関連する研究書の多読を通じて、研究のためのさまざまな視点を整備して行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

18 世紀英文学を通じて、近・現代の出発点を確認する

講 師 原 田 範 行

授業科目の内容：

イギリス 18 世紀は、詩、小説、伝記、批評など、さまざまな文学ジャンルが、変化・分化・確立してくる時代であり、またジャーナリズムや著作権論争も含め、印刷出版文化が今日的な相貌を帯び始める時期でもあります。本講義の目的は、こうした 18 世紀の英文学作品を精読しながら、作品解釈と研究のための基礎的事項を確認し、その方法論を検討していくことにあります。特殊講義Ⅰ（春学期）では、原典を精読して作品解釈の問題点を整理し、特殊講義Ⅱ（秋学期）では、関連する研究所の多読を通じて、研究のためのさまざまな視点を整備して行きます。これらの講義や演習を通じて、履修者の皆さんは、私たち自身も少なからずその一部を構成している、近・現代文学と文化の出発点を確認することができると思います。

近代英米文学特殊講義演習ⅠA（春学期）

Henry Adams とヨーロッパとアジア

講 師 高 田 康 成

授業科目の内容：

Henry Adams の作品を「デモクラシーもの」、

「ヨーロッパもの」、「アジア太平洋もの」と暫定的に区分してそれぞれの特徴を見る。それを踏まえた上で、「自伝」のコンテクストに戻して再検討してみたい。

近代英米文学特殊講義演習ⅡA（秋学期）

Henry Adams とヨーロッパとアジア

講師 高田 康成

授業科目の内容：

Henry Adams の作品を「デモクラシーもの」、「ヨーロッパもの」、「アジア太平洋もの」と暫定的に区分してそれぞれの特徴を見る。それを踏まえた上で、「自伝」のコンテクストに戻して再検討してみたい。

現代英米文学特殊講義ⅠA（春学期）

講師 富士川 義之

授業科目の内容：

文学と絵画の関連について考察したい。今年度は Venice を描いた文学と絵画を中心に授業を進める。特に Turner と Ruskin をめぐってさまざまな話題を提供できればと願っている。Venice をめぐる旅の精神史にも注目したい。

現代英米文学特殊講義ⅠB（春学期）

Narratology 研究

講師 出 淵 敬子

授業科目の内容：

イギリス小説を中心に、英語で書かれた文学テキストをいかに分析するかというくり返し論じられてきた主題について、改めて検討してみる。教室ではテキストとして、長らく日本の大学で教えられてきた Professor George Hughes が豊富な経験に基づいて体系的に narratology について論じた *Reading Novels* を使う。本書の特徴は、抽象的な理論のみでなく、実践的な小説分析の方法論をめざし、新しい批評理論も取り入れながら一方に偏らない広い視野のなかで小説研究法を探っている点にある。

各項目につけられた英米小説からの引用文は非常に多岐にわたっているため、出席者の専門をいかしながら、随時寄り道を楽しみつつ、それらをより深く追求していきたい。各人が小説とはなにか、どのような研究法が適当か等という問題を再考するきっかけになれば幸いである。

現代英米文学特殊講義ⅠC（春学期）

休 講

現代英米文学特殊講義ⅡA（秋学期）

講師 富士川 義之

授業科目の内容：

現代英米文学特殊講義ⅠAと同じ。

現代英米文学特殊講義ⅡB（秋学期）

Narratology 研究

講師 出 淵 敬子

授業科目の内容：

現代英米文学特殊講義ⅠBと同じ。

現代英米文学特殊講義ⅡC（秋学期）

休 講

現代英米文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

19世紀末から第一次世界大戦後までのイギリス小説

教授 河内 恵子

授業科目の内容：

19世紀末から1930年代のいわゆる canon の小説を考察しながらイギリス小説の変遷をみる。

秋学期は同時代を、「文学史の中心には出てこない作品」を通して考える。

現代英米文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

19世紀末から第一次世界大戦後までのイギリス小説

教授 河内 恵子

現代英米文学特殊講義演習Ⅰを参照。

英語学特殊講義ⅠA（春学期）

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容：

This course introduces the pronunciation, spelling and grammar of Old English through reading simple prose.

英語学特殊講義ⅠB（春学期）

言語人類学

教授 唐 須 教 光

授業科目の内容：

意味論を扱います。

英語学特殊講義 I C (春学期)

認知言語学の理論的基盤

講師 西村 義樹

授業科目の内容:

認知言語学の理論的基盤

認知言語学をこれから本格的に学びたい人や、その理論的基盤を再確認したい人とともに、「この理論のどこが(他の理論に対して)「認知(論)的」と言えるのか?」、「どのような経緯で出現した(先行理論といかなる対立・継承関係にある)理論なのか?」、「(他の理論とは異なる)どのような言語(の知識)の全体像を描こうとしているのか?」、「特定の現象に対してどのような意味で(他の理論よりも)その本質の解明に貢献していると言えるのか?」、「他の理論との優劣を経験的(empirical)に決定することがそもそも可能なのか?」等の根本的な問いに取り組んでいく。予備知識は特に必要ないが、認知言語学になじみのない方には、以下の参考書の中からどれか一点でも(講義と平行してでもよいから)お読みになることをお勧めする。

英語学特殊講義 I D (春学期)

レキシコン理論—語の意味へのアプローチ

経済学部 教授 杉岡 洋子

授業科目の内容:

統語理論や意味理論の発展とともに、レキシコンは単なる「辞書」ではなくなり、語彙情報が持つ一般的な特性を明らかにするレキシコン研究が盛んになってきました。この科目では、レキシコンに統語部門のような生成能力を持たせ、豊かになった語彙情報を使って統語現象を説明する生成レキシコン理論(*The Generative Lexicon*, Pustejovsky 1995)を中心に、多義性の問題、事象構造、名詞の意味構造などについて学びます。講義と演習形式の両方を使い、英語や日本語のデータを各自が集め分析する課題を通して、レキシコン理論の基礎と文法理論との関わりが理解できるようになることをめざします。

英語学特殊講義 I E (春学期)

Chomsky on Language, Democracy, and Education 1

言語文化研究所 助教授 北原 久嗣

授業科目の内容:

言語、民主主義、教育に関するチョムスキーのインタビュー、講演、また論文を読む。「生存している最も重要な知識人」であり、「これまでの傑出した思想

家の一人」(*New York Times Book Review*, February 25, 1979)の影響最たる思想の幾つかを網羅的に紹介する。

英語学特殊講義 I F (春学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容:

言語の認知科学の主要論点のいくつかをとりあげ、文献を読んだり、議論したりする。認知言語学の講義ではないので誤解のないよう。受講予定者は第一回目の講義にかならず出席のこと。やむをえない都合で出席できない場合は、かならず事前に担当者に連絡のこと。

英語学特殊講義 I G (春学期)

発話解釈に関する語用論的研究

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容:

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間は、なぜかくも不完全な言葉を用いて意図を伝達できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、を論じる。とくに、言葉によって明示的に伝達される部分と非明示的に伝達される部分の区別は何か、メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を現代語用理論として注目されている関連性理論(Relevance Theory)の立場から論じる。

英語学特殊講義 II A (秋学期)

Elementary Old English

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容:

In this course, we shall read Old English prose and verse from variety of genres.

英語学特殊講義 II B (秋学期)

教授 唐須 教光

授業科目の内容:

意味論を扱う。

英語学特殊講義 II C (秋学期)

認知言語学の理論的基盤

講師 西村 義樹

授業科目の内容：

英語学特殊講義 I C と同じ。

英語学特殊講義 II D (秋学期)

経済学部 教授 杉岡 洋子

授業科目の内容：

英語学特殊講義 I D の継続。

英語学特殊講義 II E (秋学期)

Chomsky on Language, Democracy, and Education 2

助教授 北原 久嗣

授業科目の内容：

英語学特殊講義 I E の内容を継続します。

英語学特殊講義 II F (秋学期)

言語の認知科学

言語文化研究所 教授 大津 由紀雄

授業科目の内容：

英語学特殊講義 I F の継続

英語学特殊講義 II G (春学期)

発話解釈に関する語用論的研究

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容：

われわれは言葉を使って情報を伝達するが、そこで用いられた言葉の意味は、伝達内容という点ではきわめて不完全である。人間は、なぜかくも不完全な言葉を用いて意図を伝達できるのか、言葉によって伝達される内容は何か、を論じる。とくに、言葉によって明示的に伝達される部分と非明示的に伝達される部分の区別は何か、メタファーやアイロニー、メトニミーなどの解釈はいかにして生じるか、詩的言語の解釈は何か、という問題を現代語用理論として注目されている関連性理論 (Relevance Theory) の立場から論じる。

英語学特殊講義演習 I (春学期)

教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容：

This course is primarily designed for students who are preparing to write M.A. dissertations. It will focus on the techniques required to produce a logical, concise presentation of an academic

argument. After receiving instruction in the theory and practice of English rhetoric (as required), students will be expected to present papers for discussion in class.

英語学特殊講義演習 II (秋学期)

教授 アーマー, アンドルー J.

授業科目の内容：

英語学特殊講義演習 I と同じ。

英語史特殊講義演習 I (春学期)

史的資料による英語の通時的的研究

講師 小倉 美知子

授業科目の内容：

Old English *Boethius* のデジタル化が 2 年以内になされるのを前に、散文訳、韻文訳、Chaucer's *Boece* 等の比較による通時的読解を行う。一つの原文の通時訳は語彙的には訳語の選択、借入語と本来語の意味の相違、借入概念の語彙化など様々な問題を含み、文体的には散文・韻文の訳出の仕方の違い、他の言語訳からの影響、訳者のスタンスの問題などが関係する。

中世は前期・後期を分けず、文学と語学を区別しないという担当者の認識に基づき、一つの作品の英語訳の史的变化を探る。

英語史特殊講義演習 II (秋学期)

講師 小倉 美知子

授業科目の内容：

英語史特殊講義演習 I と同じ。

米文学特殊講義 I (春学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義 II (秋学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容：

旧来の文学史的言説を意識しながらアメリカ文学思想史の可能性を考える。

米文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

Theodore Dreiser の *The Financier* を読む

講師 折島 正司

授業科目の内容：

この小説とこの小説についての批評文献を読み、20世紀へのアメリカ社会の転換期におけるアメリカ・ビジネス、カルチャーについて考える。

米文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

Theodore Dreiser の *An American Tragedy* を読む

講師 折島 正司

授業科目の内容：

この小説とこの小説についての批評文献を読んで、1920年代アメリカ文化の状況について考える。また、この作家特有のナラティブ・パワーについて考える。

比較文学Ⅰ（春学期）

小説はどのように書かれているかⅠ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

小説を、その思想やメッセージの側からでなく、「かたち」の側から読んでいくとどのようなことが分かるか、あるいは、小説とはどのような書かれ方をしているのか、ということを考えてみる。テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、具体的な小説作品を読みながら、小説の「かたち」を読み解いてみる。便宜的にナラトロジーに関する理論書に従って講義を進めるが、異なる立場からの理論的枠組みをも参照し、また日本の小説からの引例をふんだんに盛り込むことで、より広い視野から小説の書かれ方を考えることにする。

[春学期] はじめに文学的テキストと文学的レトリックに関する基本的概念の紹介を行い、テキストの構造を分析する際に必要とされる概念的枠組みの解説を行う。構造主義以来の様々な文学理論の成果を生かしながら、主に日本近代文学と英米文学から例を引きつつ、具体的に考えてゆきたい。

比較文学Ⅱ（秋学期）

小説はどのように書かれているかⅡ

講師 菅原 克也

授業科目の内容：

小説を、その思想やメッセージの側からでなく、「かたち」の側から読んでいくとどのようなことが分

かるか、あるいは、小説とはどのような書かれ方をしているのか、ということを考えてみる。テキストの構造に着目する様々な批評理論を参照しつつ、具体的な小説作品を読みながら、小説の「かたち」を読み解いてみる。便宜的にナラトロジーに関する理論書に従って講義を進めるが、異なる立場からの理論的枠組みをも参照し、また日本の小説からの引例をふんだんに盛り込むことで、より広い視野から小説の書かれ方を考えることにする。

[秋学期] 春学期の講義の流れを受けて、小説の「かたち」に関する議論を、ナラトロジーの枠組みから紹介してゆく。春学期同様、主に日本近代文学と英米文学から例を引きつつ、具体的に考えてゆきたい。

古典文学ⅠA（春学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

昨年に続いて異色の古典学者 John Gould の論文集 *Myth, Ritual, Memory, and Exchange: Essays in Greek Literature and Culture* (Oxford University Press, 2001) の中から受講者の関心のありそうな論文を選び、さまざまな角度から問題にアプローチしてみたい。受講に際して古典語の知識は不可欠ではないが、邪魔になることもない。

古典文学ⅠB（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

アリストテレスの『詩学』を読み、その作品論をとおして、古典古代世界における文学の役割を考える。初回に発表担当者を決め、毎時間その発表を中心に『詩学』のテキストを分析する。参加者はギリシャ語

古典文学ⅡA（秋学期）

教授 西村 太良

授業科目の内容：

Sourvinou-Inwood の近著 *Greek Tragedy and Athenian History* (2004) の中から前期の授業内容と関連がある部分を選んで、そこで取り上げられている諸問題について考えてみたい。

古典文学ⅡB（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の古典文学ⅠBと共通。講義内容は古典文

学 I B の項、参照。

文芸批評史 I (春学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容 :

文学批評理論はきわめて学際的な分野である。現代に限っても、ロシア・フォルマリズムや新批評、脱構築、ひいては構造主義から新歴史主義やポスト・コロニアリズム、クイア・リーディングへ至る歴史において、文学批評は何よりも自らの属する枠組み自体をたえまなく再検討し、その結果、今日では文学史と文化史を切り離して考えることはできなくなっている。そこには、いかなる文芸批評史の流れが作用していたのかを、根本に立ち戻って考え直す。

文芸批評史 II (秋学期)

教授 巽 孝之

授業科目の内容 :

文芸批評史 I の応用篇。

言語学特殊講義 I (春学期)

日本語の意味論研究

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容 :

主として日本語表現を材料にして意味論の問題を検討するが、必要に応じて他の言語との比較もおこなう。

言語学特殊講義 II (秋学期)

日本語の意味論研究

言語文化研究所 教授 西山 佑司

授業科目の内容 :

言語学特殊講義 I と同じ。

独文学専攻

ドイツ文学研究 I (春学期)

ゲーテ時代研究 X VI

教授 柴田 陽弘

授業科目の内容 :

「ノヴァーリス研究」

「ザイスの弟子たち」を読みながらノヴァーリス思想と十八世紀の自然観について考察する。あわせて学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学研究 II (秋学期)

ゲーテ時代研究 X VI

教授 柴田 陽弘

授業科目の内容 :

「ノヴァーリス研究」

「ザイスの弟子たち」を読みながらノヴァーリス思想と十八世紀の自然観について考察する。あわせて学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学研究 III (春学期)

教授 和泉 雅人

授業科目の内容 :

前年度に引き続いて *William Lovell* を講読する。途中から参加予定の諸君は、すでに読んだところなるべく読んできてほしい。

ドイツ文学研究 IV (秋学期)

教授 和泉 雅人

授業科目の内容 :

ドイツ文学研究 III と同じ。

ドイツ文学研究 V (春学期)

講師 渡邊 直樹

授業科目の内容 :

この授業では「市民悲劇と感傷主義」について論じた次の論文の第二部を読みながら古典的悲劇と市民悲劇との違いをピクリクの観点から理解することを目的とします。

Lothar Pikulik: *Literatur und Leben „Bürgerliches Trauerspiel“ und Empfindsamkeit* Böhlau Verlag Köln Wien 1981

Zweites Kapitel: *Von der heroisch-klassizistischen Tragödie Gottschedschule zum „Bürgerlichen Trauerspiel“*

なお、テキストは用意いたします。

ドイツ文学研究 VI (秋学期)

講師 渡邊 直樹

授業科目の内容 :

この授業では、次の論文集から数編選択して読みドイツ啓蒙主義についての理解を深めます。

Peter Pütz (Hrsg.): *Erforschung der deutschen Aufklärung. Neue Wissenschaftliche Bibliothek Literaturwissenschaft*, 1980

N. Luhmann, G. Lucács, R. Koselleck など

なお、テキストは用意いたします。

ドイツ文学演習 I (春学期)

Gottfried von Straßburg: Tristan を読む

講師 重藤 実

授業科目の内容 :

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Gottfried von Straßburg の宮廷叙事詩 Tristan を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

なお、受講学生の希望があれば、はじめに中高ドイツ語文法の解説をおこなう。

ドイツ文学演習 II (秋学期)

Gottfried von Straßburg: Tristan を読む

講師 重藤 実

授業科目の内容 :

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Gottfried von Straßburg の宮廷叙事詩 Tristan を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

ドイツ文学演習 III (春学期)

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容 :

Grundlagen der Kulturtheorie.

Ernst Cassirer: Versuch über den Menschen.
(Meiner. 1996)

Diese 1944 im amerikanischen Exil erschienene Schrift wird im Untertitel als „Einführung in eine Philosophie der Kultur“ bezeichnet. Das Buch bietet eine Zusammenfassung der Gedanken, die Cassirer in der „Philosophie der symbolischen Formen“ (1923-29) entwickelt hat: „Das Symbol wird zum Inbegriff der Gestalt des Wirklichen. Der Mensch lebt in einem symbolischen Universum, das er selbst erzeugt hat.“

Zu den symbolischen Formen, die Cassirer analysiert, gehören Mythos, Religion, Sprache, Kunst, Wissenschaft und Geschichte.

Cassirers Symboltheorie wird auch in der gegenwärtigen Kulturtheorie vielfach als

Grundlage eines Kulturbegriffs verstanden, der Kultur als Text begreift (Clifford Geertz: Dichte Beschreibung, 1973) oder die Weisen untersucht, wie Menschen sich die Welt symbolisch konstruieren (Nelson Goodman: Weisen der Welterzeugung, 1978, Sprachen der Kunst, 1976) .

Im Seminar soll diesen Grundlagen nachgespürt und auch ein Blick auf die Nachfolger geworfen werden.

Die Texte werden in Kopien verteilt.

ドイツ文学演習 IV (秋学期)

講師 ループレヒター, ヴァルター

授業科目の内容 :

ドイツ文学演習 III と同じ。

ドイツ文学演習 V (春学期)

Walter Benjamin の物語論

教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容 :

Walter Benjamin: Der Erzähler 講読。

ドイツ文学演習 VI (秋学期)

Walter Benjamin の物語論

教授 大宮 勲一郎

授業科目の内容 :

ドイツ文学演習 V の継続です。

ドイツ語学研究 I (春学期)

教授 中山 豊

授業科目の内容 :

ドイツ語学に関する最近の研究論文, 研究書を講読します。具体的な内容については参加者と相談の上決定しますが, 参考文献として以下の 2 点を挙げておきます。:

Eisenberg, P. (2004): Grundriß der deutschen Grammatik. 2Bde. Stuttgart/Weimar

Zifonun, G. u.a. (1997): Grammatik der deutschen Sprache. 3Bde. Berlin.

ドイツ語学研究 II (秋学期)

教授 中山 豊

授業科目の内容 :

ドイツ語学に関する最近の研究論文, 研究書を講読します。具体的な内容については参加者と相談の上決

定めますが、参考文献として以下の 2 点を挙げておきます。:

Eisenberg, P. (2004): Grundriß der deutschen Grammatik. 2Bde. Stuttgart/Weimar

Zifonun, G. u.a. (1997): Grammatik der deutschen Sprache. 3Bde. Berlin.

ドイツ語学研究Ⅲ（春学期）

中高ドイツ語入門（1）

理工学部 助教授 横山由広

授業科目の内容:

秋学期の「ドイツ語学研究Ⅳ」と合わせて中高ドイツ語（Mittelhochdeutsch）をはじめて学ぶ人のための授業で、中世ドイツ文芸を代表する作品からの抜粋を講読しながら、中高ドイツ語文法の初歩をひとつひとつ学習します。その際、ドイツ語教育に携わるにあたって知っておくことが望ましい、ドイツ語史のトピックを随時取り上げます。

ドイツ語学研究Ⅳ（秋学期）

中高ドイツ語入門（2）

理工学部 助教授 横山由広

授業科目の内容:

春学期の「ドイツ語学研究Ⅲ」の継続科目です。「ドイツ語学研究Ⅲ」と合わせて中高ドイツ語（Mittelhochdeutsch）をはじめて学ぶ人のための授業で、中世ドイツ文芸を代表する作品からの抜粋を講読しながら、中高ドイツ語文法の初歩をひとつひとつ学習します。その際、ドイツ語教育に携わるにあたって知っておくことが望ましい、ドイツ語史のトピックを随時取り上げます。

ドイツ語学演習Ⅰ（春学期）

Einführung in die Germanistik I

訪問講師（招聘）ドゥッペルータカヤマ，メヒティルド
授業科目の内容:

Als Einführung in das Magisterstudium werden grundlegende Kenntnisse der germanistischen Literaturwissenschaft vermittelt. Nach der Klärung von Grundbegriffen stehen praktische Aspekte im Mittelpunkt: Hilfsmittel für das Studium werden vorgestellt und Arbeitstechniken eingeübt.

ドイツ語学演習Ⅱ（秋学期）

Einführung in die Germanistik II

訪問講師（招聘）ドゥッペルータカヤマ，メヒティルド
授業科目の内容:

Fortsetzung der Veranstaltung “Einführung in die Germanistik I”. Im Mittelpunkt steht nun die Vorstellung von Interpretationsmethoden und literaturwissenschaftlichen Theorien.

仏文学専攻

中世仏語仏文学特殊講義Ⅰ（春学期）

中世フランス語入門

教授 川口順二

授業科目の内容:

13 世紀の散文を使って中世フランス語の入門をします。同時に文献学の基本を学び、フランス語に対する感受性を養い、文学作品を読解していく上で必要な知識をつけてもらいます。

中世仏語仏文学特殊講義Ⅱ（秋学期）

中世フランス語入門

教授 川口順二

授業科目の内容:

春学期に学習した、または他所で勉強した中世フランス語の知識を基にして、12 世紀の韻文を読みまします。13 世紀の散文より難度の高いテキストですが、学年末には思ったより以上に中世語が読めるようになっていくはずですよ。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

ルネサンス文学

教授 荻野安奈

授業科目の内容:

散文は Rabelais, 韻文は Pontus de Tyard を中心に、16 世紀の言語と心性を学ぶ。

中世仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

ルネサンス文学

教授 荻野安奈

授業科目の内容:

春学期の続き。

近代仏語仏文学特殊講義 I (春学期)

ベルギー象徴派の文学

教授 宮林 寛

授業科目の内容 :

ベルギー象徴派の詩人マックス・エルスカンの作品を読みながら韻文の解釈を「実践的に」学んでもらう授業です。

近代仏語仏文学特殊講義 II (秋学期)

フランス象徴派の文学

教授 宮林 寛

授業科目の内容 :

シャルル・ボードレールとステファヌ・マラルメの散文詩を精読し、注解の訓練をおこないます。

近代仏語仏文学特殊講義演習 I (春学期)

古典フランス語入門 I

助教授 片木 智年

授業科目の内容 :

古典フランス語の入門です。ラシーヌについて、「人間の言語においてこれほど美しい詩句」が書かれたことはないといったのはジードで、悲劇『アンドロマック』をして世界最高の戯曲といったのは浅利慶太です。この時代のフランス語は現代にいたるまで様々な作家のお手本となり、フランス人学生はみんな学校で一通りの作品を学びます。文字通り「クラシック」な教養となっているのです。したがって、フランス文化に親しみたい、あるいは将来的にフランス語・文学の専門家への道を考えているといった方に開かれた演習であり、現代フランス語さえできればよいという方には無益な努力を強いられる辛いだけの授業です。なお、授業では現代語つづりに書き直した古典悲劇の抜粋を題材としますが、徐々に 16, 7 世紀のエディションも紹介していきます。

近代仏語仏文学特殊講義演習 II (秋学期)

古典フランス語入門 II

助教授 片木 智年

授業科目の内容 :

前期の授業の続きです。前期で古典フランス語の入門を終えた方、もしくはすでにその知識を持っている方のみが履修可能です。授業で扱われる資料は当時のフランス語そのまま（現代語つづりに直していないもの）です。人文劇、バロック劇を通じてどんな風にフランスの演劇＝幻想産業が立ち上がってきたかを通史

的に追っていくことになるでしょう。

現代仏文学特殊講義 I (春学期)

LITTERATURE ET PEINTURE

訪問講師 シモン=及川, マリアンヌ

授業科目の内容 :

L'intérêt de la littérature pour les arts est ancien. Les Grecs et les Romains déjà goûtaient fort les descriptions d'œuvres d'art. Qu'ils cherchent à décrire fidèlement une peinture (transposition d'art), à raconter la vie d'un peintre (roman d'artiste), ou à inventer librement une histoire originale à partir d'une œuvre picturale, les écrivains n'ont cessé d'entretenir des liens variés avec le visible. Le cours, largement illustré, se propose d'étudier quelques œuvres littéraires des XIXème et XXème siècles particulièrement marquées par leur référence aux arts visuels.

現代仏文学特殊講義 II (秋学期)

Explication de textes littéraires

訪問助教授 ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容 :

Le semestre d'automne sera consacré à l'étude de textes littéraires du XIXème et XXème siècles. À partir d'extraits d'œuvres de genres divers (romans, nouvelles, poésie, théâtre, essais...) et de différents mouvements littéraires, nous tenterons de dresser un rapide panorama de la littérature française de cette période. Par ailleurs, l'accent sera mis sur la technique de l'explication littéraire, linéaire ou thématique.

現代仏文学特殊講義演習 I (春学期)

文学におけるパリの表象

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容 :

おそらくパリほど頻繁に文学の主題となり、絵や版面に描かれ、映画の舞台になった都市はない。この講義では、18 世紀以降の近代都市パリの変遷をたどりながら、文学、回想録、ジャーナリズム的著作などにおいてパリがどのように語られ、表象されてきたかを検証する。メルシエ、バルザック、フロベール、ボードレール、ゾラ、プルースト、ブルトン、アラゴン、ジュリアン・グリーンなどの作品を取り上げる。必要

に応じて絵画、版画、写真、ビデオなどの視覚資料を使用する。

現代仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 小倉 孝 誠

授業科目の内容：

春学期の続き。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅰ（春学期）

『ラモアの甥』講読

教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

授業はフランス語で行い、ディドロの傑作対話作品『ラモアの甥』を丁寧に読む。18世紀のフランス語、とりわけディドロの個性的な文体を、日本語を介在させずに味わうことが目的で、読み解きに必要なさまざまなツールの利用技術を併せて習得して貰う。日本人同士がフランス語で考え、喋るのは、けっこうきついものだが、キャンパスでフランス語に接する機会があまりない以上、お互いの訓練だと思って付き合っていたきたい。初めは辛いですが、慣れると、最後はメモ程度でけっこう話すようになるから不思議である。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

『ラモアの甥』講読

教授 鷲見 洋 一

授業科目の内容：

春学期の続きで、『ラモアの甥』を読む。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅲ（春学期）

フランス現代の文学・芸術理論

教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

ジョルジュ・バタイユの『文学と悪』の中のボードレール論を読みながら、バタイユの文学・芸術理論をサルトル、ブランショのそれと対比して考察します。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

フランス現代の文学・芸術理論

教授 立 仙 順 朗

授業科目の内容：

ジョルジュ・バタイユの『文学と悪』の中のジュネ論を読みながら、バタイユの文学・芸術理論をサルトル、ブランショのそれと対比して考察します。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅴ（春学期）

プルーストと絵画

教授 鈴木 順 二

授業科目の内容：

Marcel Proust と絵画の問題を扱います。*Proust et ses Peintres* (études réunies par Sophie Bertho, Éditions Rodopi, 2000) および関連する研究文献を読みながら、理解を深めたいと思います。

仏語仏文学特殊講義演習Ⅵ（秋学期）

プルーストと絵画

教授 鈴木 順 二

授業科目の内容：

春学期に続いて Marcel Proust と絵画の問題に関する研究文献を読みます。

図書館・情報学専攻

情報学特殊講義Ⅰ（春学期）

教授 田村 俊 作

授業科目の内容：

Rayward W.B. "The development of library and information science." *The Study of Information*, ed. by F. Machlup; U. Mansfield. New York, Wiley, 1983, p.343-363 を講読することを通じて、図書館情報学の歴史、「図書館学」と「情報学」、関連分野、最近の動向とその背景などについて考えたい。

情報学特殊講義Ⅱ（秋学期）

教授 田村 俊 作

授業科目の内容：

Rubin, R.E. *Foundations of Library and Information Science*. 2nd ed. Neal Schuman, 2004 の講読を通じて、図書館情報学について考えてみたい。

情報学特殊講義Ⅲ（春学期）

休 講

情報学特殊講義Ⅳ（秋学期）

休 講

情報学特殊講義演習 I (春学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報学特殊講義演習 II (秋学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

情報学特殊講義 I に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題について、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊講義 I (春学期)

教授 上田修一

授業科目の内容:

メディア論に関する文献、情報メディアの電子化と利用に関する国内外の論文の講読といくつかのトピックに関する発表を行います。

情報メディア特殊講義 II (秋学期)

教授 上田修一

授業科目の内容:

メディア論に関する文献、情報メディアの電子化と利用に関する国内外の論文の講読といくつかのトピックに関する発表を行います。

情報メディア特殊講義 III (春学期)

教授 倉田敬子

授業科目の内容:

情報メディア論、メディア研究の基本的文献の講読を通して、情報メディアとは何であるかを考えていく。

情報メディア特殊講義 IV (秋学期)

教授 倉田敬子

授業科目の内容:

科学コミュニケーションを研究するアプローチ、研究方法に関して検討します。特に、いわゆる質的研究の立場、方法、その成果を考えていきます。

情報メディア特殊講義演習 I A (春学期)

教授 上田修一

授業科目の内容:

修士論文指導を行います。

情報メディア特殊講義演習 I B (春学期)

教授 倉田敬子

授業科目の内容:

情報メディアを中心とする研究テーマを設定し、具体的な調査研究を進めます。テーマ設定、文献探索、調査計画といったプロセスを実際に体験してもらいながら、調査研究の技法や基礎知識を身につけてもらうことを目標とします。情報メディア特殊講義演習 I A と合同で行います。

情報メディア特殊講義演習 II A (秋学期)

教授 上田修一

授業科目の内容:

修士論文指導を行います。

情報メディア特殊講義演習 II B (秋学期)

教授 倉田敬子

授業科目の内容:

情報メディア特殊講義演習 I B で行った情報メディアを中心とする研究をまとめるとともに、修士論文のテーマを検討します。情報メディア特殊講義演習 II A と合同で行います。

情報検索特殊講義 I (春学期)

教授 細野公男

授業科目の内容:

情報検索手法・システムやデジタル図書館の開発・利用に関連する理論、問題点・課題、解決の方向について解説します。

情報検索特殊講義 II (秋学期)

教授 細野公男

授業科目の内容:

「情報検索特殊講義 I」で取り上げた話題をさらに展開し、種々の側面から解説します。

情報検索特殊講義 III (春学期)

休講

情報検索特殊講義 IV (秋学期)

教授 田村俊作

授業科目の内容:

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館利用者サービスの実施に係わる諸問題を、実習を交え実際に即して検討する。

情報検索特殊講義演習Ⅰ（春学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

情報検索あるいはデジタル図書館などの分野で修士論文を執筆しようとする学生を対象として、指導を行います。

情報検索特殊講義演習Ⅱ（秋学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

「情報検索特殊講義演習Ⅰ」と同じです。

情報システム特殊講義Ⅰ（春学期）

情報管理システムの経営

教授 高山 正也

授業科目の内容：

図書館の管理・運営問題を中心に、現代の社会における各種の情報資源管理の問題を、公共図書館を例にとりながら、経済的側面に重点を置きつつ分析・検討します。この時間は秋学期の「情報システム特殊講義Ⅱ」に続きます。

情報システム特殊講義Ⅱ（秋学期）

情報管理システムの経営

教授 高山 正也

授業科目の内容：

春学期の「情報システム特殊講義Ⅰ」を承けて、図書館の管理・運営問題を中心に、公共図書館を例にとりながら、経済的側面に重点を置きつつ分析・検討します。

情報システム特殊講義Ⅲ（秋学期）

図書館の公共性

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

図書館経営や図書館行政、図書館政策に関わる問題を取りあげます。今年度は、図書館＝無料貸本屋批判や図書館民営化論をうけて、図書館がもつ〈公共性〉とは何かを改めて考えることにします。

館種を問わず、多くの図書館には公的な資金が投入されていますし、「無料の原則」も貫かれています。昨年の著作権法改正により、書籍や雑誌にも貸与権が認められたにもかかわらず、図書館では従前通り、無承諾の貸出が許されています。さらに複製権に関しても、著作権法第31条は図書館に対し権利制限を認め

ています。これらは、図書館が〈公共性〉を有していることの端的な表れと考えることができます。

その一方で、図書館経営に民間活力の導入が叫ばれ、業務のアウトソーシングはもとより、運営面での住民（利用者）参加や大学図書館の地域開放、そして自己評価の公表が当然とされる時代です。図書館がもつ〈公共性〉は〈公益性〉と重なりつつも、時代とともにその内容を変えてきたように思われます。例えば、公共図書館は英語で public library と表現されますが、〈公共性〉は public の意味だけではなく、open や common, あるいは civic や governmental の意味をも帯びて用いられているのが実態です。

そこでこの授業では、ハーバーマスの「公共圏」ないし「公共空間」に依拠しながら、現代日本における図書館の〈公共性〉を再構築することを目指します。

情報システム特殊講義Ⅳ（秋学期）

休講

情報システム特殊講義演習ⅠA（春学期）

図書館の経営管理（修士課程の研究会）

教授 高山 正也

授業科目の内容：

図書館等の情報管理システムを対象とする経営管理的観点から、生涯学習機関としての図書館、アート・ドキュメンテーション、図書館の法令・会計規則等のテーマを中心に、個別の学習・研究指導を行います。この時間は「情報システム特殊講義演習ⅡA」に続きます。

情報システム特殊講義演習ⅠB（春学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報システム特殊講義演習ⅡA（秋学期）

図書館の経営管理（修士課程の研究会）

教授 高山 正也

授業科目の内容：

「情報システム特殊講義演習ⅠA」を承け、図書館等の情報管理システムを対象とする経営管理的観点から、生涯学習機関としての図書館、アート・ドキュメンテーション、図書館の法令・会計規則等のテーマを

中心に、個別の学習・研究指導を行います。

情報システム特殊講義演習ⅡB（秋学期）

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

調査研究法Ⅰ（春学期）

図書館・情報学の基本的な研究方法を学ぶ

教授 糸賀雅児

授業科目の内容：

図書館・情報学の基本的な研究方法について学びます。国内外の具体的な研究事例をもとに、主な研究方法の概要、意義、限界などを検討する予定ですが、特に「統計的方法」について、有意差検定の基本的な考え方が修得できることを目的とします。また、図書館・情報学の主要な専門雑誌についても、それぞれの特徴を理解してもらいたいと考えています。

調査研究法Ⅱ（秋学期）

休講

情報分析論Ⅰ（春学期）

助教授 原田隆史

授業科目の内容：

図書館・情報学の最近の海外研究論文の中から履修者各自が選択したものについて、その概要を発表し、全員で討議します。原則として、秋学期の情報分析論Ⅱとあわせて継続して履修してください。

情報分析論Ⅱ（秋学期）

助教授 原田隆史

授業科目の内容：

情報分析論Ⅰと同じ内容です。原則として、春学期の情報分析論Ⅰとあわせて継続して履修してください。

情報資源管理特殊講義Ⅰ（春学期）

図書館の経営と管理

教授 高山正也

授業科目の内容：

この授業では現実に起こった図書館の経営管理上の具体的な問題（ケース）を取り上げ、その解決策を履

修者とともに考えてゆく、事例研究による参加型の授業にしたいと思います。

ただわが国の図書館・情報学においてはこの事例研究（ケース・スタディ）という方法はほとんど未開拓で、この方法の基盤である事例（ケース）もほとんど作成されていません。そこで、受講者とともに、わが国の図書館実態に即した、ケースの開発も行いながら、授業をすすめたいと思います。開発するケースは主に、公共・大学・専門の各館種から採りたいと思います。

情報資源管理特殊講義Ⅱ（春学期）

大学図書館運営

教授 上田修一

授業科目の内容：

大学のおかれた状況との関連で大学図書館の運営を検討します。まず、現在の大学図書館の課題について論じ、次に各種ガイドラインから大学図書館運営の基礎的な問題を取り上げます。その後、組織、図書館員、外注、保存スペース、評価などについての受講者による発表を求めます。

情報資源管理特殊講義Ⅲ（春学期）

公共図書館の経営管理上の問題解決

教授 糸賀雅児

法学部 教授 大山耕輔

講師 熊谷弘志

授業科目の内容：

公共図書館の経営管理上の諸問題を取り上げて、その解決に向けた方策を互いに検討します。

今年度は大きく次の三つのテーマを用意しています。

- (1) 国と自治体のガバナンス変化と行政責任
- (2) 行政サービスのアウトソーシング（PFI、指定管理者制度、等）
- (3) 行政評価と図書館評価

これらの他にも以下のようなテーマが考えられますので、履修者の要望も最初の授業でお聞かせください。なお、授業期間中に教育基本法改正の論議が進めば、これが公共図書館にもたらす影響もとりあげたいと考えています。

- ・ファンドレイジング、資金調達
- ・住民参加とボランティア
- ・著作権法と公共貸与権
- ・公共図書館における危機管理

- ・子ども読書推進計画の実態
- ・各種課題解決支援サービス（ビジネス支援，子育て支援，等）
- ・レファレンス・サービスの普及戦略
- ・図書館と学校の連携・協力
- ・国の図書館行政・図書館政策の動向
- ・図書館利用促進のための情報リテラシー教育

情報資源管理特殊講義Ⅳ（秋学期）

資料組織法

講 師 平 野 美 恵 子

授業科目の内容：

図書館では，21世紀の知識社会の利用者ニーズに合ったサービスの再構築が喫緊の課題となっている。他方，図書館が扱う資料の媒体と形態は，ますます多様化しつつある。こうした時代にあって，資料組織法には，どのような変化が見られるのだろうか。

この授業では，米国議会図書館分類表を中心に，分類法における最新動向を探る。あわせて，わが国の図書館が抱える資料組織法上の問題点を受講生とともに洗い出し，その解決策を検討していきたい。

情報資源管理特殊講義Ⅴ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅵ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅶ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅷ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義Ⅸ（秋学期）

教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：

情報検索の基本的な考え方，現在の状況および問題点を主として利用者あるいは利用の観点から取り上げる。

情報資源管理特殊講義Ⅹ（秋学期）

利用者サービス論

教 授 田 村 俊 作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスについて，その理論と実際とを検討します。サービス提供上の課題の検討や実習とともに，経営上の課題についても検討します。

情報資源管理特殊講義Ⅺ（春学期）

講 師 池 内 淳

授業科目の内容：

図書館情報学の調査研究を行う際に必要とされる情報リテラシーを学習するとともに，電子図書館サービスに関連する基礎的な知識や技術について講義と演習を行います。

情報資源管理特殊講義Ⅻ（秋学期）

情報技術とネットワーク

講 師 安 形 輝

授業科目の内容：

図書館サービスを提供するために必要な情報技術・ネットワーク技術を取り上げ，先進的な事例の紹介やインターネット上の規格の解説などを行います。また，随時，それらの技術を応用した小規模な演習を行っていきます。

情報資源管理特殊講義ⅩⅢ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅣ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅤ（秋学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅥ（秋学期）

教 授 細 野 公 男

授業科目の内容：

大学図書館に関するトピックや諸問題に関して，数名の専門家を特別招聘講師として招き，解説をして頂くと共に，受講者とともに議論する。

情報資源管理特殊講義ⅩⅦ（春学期）

休 講

情報資源管理特殊講義ⅩⅧ（春学期）

教 授 倉 田 敬 子

授業科目の内容：

図書館情報学分野において、修士論文や学術論文を執筆するために必要な、研究の進め方、研究発表、論文執筆の方法に関して概説します。出来る限り、実際の事例を参照するとともに、適宜、簡単な演習を実施しながら、進めます。

情報資源管理特殊講義演習ⅠA（春学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

大学図書館におけるデジタル化あるいは情報検索サービスと係わるテーマで修士論文を執筆しようとする学生を対象として、指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習ⅠB（春学期）

論文指導（研究会）

教授 高山 正也

授業科目の内容：

この科目は情報資源管理分野の論文指導のための研究会（ゼミ）です。主として、専門図書館、大学図書館、公共図書館、ならびにアーカイヴズ（記録管理を含む検索型情報サービス機関）等の経営管理問題についての論文執筆者の受講を想定しています。

秋学期の「情報資源管理特殊講義演習ⅡB」を継続履修することを想定して授業を進めます。

情報資源管理特殊講義演習ⅠC（春学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

大学図書館に関する修士論文指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習ⅠD（春学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅠE（春学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

修士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。主要な指導領域は、公共図書館政策、公共図書館経営、図書館の測定・評価などを中心とした公共図書館の諸問題になりますが、その他のテーマについては、その都度検討させていただきます。

情報資源管理特殊講義演習ⅡA（秋学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

「情報資源管理特殊講義演習ⅠA」と同じです。

情報資源管理特殊講義演習ⅡB（秋学期）

論文指導（研究会）

教授 高山 正也

授業科目の内容：

春学期の「情報資源管理特殊講義演習ⅠB」を承けて開かれる、情報資源管理分野の論文指導のための研究会（ゼミ）です。主として、専門図書館、大学図書館、公共図書館、並びにアーカイヴズ（記録管理を含む検索型情報サービス機関）等の経営管理問題についての論文執筆者の受講を想定しています。

秋学期は特に論文を読むことに慣れるだけではなく、論文の形式についても、どのような形式になっているかを体得することを目的にします。

情報資源管理特殊講義演習ⅡC（秋学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

大学図書館に関する修士論文指導を行います。

情報資源管理特殊講義演習ⅡD（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

レファレンスサービスを中心とする利用者サービスをテーマに、ⅠDに引き続き院生の論文指導をします。

情報資源管理特殊講義演習ⅡE（秋学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

情報資源管理特殊講義演習ⅠEに引き続いて、修士論文の執筆に向けたテーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行なっていきます。

情報資源管理特殊講義演習Ⅲ（春学期）

抄読会

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

履修者各自が関心を持つテーマに関する最近の研究論文を選び、レジメを作成し紹介してもらいます。学

術論文の読み方，まとめ方を身につけてもらうことを目標とします。最初は日本語の学術論文から始め，次に英語論文で行ってもらいます。

情報資源管理特殊講義演習Ⅳ（秋学期）

抄読会

教授 倉田敬子

授業科目の内容：

履修者各自が関心を持つテーマに関する最近の研究論文を選び，レジメを作成し紹介してもらいます。学術論文の読み方，まとめ方を身につけてもらうことを目標とします。最初は日本語の学術論文から始め，次に英語論文で行ってもらいます。

博士課程設置科目

哲学・倫理学専攻

哲学特殊研究Ⅰ（春学期）

休講

哲学特殊研究Ⅱ（春学期）

教授 飯田 隆

授業科目の内容：

参加者による研究発表と討論から成る授業です。

哲学特殊研究Ⅲ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅰ」に同じ。

哲学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 斎藤 慶典

授業科目の内容：

「哲学特殊講義演習Ⅰ」に同じ。

哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

確率と知識

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

確率・統計的知識の特徴を科学哲学の立場から検討したい。

哲学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅲと共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

確率と知識

教授 西脇 与作

授業科目の内容：

春学期の継続として、確率・統計的知識の特徴を科学哲学の立場から検討する。

哲学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 中川 純男

授業科目の内容：

修士課程の哲学原典研究Ⅳと共通。講義内容は修士課程の項、参照。

哲学特殊研究演習Ⅲ（春学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

哲学特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

教授 岡田 光弘

授業科目の内容：

論理学を専門とする学生に対して論理学関係の研究論文の作成の指導を演習形式で行う。

倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）

批判哲学の形而上学的基底

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

カントの『純粋理性批判』（A版 1781年、B版 1787年）原理論第2部門第1部「超越論的分析論」のテキストの精読に加えて、ハイデガーによる存在論的解釈を検討することによって、カントにおける主観性の存在論的構制について考察する。

倫理学特殊研究Ⅱ（秋学期）

批判哲学の形而上学的基底

教授 小松 光彦

授業科目の内容：

倫理学特殊研究Ⅰ（春学期）と同じ。

倫理学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

ロシア、ソフィオロジーの文献の講読を通してロシア宗教思想の核心に迫る。扱う思想家は P.フロレンスキー、S.ブルガーコフら。

倫理学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 谷 寿美

授業科目の内容：

倫理学特殊研究Ⅲと共通

倫理学特殊研究演習 I A (春学期)

休 講

倫理学特殊研究演習 I B (春学期)

教授 樽 井 正 義

訪問講師 エアトル, ヴォルフガング

授業科目の内容 :

Having been focused almost exclusively on the structure of singular societies, contemporary political philosophy has only recently begun to tackle normative issues of a global scale. The most prominent example is John Rawls who reapplied his famous original position argument on the level of peoples. Strikingly enough and to the dismay of many of his followers, Rawls thinks that there are only extremely weak principles of redistribution operating globally in marked contrast to the demands within a liberal society. In reaction to Rawls's claims a lively debate developed as to whether it might be possible to derive far stronger principles of global distributive justice and what they might look like. Two issues turned out to be of crucial importance: is there an equivalent to the so-called difference principle according to which inequalities are only justified if they are to the benefit of the worst-off? Between which entities are these principles supposed to operate, between peoples or states or rather between individual human beings? We are going to look at these discussions in more detail without confining ourselves to considerations of Rawls scholarship. Instead we shall also try to take into account different lines of thought.

倫理学特殊研究演習 II A (秋学期)

休 講

倫理学特殊研究演習 II B (秋学期)

生命倫理学

教授 樽 井 正 義

授業科目の内容 :

履修者が設定する生命倫理学の個別課題について、基本文献の講読とレポートの報告・討論を通じて、論文作成指導を行う。

美学美術史学専攻

美学特殊研究 I (春学期)

休 講

美学特殊研究 II (秋学期)

休 講

美学特殊研究演習 I (春学期)

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前 田 富士男

授業科目の内容 :

近現代美術の問題点を、エルンスト・ブロッホの論考を基盤に討議する。

美学特殊研究演習 II (秋学期)

エルンスト・ブロッホと表現主義美術

教授 前 田 富士男

授業科目の内容 :

エルンスト・ブロッホの論考を基盤に、ドイツ表現主義美術の諸問題を検討する。

美術史特殊研究 I (春学期)

作者と施主・結縁者の関係

名誉教授 紺 野 敏 文

授業科目の内容 :

在銘・納入品を持つ作品及び関連の文献資料を用いて、作品形成に関与した作者・施主・結縁者または受容者の相互関係を読み解くとともに、作者・施主と結ぶ社会的、思想的関係を追及する。検討する作品は彫刻を主に絵画・工芸作品にわたる。

美術史特殊研究 II (秋学期)

作品に付属する(内在する)情報資料の解読と研究発表

名誉教授 紺 野 敏 文

授業科目の内容 :

- 1 後期の主な日程は前期の授業内容を引き継ぐ。
- 2 論文の作成及び論文批判の方法。
- 3 履修者の研究テーマに基づく研究発表。
- 4 随時、調査・見学の場を設ける。

美術史特殊研究演習 I (春学期)

休 講

美術史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

休 講

美術史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

イタリア・ルネサンス研究

教 授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

Only Connect: art and the spectator in the Italian Renaissance, John Shearman, Princeton Univ. Press 1988. のうちから Chapter1 A More engaged spectator を読んで、その内容をまとめ、履修者は著者の指摘・主張に対応する各自のテーマを設定して、著者に反論する、もしくは著者の見解を補強する。発表形式で授業を進める。

美術史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

イタリア・ルネサンス研究

教 授 末 吉 雄 二

授業科目の内容：

Only Connect: art and the spectator in the Italian Renaissance, John Shearman, Princeton Univ. Press 1988. のうちから Chapter 6 Imitation and the slow fuse を読んで、その内容をまとめ、履修者は著者の指摘・主張に対応する各自のテーマを設定して、著者に反論する、もしくは著者の見解を補強する。発表形式で授業を進める。

美術史特殊研究演習Ⅴ（春学期）

コロキウム

教 授 末 吉 雄 二

教 授 前 田 富士男

教 授 美 山 良 夫

教 授 三 宅 幸 夫

教 授 林 温

教 授 大 石 昌 史

助教授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発

表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

美術史特殊研究演習Ⅵ（秋学期）

コロキウム

教 授 末 吉 雄 二

教 授 前 田 富士男

教 授 美 山 良 夫

教 授 三 宅 幸 夫

教 授 林 温

教 授 大 石 昌 史

助教授 遠 山 公 一

授業科目の内容：

博士課程は、各自の専門的研究を深めるとともに、ひろく近似した研究主題や隣接する学問領域の方法論などにふれ、互いに切磋琢磨して、自分自身の観点、問題提起、対象分析、作品解釈、論証、表現方法などをたえず改善し、磨きあげるコースにはかならない。この授業は、本専攻が美学・日本東洋美術史・西洋美術史・音楽史から構成される特性をふまえ、博士課程院生と教員の全員が参加し、各回、院生の口頭研究発表をもとに討議をおこなう（ときに教員、招聘講師の発表もある）。

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）

音楽学の実践

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、口頭発表、質疑応答、そして意見交換をおこないます。

音楽学特殊研究Ⅱ（秋学期）

音楽学の実践

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

音楽学特殊研究Ⅰ（春学期）と同じ。

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教 授 三 宅 幸 夫

授業科目の内容：

「音楽学特殊研究演習」は博士論文を書くための研究会です。受講生の選択した研究題目にしたがって、具体的に学会における口頭発表、および学会誌への投

稿についてサポートします。

音楽学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

音楽学の口頭発表と論文執筆

教授 三宅幸夫

授業科目の内容：

音楽学特殊研究演習Ⅰ（春学期）と同じ。

史学専攻

日本史特殊研究ⅠA（春学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本古代史の諸問題に関して、史料や論文を通して具体的に検討していきたい。

日本史特殊研究ⅡA（秋学期）

教授 三宅和朗

授業科目の内容：

日本史特殊研究ⅠAと同じ。

日本史特殊研究ⅢA（春学期）

名誉教授 坂井達朗

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告。福澤研究関係文書の解説。（井上角五郎宛書簡など）

日本史特殊研究ⅢB（春学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

博士論文作成のための指導を行う。受講者個々の研究発表を中心に、近世史研究についての諸問題を討論する。史料収集・調査の方法や分析、整理法、さらに専門誌への発表を前提とする論文指導も行う。

日本史特殊研究ⅣA（秋学期）

名誉教授 坂井達朗

授業科目の内容：

受講者による研究進行状況の報告。福澤研究関係文書の解説。（井上角五郎宛書簡など）

日本史特殊研究ⅣB（秋学期）

教授 田代和生

授業科目の内容：

日本史特殊講義演習ⅢAに同じ。

日本史特殊研究演習ⅠA（春学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

受講者による研究報告をもとに、日本古代史上の諸問題について検討する。

日本史特殊研究演習ⅠB（春学期）

休講

日本史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 長谷山 彰

授業科目の内容：

日本史特殊研究演習ⅠAと同じ。

日本史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

休講

日本史特殊研究演習ⅢA（春学期）

ナショナリズムの生成

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

近代日本のナショナリズムの立ちあがりについて、具体的な事例を共同研究によって分析する。

日本史特殊研究演習ⅣA（秋学期）

ナショナリズムの生成

教授 柳田利夫

授業科目の内容：

日本史特殊研究演習ⅢAに同じ

東洋史特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 山本英史

授業科目の内容：

受講者が各自行っている研究について報告をもらい、発表能力の鍛錬に努めるとともに、研究論文執筆に関する指導も併せて行う。

東洋史特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山本英史

授業科目の内容：

受講者が各自行っている研究について報告をもらい、発表能力の鍛錬に努めるとともに、研究論文執筆に関する指導も併せて行う。

東洋史特殊研究演習Ⅰ（春学期）

オスマン語史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

オスマン語の読解能力をつけることを目的としているが、アラビア文字について知識がない人でも参加できるように配慮しながら授業を進めたい。

東洋史特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

オスマン語史料講読

教授 坂本 勉

授業科目の内容：

春学期の「東洋史特殊研究演習Ⅰ」を引き継いで近代史にかかわるオスマン語史料を講読する。

西洋史特殊研究演習ⅠA（春学期）

若きマルクスにおけるヘーゲル受容の研究

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

若きマルクスはヘーゲルの思想をどう理解しどう受容したのか、あるいはどう誤解しどう批判したのか。本演習ではマルクスの「ヘーゲル法哲学批判」を取り上げ、そのヘーゲル受容の特徴と限界を同時代的コンテキストに即して分析する。参加者はヘーゲル法哲学およびフォイエルバッハ、バウアー、ガンズなどの思想について多少なりとも予備知識を持っていることが望ましい。

西洋史特殊研究演習ⅠB（春学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊研究演習ⅡA（秋学期）

教授 神田 順 司

授業科目の内容：

春学期に同じ。

西洋史特殊研究演習ⅡB（秋学期）

初期アメリカ史・リーディング・セミナー

教授 大森 雄太郎

授業科目の内容：

初期アメリカ史をフィールドとする大学院上級のリーディング・セミナーです。一時史料を読むか、二次文献を読むか、あるいはいずれの場合でもどのような文献を読むかについては、参加メンバーと相談の上で決めます。いずれにせよ文献は英語（むしろアメリカ語）で書かれたものを使用します。一週間のリーディングの要求量は、二次文献であれば100頁程度です。

西洋史特殊研究演習Ⅲ（春学期）

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

16・17世紀の治安判事の活動に関する史料を読みながら、当時の中央と地方の関係について考察する。

西洋史特殊研究演習Ⅳ（秋学期）

教授 清水 祐 司

授業科目の内容：

「春学期」と同じ。

民族学考古学特殊研究Ⅰ（春学期）

休 講

民族学考古学特殊研究Ⅱ（秋学期）

休 講

民族学考古学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 阿部 祥 人

授業科目の内容：

先史時代、石器文化に関する研究者を志す人のための研究・論文指導や主に旧石器文化の共同研究を行う。

民族学考古学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 阿部 祥 人

授業科目の内容：

先史時代、石器文化に関する研究者を志す人のための研究・論文指導や主に旧石器文化の共同研究を行う。

国文学専攻

国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

催馬楽研究

教授 藤原 茂 樹

授業科目の内容：

催馬楽の古註をよむ。

国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

催馬楽研究

教授 藤原 茂 樹

授業科目の内容：

催馬楽の古註をよむ。

国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 川村 晃 生

授業科目の内容：

国文学研究ⅩⅨに同じ。

国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 川村 晃 生

授業科目の内容：

国文学研究ⅩⅩに同じ。

国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

教授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

教授 岩 松 研吉郎

授業科目の内容：

院政期の寺社巡礼記、寺社縁起とその関連資料をよみながら、中世文芸の基盤を検討する。研究史・研究方法に留意しつつ、履修者各自の研究主題の発表・討論を随時まじえつつすすめる。

春・秋学期継続履修のこと。

国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

教授 関 場 武

授業科目の内容：

為永春水作の「意見早引大善節用」を取り上げ、講読ならびに演習を行なう。その際、書誌学的研究の基礎知識の体得や、各種参考文献の活用の仕方も併せて学ぶ。

国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

教授 関 場 武

授業科目の内容：

近世前期の文芸の中から、教訓・訓導を旨とする仮名草子およびその周辺の作品を取り上げ、その諸相を眺める。あわせて、学位論文作成へ向けての個別指導も行う。

国文学特殊研究Ⅸ（春学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村 友 視

授業科目の内容：

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式を進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国文学特殊研究Ⅹ（秋学期）

統一テーマに基づく論文の相互批判

教授 松村 友 視

授業科目の内容：

年間の共通テーマにもとづく論文発表の形式を進める。テーマおよび具体的手順については履修者との合議によって決定する。

国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 関 場 武

授業科目の内容：

仮名草子・戯作の中から数点を取り上げ講読・演習を行う。その際、書誌学的・国語史的研究方法の修得も併せ目ざす。本年度は清少納言の「枕草子」の影響作を主に取り上げる。

国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 関 場 武

授業科目の内容：

仮名草子の中から断本系統のものを選び、その特性を探る。今学期は「百物語」を中心に、講読・演習を行う。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

「格調莊嚴，氣象宏麗，最為可法」（胡応麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡 志 昂

授業科目の内容：

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）と同じ。

中国文学専攻

中国文学特殊研究Ⅰ（春学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

20 年代後期から 30 年代の都市を風靡した文学雑誌を読んでいく。手始めに、今期は「新月」を創刊号から読んでみる。

中国文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

中国 30 年代都市のメディアと文学

教授 関 根 謙

授業科目の内容：

20 年代後期から 30 年代の都市を風靡した文学雑誌を読んでいく。手始めに、今期は「新月」を創刊号から読んでみる。

中国文学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程の中国文学研究Ⅴと同じ。

中国文学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 渋谷 誉一郎

授業科目の内容：

修士課程の中国文学研究Ⅵと同じ。

中国文学特殊研究Ⅴ（春学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

今年度（2005 年度）は、唐の嵇皎然の『詩式』（原本五巻。今本一卷）を読みます。『詩式』は、兩漢及び唐詩人の名篇麗句を摘録し、五格・十九体に分けたもので、唐代の詩論の代表的著作です。五巻本の第一巻は、詩歌言論について総論的に論じ、また「五格」のうちの第一格について述べています。「五格」とは、詩の五つの格調を言い、同時にそのランクを表わしています。第二巻以降は、「五格」の内の第二格から第五格について論じています。「五格」は、詩を評価するには典故を用いないものを第一としています。「十九体」は詩の風格を論じたもので、「貞」「忠」「節」「志」「徳」「誠」「悲」「怨」「意」などの表現内容にかかわるものと、「高」「逸」「氣」「情」「思」「閑」「達」「力」「静」「遠」などの芸術的な特徴についてのものとに分けられます。皎然は、「十九体」の中では「高」と「逸」とを高く評価しており、「冲淡」や「自然」なる風格を貴んでいます。

中国文学特殊研究Ⅵ（秋学期）

中国中世文学批評史研究

講師 門 脇 廣 文

授業科目の内容：

中国文学特殊研究Ⅴと同じ。

中国文学特殊研究Ⅶ（春学期）

中国中世文学批評史研究

名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国文学特殊研究Ⅷ（秋学期）

中国中世文学批評史研究

名誉教授 岡 晴 夫

授業科目の内容：

李漁の作品（戯曲・小説・随筆・尺牘等）の中から適宜選んで講読する。何を取りあげるかについては、受講生と相談のうえ決める。

中国語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 山下輝彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中国語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 山下輝彦

授業科目の内容：

中国語研究で重要と思われる文献を読み、それについてディスカッションをする。中国語で研究発表をする力を身につけるために議論はすべて中国語で行う。

中日比較文学特殊研究Ⅰ（春学期）

講師 胡志昂

授業科目の内容：

「格調莊嚴，氣象宏麗，最為可法」（胡応麟・詩藪）といわれる李嶠の五言律詩の中でもその詠物詩『百二十詠』（『李嶠雜詠』または『百詠』ともいう）が「大手筆」と称せられる。この類書の性格を兼ね備える詠物詩集は、いわゆる「文章四友」時代の詩論『唐朝新定詩格』（崔融著）等に提案された新しい律詩の作法を反映する書物でもあった。両書とも早くから日本に伝わり、王朝の歌論と新しい歌風の展開に刺激を与えたと見られる。この時間では『百二十詠』を『唐朝新定詩格』と併せて精読し議論を加えると共に、それと関連する平安時代の歌論と歌風の展開にも留意し、双方の共通点と相違点を検討していく。

中日比較文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

講師 胡志昂

授業科目の内容：

中日比較文学特殊研究Ⅰに同じ。

英米文学専攻

中世英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 松田隆美

授業科目の内容：

中世研究の様々な方法論を示唆してくれる最近の文献を選んで、批判的に検討する。

中世英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 松田隆美

授業科目の内容：

春学期の「中世英文学特殊研究Ⅰ」の続き。

中世英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高宮利行

授業科目の内容：

中世後期からルネサンスにかけてのイギリスの書物史の諸相を扱う演習。前年度からの続き。

中世英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 高宮利行

授業科目の内容：

中世英文学特殊研究演習Ⅰに同じ

近代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 高宮利行

教授 松田隆美

教授 河内恵子

授業科目の内容：

学会における英語の研究発表に資するような discipline を身につけさせる演習。

近代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 高宮利行

教授 松田隆美

教授 河内恵子

授業科目の内容：

近代英文学特殊研究Ⅰに同じ

近代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高宮利行

授業科目の内容：

Tolkien も *The Lord of the Rings* の執筆に影響を受けたアーサー王ロマンスの傑作を 4 年かけて講読します。

近代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

Sir Gawain and the Green Knight 講読

教授 高宮利行

授業科目の内容：

近代英文学特殊研究演習Ⅰと同じ

現代英文学特殊研究Ⅰ（春学期）

Albion 研究

教授 河内恵子

授業科目の内容：

現代イギリスの巨大な知性、Peter Ackroyd の *Albion* を読む。

このテキストを通読することでイギリス文学の *Origins* が理解できるかもしれない。

現代英文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Albion 研究

教授 河内恵子

授業科目の内容：

現代英文学特殊研究Ⅰを参照

現代英文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 高宮利行

教授 松田隆美

教授 河内恵子

授業科目の内容：

学会発表に関する情報検索の *discipline* を身につけさせる演習。

現代英文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 高宮利行

教授 松田隆美

教授 河内恵子

授業科目の内容：

現代英文学特殊研究演習Ⅰと同じ

米文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 巽孝之

授業科目の内容：

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士 1 年には年間 50 冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間 2 本の英文レポート（2,000～

2,500 語程度）提出を要求する。博士 2 年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士 3 年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 巽孝之

授業科目の内容：

博士号請求論文執筆中の者を中心に、論文作成法を徹底指導する。その結果出来上がる論文は、あらゆる意味で模範的でなくてはならない。仮に模範を根底から転覆する方法論を採るものであっても、それは例外ではない。博士 1 年には年間 50 冊程度の代表的批評書・研究書を課し、年間 2 本の英文レポート（2,000～2,500 語程度）提出を要求する。博士 2 年には全国規模の学会での発表に向けた計画を立てさせる。最終的には、博士 3 年の段階にて、レフェリー制度を持つ内外の代表的学術誌の審査をゆうに通過する高水準の論文が輩出することを望む。学位論文をいかに一冊の研究書にまとめあげ出版するか、その際の具体的な編集技術についても、根本的に再検討する。

米文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

教授 巽孝之

授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

米文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

教授 巽孝之

授業科目の内容：

文学研究と文化研究の交差する地点を扱った古典的著作に親しむ。テキストは追って指示する。

英語学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 唐須教光

授業科目の内容：

言語人類学を扱います。

英語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 唐須教光

授業科目の内容：

言語人類学を扱う。

英語学特殊研究演習 I (春学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

英語学特殊研究演習 II (秋学期)

Beowulf

教授 スカヒル, ジョン・デミエン

授業科目の内容 :

This course will combine close reading of part of *Beowulf* with a study of the poem as a whole, paying particular attention to metre, paleography and Germanic legend.

独文学専攻

ドイツ文学特殊研究 I (春学期)

ゲーテ時代研究 X VI

教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容 :

「ノヴァーリス研究」

「ザイスの弟子たち」を精読しながらノヴァーリス思想と十八世紀の自然観を考察する。あわせて学術論文執筆の実践的訓練をおこなう。

ドイツ文学特殊研究 II (秋学期)

ゲーテ時代研究 X VI

教授 柴田 陽 弘

授業科目の内容 :

「ノヴァーリス研究」

春学期に同じ

ドイツ文学特殊研究 III (春学期)

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容 :

前年度に引き続いて William Lovell を講読する。途中から参加の諸君は、すでに読んだところをなるべく読んできてほしい。

ドイツ文学特殊研究 IV (秋学期)

教授 和 泉 雅 人

授業科目の内容 :

前年度に引き続いて William Lovell を講読する。途中から参加の諸君は、すでに読んだところをなるべく読んできてほしい。

ドイツ文学特殊研究 V (春学期)

休 講

ドイツ文学特殊研究 VI (秋学期)

休 講

ドイツ文学特殊演習 I (春学期)

Gottfried von Straßburg: Tristan を読む

講師 重 藤 実

授業科目の内容 :

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Gottfried von Straßburg の宮廷叙事詩 Tristan を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

なお、受講学生の希望があれば、はじめに中高ドイツ語文法の解説をおこなう。

ドイツ文学特殊演習 II (秋学期)

Gottfried von Straßburg: Tristan を読む

講師 重 藤 実

授業科目の内容 :

ドイツ中世文学を代表する作者の 1 人 Gottfried von Straßburg の宮廷叙事詩 Tristan を読む。テキストを読み進めながら、この作品と同時代の他の作品との関係、原典との関係などを考察する。また中高ドイツ語の特徴などについても考えたい。

ドイツ文学特殊演習 III (春学期)

E. T. A. Hoffmann 研究の現在

商学部 教授 識 名 章 喜

授業科目の内容 :

Deutscher Klassiker Verlag 版のホフマン全集もついに完結し、Hartmut Steinecke による浩瀚なホフマン論が出版され、21 世紀を迎えホフマン研究も一段落した観があるが、今後はホフマンのテキストを、実証研究や歴史的背景から切り離して、純粹にテキストとして読む動きが強まるだろう。しかし、貧るよう

に愉しく読めてしまう作品は、研究者には落とし穴だらけだ。解釈が作品の面白さを捉えそこなうと、あらずもがなの読みに終わりがねないからだ。その一方で、人と作品を結びつけて読みたくなる誘惑に満ちているのもホフマンのテキストである。この演習では、そういうホフマンの魅力と危険に接近するための方法を、参加者と一緒に探っていきたい。

ドイツ文学特殊講習Ⅳ（秋学期）

E. T. A. Hoffmann 作品解題

商学部 教授 識名 章 喜

授業科目の内容：

ホフマンの作品は、深田甫先生の個人全訳全集によって、すでに小説に関しては、そのほとんどが日本語でも読めるようになった。有名な作品については数種類の訳のあるものもある。しかし研究案内の類をひもとくと、個別に分析した研究論文の少ない作品が意外に多い。あらかた解釈が出尽くしたのか、他の作品との関連でしか論じられていないのか？ この演習では、細部にこだわり、詳細な註釈をつけながらの読みこそ、ホフマンのテキストと付き合う愉悦である、ということを再認識してゆきたい。

ドイツ文学特殊演習Ⅴ（春学期）

Walter Benjamin の物語論

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容：

Walter Benjamin: Der Erzähler 講読。

ドイツ文学特殊演習Ⅵ（秋学期）

Walter Benjamin の物語論

教授 大宮 勘一郎

授業科目の内容：

ドイツ文学特殊演習Ⅴの継続です。

ドイツ語学特殊研究Ⅰ（春学期）

ドイツ語の時制記述

講師 重藤 実

授業科目の内容：

ドイツ語の時制についての論文を読む。多様な現代ドイツ語の時制表現の構造と意味をどのように記述できるか、考えていきたい。語学研究としてのみではなく、文学研究にも役立つ時制記述についても考えていきたい。

ドイツ語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

ドイツ語の時制記述

講師 重藤 実

授業科目の内容：

ドイツ語の時制についての論文を読む。多様な現代ドイツ語の時制表現の構造と意味をどのように記述できるか、考えていきたい。語学研究としてのみではなく、文学研究にも役立つ時制記述についても考えていきたい。

仏文学専攻

中世仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

言語研究

教授 川口 順二

授業科目の内容：

文献解読、学会発表準備、博士論文準備。

中世仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 川口 順二

授業科目の内容：

文献解読、学会発表準備、博士論文準備。

近代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマと作家は、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 小倉 孝誠

授業科目の内容：

取りあげるテーマと作家は、受講生と相談のうえ決定します。

近代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

百科全書研究

教授 鷲見 洋一

授業科目の内容：

Jacques Proust の大著以来、久々の大作と評価の高い Leca-Tsiomis の博士論文を、1年がかりで精読する。

近代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

百科全書研究

教授 鷲見 洋一

授業科目の内容：

Jacques Proust の大著以来、久々の大作と評価の高い Leca-Tsiomis の博士論文を、1年がかりで精読する。

現代仏文学特殊研究Ⅰ（春学期）

フランス現代小説研究

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

1945年以降の小説をとりあげる予定ですが、授業の進め方については履修者と相談のうえ決定したいと思います。

現代仏文学特殊研究Ⅱ（秋学期）

フランス現代小説研究

教授 宮林 寛

授業科目の内容：

春学期と同じ。

現代仏文学特殊研究演習Ⅰ（春学期）

マラルメの演劇理論と実践

教授 立仙 順朗

授業科目の内容：

Alcoloumbre: Mallarmé, la poétique du théâtre et l'écriture のⅠとⅡを読みながら、マラルメの théâtre に関する考えを考察します。

現代仏文学特殊研究演習Ⅱ（秋学期）

マラルメの演劇理論と実践

教授 立仙 順朗

授業科目の内容：

Alcoloumbre: Mallarmé, la poétique du théâtre et l'écriture のⅣとⅤを読みながら、マラルメの演劇理論を Igitur, Prose (pour des Esseintes) について考察し、演劇と écriture との密接な関係を探ります。

仏語学特殊研究Ⅰ（春学期）

ENTRAINEMENT A LA DISSERTATION

訪問講師 シモン=及川, マリアンヌ

授業科目の内容：

Le cours proposera une formation aux techniques de la dissertation. Les débutants y trouveront une

initiation à la composition et à la rédaction en français, et les plus avancés un approfondissement des méthodes qu'ils connaissent déjà. Ce cours est particulièrement recommandé aux étudiants qui envisagent de passer le concours des bourses du gouvernement français et / ou de suivre des études dans une université française.

仏語学特殊研究Ⅱ（秋学期）

Dissertation littéraire

訪問助教授 ブランクール, ヴァンサン

授業科目の内容：

Ce cours sera consacré à la pratique de la dissertation littéraire. Au long du semestre, sera proposée aux étudiants une série de dissertations qui permettront d'aborder les grandes problématiques de littérature générale (qu'est-ce que lire? le réalisme, l'auteur, les genres,...) Une attention particulière sera accordée aux aspects techniques de l'exercice.

図書館・情報学専攻

情報学特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

情報メディアに関する最近の研究動向の検討を行うと同時に、履修者の現在の研究テーマに関する発表を行ってもらい、討議します。

情報学特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 倉田 敬子

授業科目の内容：

情報メディアに関する最近の研究動向の検討を行うと同時に、履修者の現在の研究テーマに関する発表を行ってもらい、討議します。

情報学特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

博士課程の抄読会用の科目です。

情報学特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

博士課程の抄読会用の科目です。

情報メディア特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

情報メディアに関する研究指導を行います。

情報メディア特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 上田 修一

授業科目の内容：

学術情報メディアに関する研究指導を行います。

情報メディア特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報メディア特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

「情報メディア特殊研究Ⅲ」に引き続き、図書館情報サービスに関連する諸問題の検討と、論文作成の指導を行う。

情報検索特殊研究Ⅰ（春学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

情報検索およびデジタル図書館の実践に大きな影響を及ぼすと思われる理論、アプローチ、考え方を取り上げて討議します。

情報検索特殊研究Ⅱ（秋学期）

教授 細野 公男

授業科目の内容：

「情報検索特殊研究Ⅰ」と同じです。

情報検索特殊研究Ⅲ（春学期）

休講

情報検索特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 田村 俊作

授業科目の内容：

三田メディアセンターとの連携の下に、図書館の経営・サービスに関する特定の問題を、実習を交え実際に即して研究する。

情報システム特殊研究Ⅰ（春学期）

図書館経営

教授 高山 正也

授業科目の内容：

21世紀において価値を増している各種の記録情報資源とその管理拠点である図書館・文書館や図書館類縁機関を対象に、実証的な観点からの政策論や管理運営論を中心に検討を加え、研究指導を行います。秋学期の「情報システム特殊研究Ⅱ」に続きます。

情報システム特殊研究Ⅱ（秋学期）

図書館経営

教授 高山 正也

授業科目の内容：

春学期の「情報システム特殊研究Ⅰ」を承けて、その続きを行います。

情報システム特殊研究Ⅲ（春学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

情報システム特殊研究Ⅳ（秋学期）

教授 糸賀 雅児

授業科目の内容：

博士論文の執筆に向けて、テーマの選択、研究の進め方、論文執筆の技術的な助言などを、逐次行っていきます。

慶應義塾大学 在外研修プログラム

慶應義塾大学では、全学部および研究科に在籍している学生を対象に、夏季休業中に海外で在外研修プログラム「慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」「慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を開講します。

これは、外国語による講義およびディスカッションのほか、大学内の寮生活などを初めとする多彩な諸活動を通して、さまざまな異文化交流を体験することで、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。

短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、海外生活体験をしたい方、外国語によるコミュニケーション能力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。

形態は原則として、往復とも大学手配の航空便による団体旅行形式で、現地研修には本学の教職員が同行します。

また、現地への出発前には事前研修を数回実施します。(事後研修を実施する場合もあります。)

なお、環境をめぐるテーマを扱い、講義やディスカッションだけでなく豊かな自然環境を活かした体験学習旅行を含むワシントン大学でのプログラムを今年度から開設します。

このほか、春季休業期間中には、パリ政治学院の講師陣による EU に関する講義のほか、フランス語会話のクラスや EU の諸機関の訪問も含む「パリ政治学院春季講座」についても引き続き実施することを計画しています。

これら 2 つのプログラムについては国際センターのホームページを参照してください。

なお、プログラムは、自然災害、戦争、航空機等交通機関にかかわる事故並びに前記以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する可能性があることをあらかじめご了承ください。

問合せ先 三田国際センター

URL: <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 詳細や変更は、随時ホームページ等で発表します。

ガイダンス 4月4日(月) 三田 528教室 13:00~14:30
4月5日(火) 藤沢 12教室 15:45~17:15
4月6日(水) 矢上 14-201教室 13:00~14:30
4月6日(水) 日吉 J11教室 17:00~18:30

慶應義塾大学 ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

原 田 隆 史 文学部助教授

柏 崎 千佳子 経済学部助教授

授業科目の内容：

ウィリアム・アンド・メアリー大学は、米国東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグにあり、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマに沿った英語による講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。また、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流を体験することができます。

単位数：

4単位

本講座の科目は、卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2005年7月29日(金)～8月16日(火)(予定)

4月下旬より事前研修(6回程度)、また、帰国後には事後研修(2回程度)を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントン DC 近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名(提出書類により選考を行います。)
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)
- (3) 提出書類：参加申込書(所定用紙)、学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)、最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)、英語能力証明書のコピー(TOEFL、TOEIC、各種英語検定など)、RESEARCH PROPOSAL(所定用紙)書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木)13:00(予定)

成績評価方法：

事前・事後研修の出席，中間発表，現地研修期間中の活動，Final Presentation，日本帰国後の Final Report により採点します。

慶應義塾大学 ケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座

中野 誠彦 理工学部助教授

スネル，ウィリアム 文学部助教授

授業科目の内容：

ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。

授業は英語による講義，ケンブリッジ大学在籍生を交えてのディスカッション，エッセイの作成・提出を中心としており，ケンブリッジ大学の教員が指導に当たります。講座期間中は，専門分野の知識を深めるだけでなく，ダウニングコレッジ内での寮生活や，ケンブリッジ大生が企画する諸活動に積極的に参加することで，幅広い異文化交流を体験することができます。

単位数：

4単位

本講座の科目は，卒業に必要な単位として認められることがあります。その扱いは各学部・研究科によって異なりますので各自確認をしてください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を，国際センター作成の募集要項に記載しています。また，事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間： 2005年8月8日(月)～9月7日(水)

5月～7月に三田キャンパスにて事前研修を3回程度行います。

講義日程： 第1週：

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第2週：

Ancient Greece and Western Civilization, Genethics: ethical issues arising from developments in genetics

第3週：

English Literature, The Science of Chaos

第4週：

Society and Politics in Contemporary Britain, Astronomy: Unveiling the Universe

9月6日(火) Closing ceremony

第2週から第4週までは，各週2科目ずつ用意された授業の内1科目を選択，合計3科目を選択履修。

各科目とも定員が30名のため，事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容： ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答(午前)

ケンブリッジ大生(TA: Teaching Assistant)を交えてのディスカッション(午後) エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60名(提出書類により選考を行います。)

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生(ただし通信教育部をのぞく)

(3) 提出書類： 参加申込書(所定用紙)，学習計画書(日本語及び英語。各A4一枚程度)，最新の学業成績表のコピー(3月中旬に保証人宛に送付されるもの)，英語能力証明書のコピー(TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など)，履修希望科目申告表(所定用紙)

(4) 募集期間：4月7日(木)～4月14日(木) 各地区国際センター(窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。)

(5) 選考結果発表： 4月28日(木)13:00(予定)

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、政治、経済、産業、文学、芸術、思想など幅広い側面から日本を探求します。

海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、所属する学部・研究科の履修案内に従ってください。

1. 対象 大学学部生，大学院生，ならびに別科生
2. 単位 各科目 2 単位
(なお，医学部・医学研究科および法務研究科ではすべての授業科目が履修の対象となりません)

3. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。

学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない場合は、三田、日吉の国際センターで相談してください。

4. 受講料 無料
5. 掲示 休講などの連絡事項は、三田の国際センター掲示板に掲示されます。

国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

オーストラリアのビジュアルアート

(春学期)(Spring)

AUSTRALIAN VISUAL ARTISTS: AN INTRODUCTORY COURSE

ニコルズ , クリスティーン 国際センター講師 (東京大学客員教授)

Christine Nicholls

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

Course Description:

In this topic Dr Nicholls will introduce students to a selection of (mainly) contemporary Australian visual artists, and their work. Approximately half of the artists whose work will be discussed in the course will be Aboriginal. This will necessitate an introduction to the religious basis and underlying philosophy of Indigenous artistic production. In addition to powerpoint presentations introducing the class to the work of individual artists, the class will view and then discuss a number of films showing the artists' approach to their work. The course will also introduce cultural theory required for understanding contemporary art: postmodernism; cultural hybridity; simulacra; theories of "the gaze"; "the spectacle" and Judith Butler's ideas about gender and performativity

Text Books:

Nicholls, Christine, 2003, Art, Land, Story, Working Title Press, Adelaide, Australia, ISBN 1 876288 41 8 , price \$13.00 Australian (about 1200 yen) and Nicholls, Christine, 2003, Art, History, Place, Working Title Press, Adelaide, ISBN 1876288434 Australian price \$13.00 Australian (about 1200 yen)

Note that I will also be using handouts, so that students can avoid buying more expensive books. Text materials can be downloaded from the following Website <http://seekbooks.com.au>

Reference Books:

Andrew Sayers, Publisher: Oxford University Press, ISBN: 0192842145

Format: Paperback AUD\$39.95

Grading Methods:

Reports, and some oral presentation in class. Attendance, Participasion will also be taken into consideration.

Questions, Requests:

The two text books can be purchased on <http://www.seekbnooks.com.au> at a very reasonable rate (less than \$12.00 Australian dollars)

異文化と自己理解

(春学期)(Spring)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS

シヨールズ , ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Looking for the hidden roots of cultural difference

Course Description:

Culture has two sides, a visible side — food, clothing, architecture — and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.
- 2) Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture — Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture — The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations — independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression — How we show feelings
7. Culture and status — Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender — Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time — polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised — in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Grading:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

東南アジア世界の諸相

(春学期) (Spring)

WORLD OF SOUTHEAST ASIA

野村 亨

総合政策学部教授

Toru Nomura

Professor, Faculty of Policy Management

Sub Title:

Understanding Contemporary & Historical Aspects

Course Description:

In this class, students are exposed to contemporary as well as historical aspect of Southeast Asia. The information acquired in this lecture will surely be quite useful for those who want to be engaged in business in this fast-developing region.

Text Books:

None. Handouts will be given from time to time.

Reference Books:

Several books will be suggested during the class.

Class Schedule per week:

1. Orientation
2. What is SEA ?
3. SEA & Japan
4. SEA & European Power
5. Nature and Climate of SEA
6. Languages of SEA
7. Music of SEA
8. Politics of SEA
9. Other aspects of SEA

Please note that above order may change with short notice. For further information, please ask the professor directly.

Message to those taking this Course:

Students are recommended to bring along a map of Asia and / or Southeast Asia in every session.

Classroom rules will be indicated at the first session.

Grading Methods:

In class Exams, Attendance, Participation

Questions, Requests:

Should be forwarded to : nomura@sfc.keio.ac.jp

No petition on scores will be acceptable.

現代中国の国家と社会

(春学期) (Spring)

STATE AND SOCIETY IN CONTEMPORARY CHINA

ワンク , デイビッド

国際センター講師 (上智大学教授)

David L. Wank

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:**Overview**

This course assumes no prior knowledge about contemporary China, or about communist social and political organization. It is designed to provide a historical and thematic overview of post-1949 authority relations and patterns of politics in China. The first half of the course looks at the distinguishing features of state and society, such as central economic planning and one-party rule, that took shape during the first decade of the People's Republic in the 1950s. The second half of the course looks at the ensuing patterns of politics and conflict and how they have evolved over time. The course readings include original documents, autobiographies, and writings by sociologists, as well as political scientists and anthropologists.

Organization

Each class meeting will consist of a lecture. The lectures are a historical narrative of economy, society, and politics from 1949 to present. They are coordinated with the readings, which illustrate specific themes mentioned in the lectures. In addition we will see one Chinese movie.

Text Books:**Readings**

All readings listed in the course outline are required of all students. All readings are available online except for the following three books which are available for purchase.

GAO Yuan. *Born Red: A Chronicle of the Cultural Revolution*. Stanford University Press, 1987.

Shu-min HUANG. *The Spiral Road: Change in a Chinese Village Through the Eyes of a Communist Party Leader*. Westview Press, 1998 (second edition),

Andrew G. WALDER. *Communist Neo-Traditionalism: Work and Authority in Chinese Industry*. University of California Press, 1986,

Class Schedule per week:**INTRODUCTION****Unit 1**

Lecture on the "state and society" concept in political sociology

Reading on models of state and society for China

Wank, "State and Society in American Studies of Contemporary China"

HISTORICAL BACKGROUND**Unit 2**

Lecture on historical background

Reading on the origins of the party-state

Mao, "The Role of the Chinese Communist Party in the National War"

Unit 3

Lecture on communism in China and the Chinese Communist Party, 1917-1949

Reading on defining features of the party-state

Huang, *The Spiral Road*, chps. 1-5

Movie: To Live (directed by Zhang Yimou)

THE NEW ORDER, 1949-1957

Unit 4:

Lecture on stabilization immediately after the revolution, 1949–1953,

Readings on the party as an organization and status group

Vogel. “From Revolutionary to Semi-bureaucrat”

P. Link (ed.). “What if I Really Where?”, “A Bundle of Letters”, and “The Tyrant Bids Farewell to His Mistress”

Liu, “People or Monsters”

Unit 5

Lecture on building a centrally planned economy

Readings on the “corporateness” of social institutions

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, chps. 2,4,8,9,12.

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps 1-3.

Unit 6

Lecture on the bureaucratic administration of state and society

Readings on social inequality

Whyte and Parish. *Urban Life in Contemporary China*, ch. 3

Unger. “The Class System in Rural China”

DEEPENING THE REVOLUTION, 1958–1976

Unit 7

Lecture on the Great Leap Forward, 1958–1960

Readings on careers and social mobility;

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, ch. 4

Shirk. *Competitive Comrades*, pp. 63-178.

Unit 8

Lecture on economic retrenchment and competition within the elite, 1961–1965

Readings on the personalization of authority

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 5, 8

Oi. “Comunism and Clientelism: Rural Politics in China”

Unit 9:

Lecture on the Cultural Revolution

Readings on the conflict and instability in the polity

Gao. *Born Red*, entire

CHINESE SOCIALIST MODERNIZATION, 1979–

Unit 10

Lecture on the interregnum and further elite conflict, 1974–1979

Readings on the commercialization of power

Huang. *The Spiral Road*, chps. 6-12

Oi. “Market Reform and Corruption in Rural China”

Walder. *Communist Neo-Traditionalism*, chps. 6-7

Shirk. “The Decline of Virtuocracy in China”

Unit 11

Lecture on marketization and new patterns of conflict, 1979–1989

Readings on the Democracy Movement

Han. *Cries for Democracy: Writings and Speeches from the 1989 Chinese Democracy Movement*. pp. 5-16, 28-33, 36-44, 50-57, 59-62, 72-81, 83-91, 97-111, 118-126, 134-187, 197-208, 217, 221, 231-241, 246-251, 255-280, 285-295, 299-318, 335-349, 355-367

Saich. *The Chinese People's Movement: Perspective on Spring*, 1989, pp. 25-49, 83-163.

Unit 12

Lecture on the deepening of marketization and new conflicts

Readings on new social movement
Mallee, "Migration, Hukou, and Resistance in Reform China"
Zweig. The Externalities of Development"

Grading Methods:

A. Short writing assignment (15 percent of final grade)

There will be a short writing assignment based on the movie. It will be graded Excellent, Satisfactory, Poor. If you miss the movie you will be asked to finish readings the Spiral Road and write a 1,000 word review of by the following class.

B. In-class exams (45 percent of final grade)

There will be two in-class exams of short identification and/or multiple choice answers based on the lectures. They will be graded on the regular A-F scale.

C. Final writing assignment (40 percent of final grade).

This will be graded on an A-F scale. As this assignment is considered a take-home final, failure to hand it results in an "F" grade for the entire course regardless of your grades on the other course assignments).

D. Attendance is expected of all students enrolled in course. Attendance will be taken.

グローバルヴィレッジ構築に向けて：日本とサブ サハラ アフリカ地域 (春学期 X Spring)
BUILDING THE GLOBAL VILLAGE

高橋良子	環境情報学部教授
Yoshiko Takahashi	Professor, Faculty of Environmental Information
フリードマン デビッド	環境情報学部教授
David Freedman	Professor, Faculty of Environmental Information

Sub Title:

Perspectives on Japanese Policy in Sub-Saharan Africa

Syllabus:

In an increasingly connected world, there are no specialty areas. Integration into a growing global economy encompasses both economic and trans-economic issues. At the Davos World Economic Forum 2001, the term "culturomics" was coined to define how various intellectual disciplines need to be combined in order to offer a fuller world view.

This course will focus on geo-political areas that stand outside the "global economy" (at this point) and issues that such areas face as they plan to integrate their economies and cultures into the "global village."

As the countries of Sub-Saharan Africa attempt to formulate policies in areas such as HIV care and education, sustainable development, conflict management and the growth of open societies, these policies connect with similar policies and issues around the world. Japan has made aid for African nations and support for the NEPAD (New Partnership for Africa's Development) a major part of its international policy. Last year, for example, at the third TICAD (Tokyo International Conference on African Development), Japanese Prime Minister Junichiro Koizumi pledged US\$1 billion for education and health care in Africa, which made Japan as one of the largest aid donors to Africa. Yet despite these official policies, Japanese trade with some Sub-Saharan countries has actually dropped, and the Japanese public remains distantly aware of Sub-Saharan Africa and the forces that have shaped its present situation and the role of the Japanese government in Sub-Saharan countries.

This course will help deepen students' understanding of the contemporary Sub-Saharan African nations and their socio-political and cultural issues which affect global governance and Africa. Through a series of lectures offered by ambassadors and embassy officials from the African Union (<http://www.mbandi.co.za/orsadc.htm>) students will explore the variety of links diplomatic, educational, economic and cultural that tie Japan to contemporary Africa.

Texts (tentative recommendations):

- 1) <http://web.africa.ufl.edu/asq/v5/v5i2a4.htm> (African Studies Quarterly Japan-Emerging Trends in Japan-Africa Relations: An African Perspective)
- 2) Dynamics of Japan's Relations with Africa: South Africa, Tanzania and Nigeria By: Ampiah, Kweku Published By: Routledge

Tentative Course Schedule (this schedule is subject to change due to the availability of various Ambassadors and embassy officials.):

Class 1 Introduction and Organization: A short discussion of Japan's involvement in Sub-Saharan Africa and the organization of student research group based on country.

- Class 2 A Short History of Africa: Overview lecture on African histories
- Class 3 Sub-Saharan Africa and Japan: Overview lecture by an official of the Ministry of Foreign Affairs of Japan
- Class 4 Sub-Saharan African Aid and the Bretton Woods System: An examination of early aid projects to the newly independent African states and constraints by the prevailing economic theories of the Bretton Woods system; NEPAD's responses to some of the issues arisen from this system
- Class 5 "Mediated" Africa: The effect of the "classic" media images of African societies on policy, perceptions and tourism
*Ambassador of Kenya
*Ambassador of Tanzania
- Class 6 The African Response to AIDS: An examination of policies adopted to address the social and economic issues of AIDS pandemic.
*Ambassador of Uganda
*Ambassador of Zambia
- Class 7 Mid-term Review: Discussion of the students' ideas for their individual final papers, and work with their research group on their presentation.
- Class 8 African Issues and Solutions: An examination of the some of the issues of the post-colonial legacy
*H.E. Dr. B. Nugbane, Ambassador of the Republic of South Africa
*Ambassador of the Republic of Zimbabwe
- Class 9 Models of Development for Micro-Economies: Policy options pursued by smaller African nations with non-integrated economies
*Ambassador of Botsawana
*Ambassador of Malawi
- Class 10 African Policy and Japanese Scholarship : An intermediary role played by academic research and exchange between policy development and application.
*Ambassador of Angola
- Class 11 Symposium (tentative) In case of scheduling problems with the symposium this class will be a concluding lecture covering such topics as African Resources: Eco-tourism. spiritualities and communitas-the possibilities of non-material resources in development.
- Classes 12 & 13 Final group project presentations and class summary

Evaluation:

As this class is based on the talks given by the guest speakers and the students response attendance is of the UTMOST importance. Daily participation will account for 45% of the final grade. Group work both in hosting the guest speaker from the group's chosen country and the final oral group presentation will account for a further 20% of the evaluation. A final individual research paper of 5 page minimum (single space, 12 pt font) with a separate bibliography will account for the final 35% of the grade.

Note to Interested Students:

1. Students interested in this course, please be present at the first meeting and have researched the following sites:
<http://www.mofa.go.jp/region/Africa/> 2) and <http://www.jica.go.jp/English/activities/regions/09afr.html>
2. Although the class will take place in 4th period, there will sometimes be an opportunity for interested students to spend sometime after the class period with the visiting Ambassadors of that day. Please consider this when planning your schedule

国際人権法

(春学期) (Spring)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW

細谷明子

国際センター講師

Akiko Hosotani

Lecturer, International Center

Sub Title:

Issues, procedures, and advocacy strategies regarding the promotion and protection of human rights worldwide

Subject of the class:

Students will study five different aspects of international human rights including:

- (1) Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.

- (2) Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
- (3) Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
- (4) Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
- (5) Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

The principal book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, International Human Rights: Law, Policy and Process (3rd ed. 2001) and supplement Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law

Assignments:

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 12: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 19: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 26: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 10: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 17: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 24: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- May 31: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- Jun. 7: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
- Jun. 14: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- Jun. 21: Chapter 12: European Human Rights System
- Jun. 28: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- Jul. 5: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- Jul.12: Questions & Answers for reviewing the exam

Comment on the Class:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Grading Policy:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Wednesday, 1-3 p.m. or by appointment

世界政治におけるラテンアメリカ

(春学期) Spring)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general

remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Books:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Reference Books:

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
- Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
- Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
- Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
- Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
- Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
- Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
- Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
- Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
- Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
- Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
- Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
- Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Política Exterior Latinoamericana", 1983.
- Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule per week:

PART I

- Session 1: Introduction
- Session 2: The Actors
- Session 3: The Inter-American System
- Session 4: Latin American Integration and Association
- Session 5: Economic Outlook
- Session 6: International Relations
- Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
- Session 9: Cuba: The Socialist Way
- Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
- Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
- Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
- The Caribbean: Colonies and Micro-states
- Session 13: Final Exam

Grading:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

グローバルビジネスにおける革新と戦略

(春学期) Spring)

INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business

strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy—and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments.

Text Books:

Leading the Revolution by Gary Hamel
Supplementary Reading Materials and Case Studies
Additional Book To Be Assigned

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule per week:

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership /and Strategy
- Encouraging Ideas / Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships
- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Grading:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

現代ロシア研究

(春学期)(Spring)

UNDERSTANDING RUSSIA

ナコルチェフスキー ,アンドリィ

文学部助教授

Andrei Nakortchevski

Associate Professor, Faculty of Letters

The main purpose of this course is an attempt to understand contemporary Russia, to understand people who live in this still somewhat enigmatic land in the context of its own history of contacts with other nations. This course will not be a standard course in history and culture. We will talk more about things which usually remain unsaid in academic papers — about how average Russians live, what they like and dislike,

what they value and what they hate. We will try to comprehend a legendary “enigmatic soul” of Russians, to enter their inner world and look at it from within. We will also discuss general features of unique Russian civilization developed geographically and culturally between East and West. We will try to understand Russia escaping any distortions as best we can, using a lot of video materials as illustrations and sometimes as a base for discussion.

What does it mean to be a Russian? This will be the main question to which we will try to find an answer during these classes.

アメリカ研究：アメリカの歴史・文化と外交政策

(春学期) (Spring)

AMERICAN STUDIES

ウィリアムス ,ムケシュ 国際センター講師

Mukesh K. Williams Lecturer, International Center

Sub Title:

American History, Culture and Foreign Policy

Rationale:

After the collapse of the Soviet Union in 1991 the United States emerged as the most important nation in the world. Every nation has some kind of relationship with the United States, which is either profitable or unprofitable. No nation can ignore the United States or fail to understand American history, culture and foreign policy. Most nations therefore include American Studies within their academic, bureaucratic and administrative orientation. Since the nineteenth century nation states especially America have tried to define key words and ideas relating to freedom, welfare, civil rights, sovereignty, representation and democracy to create a composite intellectual and political culture. The American Studies Program will introduce students to the inter-disciplinary study of American history, culture and foreign policy and help them to understand how Americans and non-Americans think about America.

Course Outline:

The course will introduce 4 modules, each module containing a big idea namely:

1. Nation and Narration: constructs the Pocahontas story/myth; human arrival in North America; Native American life; the Americas, West Africa and Europe on the eve of contact; American industrial heritage; the work of Samuel Slater in the late eighteenth and early nineteenth centuries in Pawtucket in constructing industrial America.
2. Immigration and Cultural Change: ‘Old’ and ‘New’ immigration; the world of the immigrants; a new working class; the limits of mobility and ethnic diversity; the Chinese Exclusion Act; new forms of leisure and mass entertainment; the American Dream; 1965 Immigration Policy; multiculturalism and identity politics.
3. National and International Identities: Reconstructing World War II, American neutrality and the road to war; post-war economic boom, the rise of consumer society; the crabgrass frontier; the Baby Boom; the birth of television and the influence of advertising; roles of women and *The Feminine Mystique*; the Korean War; the arms race; the Red Scare and McCarthyism; the early civil rights movement; teen rebellion and rock’ n roll; the media and Vietnam War; rise of CNN.
4. American Foreign Policy—Neutrality to Involvement (1865–1917): Early American isolationism, moral foreign policy; postwar naval/air supremacy (1920–2004), manifest destiny, American unilateralism, America as the policeman of the world, clash of civilization and war against terror.

The course will help students to confront the contradictions and inherent tensions in the American narrative without the false hope of an easy solution. We will not fail to discuss democratic aspirations, concepts of justice, American solidarity/Christian and Islamic divide and national identity. Along the way we would also question the methods and perspectives by which we study our subject by asking some of the following questions:

- a) How do Americans think of themselves as a nation and the rest of the world? And how do people from other nations think about America? (Samuel Huntington, *The Clash of Civilization*; radical evil/Christian good; liberal/democratic frameworks—Richard Bernstein, *Radical Evil*)
- b) How is space constructed in the lives of individuals in America? How changes brought in by pre-industrial, industrial and post-industrial societies reconstituted the lives of people in the U.S.? (Vertical/horizontal expansion; notions of bigness/assertion; David Reisman, *The Lonely Crowd*; national parks—European signatures/Native American erasures—Yosemite and Yellowstone National Park)
- c) What are the popular methods of understanding the culture and society of America? (Clifford Geertz and others)
- d) How do we imagine the past and its effects on social and cultural representation? (Hayden White, Stuart Hall and David Hollinger)
- e) How do the concepts of American unilateralism and manifest destiny define American foreign policy?

Aims:

The students will get an opportunity to:

1. acquire presentation and negotiation skills
2. learn new concepts, methods and vocabulary
3. understand stereotypes of knowledge, reason/critical thinking, culture, gender and politics (bias, manipulation, prejudice, discrimination and hegemony)
4. synthesize diverse opinions and perspectives from within and outside America
5. develop skills to write/think purposefully and strategically
6. acquire the habit to pursue independent thinking

Reference Books:

Short selections from the following books and essays:

Richard J. Bernstein, *Radical Evil: A Philosophical Interrogation*, (Cambridge: Polity Press, 2002)

———, *The New Constellation: Ethical-Political Horizons of Modernity/Postmodernity*, rpt.,1998; (Cambridge, Massachusetts: The MIT Press, 1992).

Julia Kristeva, *Nations Without Nationalism*, (New York: Columbia University Press, 1993)

Samuel Huntington, *The Clash of Civilization and the Remaking of World Order*, (New York: Touchstone, 1997).

Clifford Geertz, *The Interpretation of Culture*, (New York: Basic Books: 1973).

———, *Available Light: Anthropological Reflections on Philosophical Topics*, (Princeton: Princeton University Press, 2000).

Todd Gitlin, *The Twilight of Common Dreams: Why America is Wracked By Culture Wars*, New York: Henry Holt & Company, 1995).

David A. Hollinger, *Postethnic America*, (New York: Basic Books, 1995).

Giles Gunn, "Introduction: Globalizing Literary Studies," *The Modern Language Association of America*, 2001, pp. 16-31.

Rober Young, *White Mythologies: Writing History and the West*, rpt 2003; (London: Routledge, 1990).

Tzvestan Todorov, *The Conquest of America: The Question of the Other*, (Norman: The University of Oklahoma Press, 1999).

Stuart Hall, *Representation: Cultural Representations and Signifying Practices*, (London: Sage, 1997).

David Reisman, *The Lonely Crowd*, (New Haven: Yale University Press, 2001).

Werner Sollors ed., *Theories of Ethnicity: A Classical Reader*, (London: Macmillan Press, Ltd., 1996).

Charles Taylor, *Multiculturalism: Examining the Politics of Recognition*, (Princeton: Princeton University Press, 1994).

Class Schedule per week:

- | | |
|------------------------|--|
| 1 st Week: | Shopping |
| 2 nd Week: | Introduction to the course, handouts, a short reading list; Imagining the nation—European and Native American ideas. Extract from Todorov's <i>The Conquest of America</i> ; Sollors, <i>Theories of Ethnicity</i> ; de Tocqueville, <i>Democracy in America</i> , |
| 3 rd Week: | 3 Worlds Meet—Europe, West Africa and Native Indian-Video Script. Disney imagining Pocahontas—multicultural, racial (anti-British and anti-Indian) and feminist issues |
| 4 th Week: | Immigration and Cultural Change, video; OMD Directive 15. Immigrant writers such as Saul Bellow/Malamud Isaac Singer/Anzia Yezeriska, Toshio Mori, Hisaye Yamamoto, John Okada, Jhumpa Lahiri, Amy Tan et. al. Handout: Giles Gunn, "Globalizing Literary Studies." |
| 5 th Week: | A brief discussion of topics of presentation such as European pioneers, Native American concept of land/music/family life/politics, immigrants/ multiculturalism/working class life in big cities (Reisman, <i>The Lonely Crowd</i>); personal is political, civil rights movement—Malcolm X/Martin Luther King/FBI; Japanese Americans/Internment camps/loyalties etc. Choose topics for presentation. |
| 6 th Week: | Make small groups (about 2/3 students) to discuss presentation topics followed by question-and-answer discussion session. Summing up—representation of social and political reality. Create a format for presentation/outline. |
| 7 th Week: | World Wars I and II/Postwar America. Extracts from Gitlin and Hollinger; Show all three videos (if time permits). |
| 8 th Week: | Readings form speeches of Malcolm X and Martin Luther King Jr., A discussion of Harlem and the First Abyssinian Church, New York; Handout from Stuart Hall, <i>Representation</i> ; Taylor and Appiah, <i>Multiculturalism</i> . |
| 9 th Week: | American Foreign Policy: Show video US and the World (1865-1917); extract from Huntington's <i>The Clash of Civilization</i> . |
| 10 th Week: | Henry Kissinger and others on American Foreign Policy |
| 11 th Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report |
| 12 th Week: | End-Semester Presentation and 4-page final report |
| 13 th Week: | End-Semester Presentation for latecomers/course evaluation |

Message to those taking this Course:

Please read the handouts and textual material at home so that you are better prepared to discuss topics in class more enthusiastically and creatively.

Grading Methods:

1. End-Semester Class research-based presentation in class (60% credit)
2. An end-semester 4-page report on the topic chosen for presentation (20 % credit), homework based on the text/supplementary material (10% credit)
3. Attendance, Participasion 10% credit.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味

(春学期)(Spring)

AFRICAN ISSUES

近藤英俊

国際センター講師 (関西外国語大学助教授)

Hidetoshi Kondo

Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Sub Title:

The meaning of modernity and crises in Africa

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of movement of people in contemporary Africa. Migration is an important feature of the lives of a large number of African. Contrary to a conventional view that African villagers never see the outside world, they often move away from their villages without severing their ties with homes. It is a practice of *longue durée* as well as experiencing contemporary transformations. However, movement does not merely refer to geographical movements of people but more importantly to social and cultural shifts. People commonly move between groups (therefore change their personal identities), between works, between religious faiths, between medical practices and lots more, which presupposes considerable social and cultural plurality.

Using wide range of academic disciplines, we will explore geographical movements, and social and cultural shifts in contemporary Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) urban-rural migration, (2) multiplicity of identities and their changes, (3) diversification of occupations and jobs, (4) situational changes in religious and medical practice, (5) crisis situations attributable to such movements and plurality. The course will highlight movement as modernity in Africa.

Text Books:

Texts will be distributed in due course.

Reference Books:

1. Trager, L. 2001. *Yoruba Hometowns*. Linne Tiennen.
2. Kondo, H. 2003. "Illness in Between". *Japanese Review of Cultural Anthropology* 4

Message to those taking this Course:

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course!

Grading Methods

Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

国際開発協力論

(秋学期)(Fall)

INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION

長谷川 純一

国際センター講師 (東京大学客員教授)

Junichi Hasegawa

Lecturer, International Center (Visiting Professor, University of Tokyo)

Sub Title:

Framework for Poverty Reduction in Developing Countries

Course Description:

70% of the world population live in developing countries. Discussions will be provided for the students who are expected to live and work in the global world. The main topics of the class are: 1) nature of developing countries and development strategies; 2) actual practice and methodology of aid; 3) public opinion on ODA, national interest and international society; and 4) international organizations, bilateral aid agencies and history of development cooperation.

Text Books:

Printed materials will be provided for the actual cost.

Reference Books:

Todaro, Michael and Stephen C. Smith, *Economic Development 8th Edition*, Harlow/Boston, Pearson Education/Addison-Wesley, 2002

Easterly, William, *The Elusive Quest for Growth Economists' Adventures and Misadventures in the Tropics*, Cambridge: The MIT Press, 2001

Class Schedule per week:

1. Introduction to International Development Cooperation
2. Economies of Developing Country
3. Evolution of Development Economics
4. Actual Practices of ODA
5. ODA, Governing Law and National Interest
6. Japanese ODA and Public Opinion
7. 50 Years of ODA and Thoughts behind It
8. Aid Organizations
9. What is the Role of NGOs?
10. Pursuing Effective Aid
11. Current Topics in Donors' Circle
12. Is Aid Effective? <Micro Macro Paradox>
13. (TBD)

Message to those taking this Course:

Let us think about Development! No prior knowledge is required, but your active participation is strongly encouraged.

Grading Methods:

One Term Paper will be requested. Evaluation will be made based on active class participation (50%) and Term Paper (50%).

Inquires

mailto: j-hasegawa@jbic.go.jp

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(秋学期)(Fall)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING

シヨールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Sub Title:

Human relations in the new global community

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Reference Books:

- 1) Different Realities — Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
- 2) Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule per week:

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact — Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture — the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning — sympathy, empathy & constructions of reality
6. The “Deep difference” model of intercultural development — the three reactions
7. The roots of prejudice — Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism — Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond — Intercultural adaptation
11. Community and the “multi-cultural man”
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

カナダという国とカナダの国際的な役割

(秋学期)(Fall)

CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE

イエローレース, ジェームズ 国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)

James Yellowlees

Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to those taking this Course:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Grading Methods:

Grading Criteria: A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

国際関係

(秋学期)(Fall)

INTERNATIONAL RELATIONS

セツト, アフターブ

慶應義塾大学 グローバルセキュリティ研究所 所長

Aftab Seth

Director, Keio University Global Security Research Center

Sub Title:

A view from a practitioner

Course Description

This series will cover a wide range of subject:

Civilisational cross fertilization, The Cold War, South Asia where one sixth of humanity resides, the vital questions arising from attempts being made to bring about integration at Track I and Track II levels, the increasing role being played by NGOs and civil society in harmonising divergences on a range of issues, the vibrant country Vietnam its troubled past and its bright future, and related topics. These lectures will be

presented in the context of 35 years spent by the lecturer, in the practice of Diplomacy, 7 of which were as a Consul General, in charge of post which is a sub office of an Embassy and 11 years as an Ambassador to 3 countries, Greece, Vietnam and Japan.

Text Books:

象は痩せても象である 英語版・“Even if an elephant gets thin, it is still an elephant”

Reference Books:

Leadership in an interdependent world by Ghita Ionescu, Longman
Reconciliation in the Asia Pacific edited by Yoichi Funabashi, US Institute of Peace Press
Peace and security in the Asia Pacific region edited by Kevin Clements, UN University Press
Contemporary Conflict Resolution, Hugh Miall, Oliver Ramsbotham, Tom Woodhouse by Polity Press
South Asia in the world edited by Ramesh Thakur and Oddny Wiggen UN University Press
The debate over Vietnam by David W. Levy, Johns Hopkins, University Press
Origins of the Cold War edited by Melvyn P Leffler and David S Painter Routledge publishers
Beyond the Judgement of Civilisation by Ushimura Kei Translated by Steven J Ericson by International House of Japan, Japanese title Bunmei no sabaki o koete.
Is Japan still number one, Ezra E Vogel Pelanduk Publications 2000
Victor's Justice Tokyo War Crimes Richard H Minear Princeton University Press
Japanese Higher Education a Myth by Brian J McVeigh published by ME Sharpe 2002
The Journal of Oriental Studies: Special Series The Spirit of India VOL 13 2003, by the Institute of Oriental Philosophy
The Man who Harvests Sunshine by Andras Erdelyi: the Modern Gandhi: MS Swaminathan (to be continued)
Ten Years of the Sasakawa South East Asia Cooperation Fund by Sasakawa Peace Foundation
Innovation and Change selected essays and Christianity in the Arab World by Prince El Hassan bin Talal of Jordan published by Majlis El Hassan Amman Jordan 2003 and SCM Press London respectively.
Bulletin of the Royal Institute for Inter-Faith Studies Vol 5 Number 2 Autumn/Winter 2003 printed by the Institute in Amman Jordan

Class Schedule per week:

- 1) Introduction
- 2) & 3) India and Japan in a resurgent Asia-2 lectures including the role of an embassy
- 4) Cross fertilization in civilizations. A shared past
- 5) The Cold War, origins and demise
- 6) Asian Integration: Economic and Cultural
- 7) Conflict Prevention, Management and Resolution
- 8) South Asia-Perspectives and prospects
- 9) Leadership-its role in diplomacy: governance and inner peace
- 10) Regionalism, Multiculturalism and Multilateralism
- 11) Vietnam: perspective and prospects
- 12) Europe-Unity-Peace
- 13) Role of NGO's in international relations a case study: the MS Swaminathan Foundation, Institute of Satya Sai Education, Sasakawa Peace foundation, Toyota Foundation, The Royal Institute for Inter-Faith Studies

Message to those taking this Course:

There will be an attempt to invite guest speakers who will be Ambassador from other countries. This may lead to some changes in the titles of the lectures and the structure. The aim is to share experiences in the craft of diplomacy, the practical aspects of conducting international relations, including bilateral relations between 2 countries. Students from all faculties are welcome.

Grading Methods:

- Written Exam
- Graded on the basis of participation in class and group discussions and regular attendance.
- There will also be an oral interview for meritorious students

VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM

エインジ, マイケル W. 経済学部助教授

Michael W. Ainge Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Text Books:

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)

HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)

THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)

QUILOMBO (BRAZIL, 1984)

SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)

TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

WALKER (U.S.A., 1987)

Last Samurai (U.S.A., 2003)

Grading Methods:

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation(40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper(60%).

DEVELOPMENT AND SOCIAL CHANGE

倉沢 愛子

経済学部教授

Aiko Kurasawa

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Effect of Development Policy and Social Change at Grass-roots Community in Indonesia

Course Description:

I will describe social changes brought by rapid and heavy development policy, taking a case of Indonesia. My analysis is based on field research in two sites (one urban and another rural) where I have been watching since 1996. I will focus on changes on such aspects as human relations within the community, flow of information and changes in communication mode, religious piety, life-style etc. I will show you video which I recorded at the research sites.

Through this course first of all I want you to get clear image on people's life in a relatively “unknown” world, and so doing, to reconsider such questions as what is “development” and what is “prosperity. Does economic development really bring you prosperity and happiness? Critical analysis and evaluation are most welcome.

Text Books:

give you hand-out

Reference Books:

倉沢愛子 『ジャカルタ路地裏フィールドノート』 中央公論新社 2001年

Class Schedule per week:

- (1) Introduction on Indonesia
- (2) Suharto's development policy and foreign aid (national level analysis)
- (3) Development policy in economic sector
- (4) Development policy in health sector (2 times)
- (5) Development policy in education
- (6) Neighborhood Association and Control of people
- (7) Increased flow of Information
- (8) Strengthening of Muslim belief (2 times)
- (9) Emergence of new urban middle class
- (10) Globalization and flow of pop culture
- (11) Definition of "prosperity"

Message to those taking this Course:

read several books on developing countries in Southeast Asia

Grading Methods:

Reports (4-5 pages (A4) of essay), Attendance,Participasion (requires 70% attendance)

アジア諸国におけるビジネスマネジメント

(秋学期)(Fall)

BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES

トビン , ロバート I. 商学部教授

Robert I. Tobin

Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on business strategy and the styles of management of firms headquartered in Japan, North America and Europe.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on managing Asian operations, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, projects, experiential class activities, case studies and research assignments.

Text Books:

Text TBA

Additional assigned articles, case studies and supplementary readings

Reference Books:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule per week:

Introduction
 How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Hybrid Management Styles
 Leading Foreign Firms Successfully
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Style
 Political and Economic Risks in Asia

Executive Development and HR
Challenges in Asia
Competition with Family Businesses
Business in Frontier Markets
Company Presentations

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries in this region. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluations:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Questions, Requests:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ

(秋学期)(Fall)

EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS

林 秀毅

経済学部非常勤講師 (新光証券商品企画部部长・グローバルストラテジスト)

Hayashi, Hideki

Part-time Lecturer, Faculty of Economics (Global Strategist, General Manager Financial Products Planning Department Shinko Securities Co., Ltd)

Course Description:

This course is intended to understand the EU-Japan relations, offered in English. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical.

In each lecture, points will be discussed based on Powerpoint documents. As it is expected to be a small class, active questions and comments by students are welcome.

At the end of each lecture, the topic to be discussed in the following week will be announced. Students are supposed to submit report on the topic one week after.

Text Books:

Julie Gilson, "Japan and the European Union. A Partnership for the Twenty-First Century", Palgrave Macmillan, 2000. (Several Copies of the text are on reserve at the library.)

References:

Kaji, Hama and Rice, "The Xenophobe's Guide to the Japanese," Oval Books, 1999.

Class Schedule (Subject to change):

Lectures will be based mostly on chapters of the text.

Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations (1)

Chapter 2 Developing Cooperation 1950s - 80s (2)

Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan (3, 4)

Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan (5, 6)

Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations (7, 8)

Chapter 6 Cooperation in Regional Forums (9, 10)

Chapter 7 Addressing Global Agendas (11, 12)

Chapter 8 Conclusions: A partnership for the Twenty-first Century (13)

Each number in parenthesis indicates the number of the lectures subject to change. Additional articles and materials will be introduced, if necessary.

Message to Those Taking This Course:

The knowledge on European language (French, German, Italian, or Spanish) is preferable, but not essential.

Evaluation:

Exam. Reports. Attendance.

Questions and consultation:

Anytime during the class, also by e-mail.

産業史各論（科学技術政策史）

（春学期 X Spring）

HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY

ルイス, ジョナサン

商学部非常勤講師（一橋大学助教授）

Jonathan Lewis

Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It focuses on the roles of states, in promoting and regulating scientific research and technological development.

In previous years I have talked in Japanese for the first half of each class and English for the second half, but will adjust this to fit students' preferences.

Reference Books:

Etzkowitz, Henry, 2002. *MIT and the Rise of Entrepreneurial Science*. Routledge.

Fuller, Steve, 1997. *Science*. Open University Press.

Levy, Pierre, 2001. *Cyberculture*. University of Minnesota Press.

Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. *Science, technology and society in contemporary Japan*. Cambridge University Press.

Penley, Constance. 1997. *NASA/Trek: popular science and Sex in America*. Verso.

Samuels, Richard J., 1994. *Rich Nation, Strong Army*. Cornell University Press.

加藤弘一 著「*電腦社会の日本語*」文春新書, 2000

中山茂 他 著「*通史 日本の科学技術*」ガクヨウ書房, 1995

Class Schedule per week:

1. オリエンテーション
2. 技術政策の概要
3. イノベーションと技術普及論
4. 宇宙ロケットの開発史
5. プロジェクト・オライオン（原子力ロケット）
6. 国際宇宙ステーション
7. 海洋研究
8. 規格の役割。文字コードを例に
9. 著作権制度
10. オープン・ソース・ソフトウェア
11. コンピュータセキュリティ
12. 科学技術政策と大学
13. まとめ

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan_lewis@mac.com

<http://www.lewis.soc.hit-u.ac.jp>

SEMINAR: LECTURE OF ETHICS 1

樽井 正義	文学部教授
Masayoshi Tarui	Professor, Faculty of Letters
エアトル, ヴォルフガング	文学部助教授
Ertl, Wolfgang	Associate Professor, Faculty of Letters

Sub Title:

Global Justice

Course Description:

Having been focused almost exclusively on the structure of singular societies, contemporary political philosophy has only recently begun to tackle normative issues of a global scale. The most prominent example is John Rawls who reapplied his famous original position argument on the level of peoples. Strikingly enough and to the dismay of many of his followers, Rawls thinks that there are only extremely weak principles of redistribution operating globally in marked contrast to the demands within a liberal society. In reaction to Rawls's claims a lively debate developed as to whether it might be possible to derive far stronger principles of global distributive justice and what they might look like. Two issues turned out to be of crucial importance: is there an equivalent to the so-called difference principle according to which inequalities are only justified if they are to the benefit of the worst-off? Between which entities are these principles supposed to operate, between peoples or states or rather between individual human beings? We are going to look at these discussions in more detail without confining ourselves to considerations of Rawls scholarship. Instead we shall also try to take into account different lines of thought.

Texts:

Pogge, Thomas (ed.): Global Justice. Oxford, Malden (Mass.): Blackwell 2001.(available in paperback)

Course Schedule (Subject to Change):

- 1) Introduction
- 2) Background: Rawls's "Law of Peoples"
- 3) Priorities of Global Justice
- 4) Global Inequality and International Institutions
- 5) Global Distributive Justice
- 6) Contractualism and Global Economic Justice
- 7) The Disanalogy of States and Persons
- 8) Cosmopolitan Justice and Equalizing Opportunities
- 9) The Global Scope of Justice
- 10) Towards a Critical Theory of Transnational Justice

GRADUATE SEMINAR ON EUROPEAN INTEGRATION

田中俊郎	ジャン＝モネ チェア教授
Toshiro Tanaka	Professor, Jean Monnet Chair
細谷雄一	法学部専任講師
Yuichi Hosoya	Lecturer, Faculty of Law
庄司克宏	法務研究科 教授
Shoji Katsuhiko	Professor, Law School

Course Description:

The European Union strives to establish a new order in Europe. While the EU attempts to deepen its construction through the Maastricht Treaty, the Amsterdam Treaty, the Nice Treaty and the Treaty establishing a Constitution for Europe, it has enlarged its scope to South and East, from 15 to 25 member states on May 1 2004.

This year, the seminar will focus on the enlargement and the deepening of the EU, trying to shed more lights on the historical development, to analyze its problems and outline future perspectives on the subject.

Course Schedule (Subject to Change):

1. Official Language: English
2. Presentation by students and discussion to follow.
3. Special guests will be invited from the European Commission, Embassies of the member states and acceding countries in Japan, and researchers including professor from "Science Po" in Paris will be invited.

Evaluation:

Each student will be expected to give oral presentations and join in discussion during the semester. Each student is also expected to submit a term paper by the end of the semester (Length: 15 double-spaced typewritten pages including footnotes.)

Inquiries:

Call Extension 22006 for appointment.

金融特論

(秋学期) (Fall)

ADVANCED STUDY OF FINANCE

深尾光洋

商学部教授

Mitsuhiro Fukao

Professor, Faculty of Business and Commerce

Sub Title:

Corporate Governance and Financial System

Course Description:

The governance structure of limited liability companies that stipulates the relationship among the management, stockholders, creditors, employees, suppliers and customers is important in determining the performance of the economy. Although the OECD countries are generally characterized as market economies, there are considerable differences among these countries in the organizational structure of the economy.

One of the major aims of this course is to understand the institutional differences in corporate-governance structures of companies in major industrial countries including the United States, Japan, Germany, France and the United Kingdom. The differences in the corporate-governance structure have a number of implications for the performance of companies. For example, the cost of capital and the effective use of human resources would be affected by this structure.

In recent years, the deepening international integration of economic activities has heightened awareness of cross-country differences in corporate-governance structure and putting a strong pressures for convergence in some aspects of corporate governance systems. The course will also survey these trends.

1. General Concept

Fukao, Mitsuhiro, *Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of multinational Companies*, Brookings, 1995.

2. Hostile Takeovers

Scheifer, Andrei, and Lawrence H. Summers, "Breach of Trust in Hostile Takeovers", in *Corporate Takeovers: Causes and Consequences*, edited by Alan J. Auerbach, University of Chicago Press, 1988.

Roe, Mark J. "Takeover Politics", in *Dear Decade*, edited by M. Blair, 1993.

3. Elements of Governance

Kaplan, Steven N., "Top Executive Rewards and Firm Performance: A Comparison of Japan and the United States," *JPE*, Vol. 102, No.3, June 1992

Franks, Julian R., "Lessons from a comparison of US and UK Insolvency Codes," *Oxford Review of Economic Policy*, Vol.8, No.3, June 1994

Bank of Japan, "The Japanese Employment System," *Bank of Japan Quarterly Bulletin*, May 1994.

Black, Bernard, "Creating Strong Stock Market by Protecting Outside Shareholders," remarks at OECD/KDI conference on Corporate Governance in Asia: A comparative Perspective, Seoul, March 3-5, 1999.

Newbury, Robert W., Rachel Leahey, Annick Siegl and Stacey Burke, *Board Practices 2000*, IRRC, 2000.

William C. Powers, Jr., Raymond S. Troubh, and Herbert S. Winokur, Jr., "Report of Investigation by the special investigative committee of the board of directors of Enron corp.," February, 2002.

4. Financial System

Fukao, Mitsuhiro, "Japanese Financial Instability and Weaknesses in the Corporate Governance Structure," Seoul Journal of Economics, Vol.11, No.4, 1998.

Fukao, Mitsuhiro, "Barriers to Financial Restructuring: Japanese Banking and Life-Insurance Industries," paper for a NBER conference on "Structural Impediments to Growth in Japan" on March 18-19, 2002.

Grading will be based on the term paper and class participation.

The topic of the term paper has to be related to the content of the class. For example:

Comparison of governance structures among some countries, Governance structure of government owned companies and private companies, Issues related to bankruptcy procedures, Security exchange law and governance system, Incentive mechanism for directors, Banking problems and deposit insurance system.

Text:

Fukao, Mitsuhiro, Financial Integration, Corporate Governance, and the Performance of Multinational Companies, Brookings, 1995.

会計学	(秋学期) (Fall)
Accounting	
伊藤 眞	商学部教授
Makoto Ito	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

International Accounting Standard and International Financial Reporting Standard

International Accounting Standards (IAS) issued by the International Accounting Standards Committee (IASC), and International Financial Reporting Standards (IFRS) issued by International Accounting Standards Board (IASB), which is restructured from IASC, have been making their presence felt around the world recent years. IASB has been and is continuing to study accounting issues and prepare new IFRS and improve IAS.

Some multinational enterprises, whose headquarters are located in Europe, have been preparing their consolidated financial statements in compliance with IAS (including IFRS) for purpose of cross-boarder security offerings and listings on foreign securities offering.

All enterprises, which are domiciled and listed in the European Union, will be required to report in accordance with IAS from year 2005. Many countries are taking steps to harmonize their national accounting standards with IAS with some modifications to allow for local environment.

In this course, we will study the brief history of IAS, IASC and IASB, Framework for the Preparation and Presentation of Financial Statements, and some significant accounting standards, such as IAS2 "Inventory", IAS11 "Construction contracts", IAS12 "Income Taxes" and IAS39 "Financial Instruments: Recognition and Measurement", which will be compared with the US Generally Accepted Accounting Principles (US GAAP) and Japanese GAAP, when necessary.

After the first session of introduction to IAS, each student will be assigned in advance to report on a Standard, followed by discussion, case studies and my supplementary explanation or comments.

Text:

International Financial Reporting Standards 2005, IASB

The number of students who register this course through International Center will be limited to 5 persons.

国際経済	(秋学期) (Fall)
International Economy	
小島明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

The class covers various international economic policy issues including trade, Investment (foreign direct investment), foreign exchange policy, WTO process, FTAs (Free Trade Agreements), regional integration, competitiveness issue, economic development strategy and so on.

Students will be put in the very front line of policy debate of international economy. Real voices of policy makers, business leaders and scholars will often be given to the students through recorded tapes and videos. As I have good many chances to participate to many important international policy debates, the student can be given the chance of sharing such experiences of mine. Practical, as well as theoretical approach will be introduced.

Texts:

“Globalization and its Discontent”, Joseph E. Stiglitz, Norton, 2002

METI “White Paper on International Trade 2004” (This document can be accessed through METI web site, both in Japanese and English.)

Recommended Readings:

Various analytical reports and documents of IMF, World Bank and other institutions are recommended as required.

日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1 日本のコミュニケーションパターンから見た場合
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1

(春学期) Spring)

手塚千鶴子
Chizuko Tezuka

国際センター教授
Professor, International Center

Sub Title:

Seen from Japanese communication patterns

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra
Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba
An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef
Intercultural communication :a reader (6th edition) by L. A. Samovar & R. E. Peter

Course Schedule:

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. *Amae* psychology: prototype of *Amae* and definition of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi, Enryo and Honne* vs. *Tatema*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2
14. Wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper

based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

英国と米国のマスコミに描かれた日本
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION

(春学期) (Spring)

キンモンズ, アール H. 国際センター講師 (大正大学教授)
Earl H. Kinmonth Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Reading:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course — “Whose images of which Japan?”
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation — Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation — progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan
9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching — the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother — the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment — rational choice versus revisionism in the American view of Japan’s “bubble economy”
13. “Comfort Women” and “The Rape of Nanking” — American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state — American images of “post bubble Japan”

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

Sub Title:

Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

Message to Those Taking This Course:

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student's own initiative.

Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

Course Description:

Japanese prose literature of the modern period will be discussed in this lecture course. In "Journey Through the Floating World" last summer, we covered the pre-modern literature of the Tokugawa period, an era that came to an abrupt end with the Meiji Restoration of 1868. The resulting political and social upheaval had a traumatic effect on many aspects of Japanese life, and literature was no exception. Some savored the sharp break with the past, while others looked back on their own cultural heritage for inspiration and continuity. We will focus on the development of the modern novel through the works of such writers as Natsume Soseki, Mori Ōgai, Akutagawa Ryūnosuke, Kawabata Yasunari, Tanizaki Junichirō and Mishima Yukio. Modern film adaptations will also be introduced.

Text Books:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/mezame.htm)

Recommended Reading:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Reading:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%, Final Exam/ Project (TBA) 40%, Class Participation 20%, Home work 10%

美術を「よむ」 - 日本美術史入門

(春学期) Spring)

INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN

村井則子

国際センター講師

Noriko Murai

Lecturer, International Center

Description:

This course explores the history of Japanese art from the mid-nineteenth century to the present. Modernity was first and foremost articulated through the construction of the nation state “Japan.” Visual arts played a central role in providing the modern nation with a cultural, social, and psychological identity. We will study the significance of modernity and modernism in different media including painting, sculpture, photography, and architecture. We will also consider broader issues such as commodity consumption, gender, and imperialism in the context of visual representation.

Requirements:

1. Short paper (4-5 double-spaced pages)
2. Take-home midterm exam
3. Take-home final exam
4. Two field trips to museums in the area

Readings:

There are no textbooks for the course. A *Source Book* containing all required readings for the course will be put on reserve.

Proposed Syllabus:

1. *Introduction*
2. *Constructing "Japanese Art"*
READING: Ellen Conant, "Refractions of the Rising Sun: Japan's Participation in International Exhibitions 1862-1910," (1991); Christine Guth, "From Temple to Tearoom," (1993).
3. *From Edo to Meiji: Takahashi Yuichi and Kanô Hôgai*
READING: Tôru Haga, "The Formation of Realism in Meiji Painting: The Artistic Career of Takahashi Yuichi," (1971); Ellen Conant, "Tradition in Transition, 1868-1890," (1995).
4. *Body and the Nude*
READING: Norman Bryson, "Yôga and the Sexual Structure of Cultural Exchange," (1994).
5. *Okakura Kakuzô and the Aesthetic Ideology of Asia*
READING: Excerpts from Okakura Kakuzô, *The Ideals of the East*, (1903) and *The Book of Tea*, (1906); Emiko Usui, "National Identity, the Asiatic Ideal, and the Artist: Okakura Presents the Nihon Bijutsuin in Boston," (1999).
6. *The Modern Artist, Urban Spectacle and the Modernist Vision*
READING: John Clark, "Artistic Subjectivity in the Taisho and Early Showa Avant-Garde," (1994); Miriam Silverberg, "Constructing the Japanese Ethnography of Modernity," (1992).
7. *Orientalism, Nativism, and Traditionalism*
READING: Alexandra Munroe, "Circle: Modernism and Tradition," (1994); Yoko Kikuchi, "Hybridity and the Oriental Orientalism of *Mingei* Theory," (1997).
8. *Images After Ground Zero*
READING: John Dower, "Japanese Artists and the Atomic Bomb," (1993); Yamanashi Emiko, "Painting in the Time of 'Heavy Hands'," (1997).
9. *Action and Expression: the Gutai Association*
READING: Sin'ichiro Osaki, "Body and Place: Action in Postwar Art in Japan," (1998).
10. *"Anti-Art" in the 60s*
READING: Alexandra Munroe, "Morphology of Revenge: The Yomiuri Independent Artists and Social Protest Tendencies in the 1960s," (1994).
11. *The Postwar Unconscious: Performance and Photography*
READING: Mark Holborn, "The Object Eye," "Junin-no-me," and Eikoh Hose," (1986); Susan Klein, "The Origin and Historical Context of Ankoku Butô," (1988).
12. *Architecture and the Public Space*
READING: Kenneth Frampton, "Twilight Gloom to Self-Enclosed Modernity: Five Japanese Architects," (1986).
13. *Image in the Age of Digital Manipulation: the 90s and beyond*
READING: Norman Bryson, "Morimura: 3 READINGS," (1996); Yuko Hasegawa, "Pachinko, Mandala and Merry Amnesia," (1997); Alexandra Munroe, "*Hinomaru Illumination*: Japanese Art of the 1990s," (1994).

Bibliography:

Bibliography will be distributed at the first class.

日本の近代思想：福澤諭吉と丸山真男

(春学期) Spring)

JAPANESE TRADITION OF MODERN THOUGHT: FROM YUKICHI FUKUZAWA TO MASAO MARUYAMA

坂本 達哉

経済学部教授

Tatsuya Sakamoto

Professor, Faculty of Economics

Sub Title:

Seminar for reading and discussing some key texts from the works of the two most influential thinkers

Course Description:

This course aims to introduce students to a long and complicated history and its unique characteristics of Japanese modern thought as best represented by the works of Yukichi Fukuzawa, the founder of Keio University, and those of Masao Maruyama, the most single influential thinker in the post-war Japan.

Text Books:

No particular text book will be used, but excerpts from the central writings by Fukuzawa, Maruyama and other great Japanese thinkers will be provided as the course develops.

Class Schedule per week:

A feature of the course is its seminar style presentation. It uniquely attempts to include ample opportunities for an exchange of opinions between instructor and students and between students. Every class will be divided into three parts. First, an introductory lecture by the instructor will be made to highlight the historical and intellectual backgrounds of the relevant texts to be discussed every time. This is followed by a prepared essay presentation by students. The rest of the class will be devoted to a class discussion. The first half of the entire course will deal with the works of Fukuzawa and the second those of Maruyama.

Message to Those Taking This Course:

This course is intended for international as well as Japanese students who eagerly wish to learn the wealth of Japanese intellectual tradition from Fukuzawa to Maruyama in English.

Grading Methods:

Grading will be based on attendance, in-class presentations and a short term paper.

日本人の心理学 (1) コンフリクト・マネイジメント	(春学期) (Spring)
JAPANESE PSYCHOLOGY IN CONTEMPORARY JAPAN (1)	
手塚 千鶴子 国際センター教授	
Chizuko Tezuka Professor, International Center	

Sub title:

Conflict Management

Course content:

This course is designed to explore how Japanese manage interpersonal conflict both among themselves as well as in interaction with foreigners and its implications for Japanese society which is becoming more multicultural in this accelerated globalization age. Though a Western notion of conflict in the West claims that it is inevitable yet not necessary bad, the Japanese society has been described to believe in its self-image as a conflict-free society and to abhor and avoid interpersonal conflicts at any cost. With this apparent contrast in mind, students will learn characteristics of Japanese conflict management strategies, their cultural and social psychological backgrounds, and the challenges for both Japanese people and foreigners in trying to creatively deal with intercultural conflicts. And students will be asked to take some social psychological measures for self-understanding.

Textbooks:

no designated textbook and handouts will be distributed.

References:

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff, University of Hawaii Press, 1990.

Japanese Culture and Society: model of interpretation edited by Kreiner and Olscheleger, Monographien 12, Deutschen Institute fur Japanstudien der Philipp-Frantz-von-Siebold-Stiftung, 1996.

Course schedule (subject to change)

1. Orientation to the course and test-taking on conflict management style
2. Harmony Model vs Conflict Model of Japanese society and orientation to writing conflict episode journals
3. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: Bullying in Japanese Schools
4. Non-confrontational Strategies of Conflict Management: *Karoushi and Gaman* in Japanese Work Place
5. Japanese cultural values underlying non-confrontational strategies
6. How Japanese express anger
7. Comparison of conflict management between Japan and U.S.A.
8. Intercultural conflict around the *Ehimemaru* Incident in Jan, 2001

9. Intercultural conflict between Japanese teachers and int'l students
10. Japanese conflict management seen from a perspective of a bicultural writer, Kyouko Mori
11. How to make use of our own anger creatively
12. Wrap-up session

Messages to students:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions. Active participation in pair-work, group work and class discussion is a must.

Evaluation:

Overall grade will be based on attendance, essays, participation in class, final presentation, and its resultant final paper. .

Questions and consultation:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

近代日本の対外交流史

(秋学期) (Fall)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

太田昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Textbooks:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures): General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures): the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
4. Japanese Visits Abroad (2 lectures): the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
7. The significance of the Iwakura Mission (1 ~ 2 lectures)
8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures): comparative analysis of several primary sources
Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 3,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

手塚千鶴子
Chizuko Tezuka

国際センター教授
Professor, International Center

Sub Title:

Identity of Japanese sojourners

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Textbooks:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Reading:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.

The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherheel, 1991.

Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.

Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed.by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.

Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.

Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment I: culture as mental softwear, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for both Japanese and non-Japanese in the globalizing world
14. Wrap-up

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or

Sub Title:

A case study of cross-cultural contact

Course Description:

Christianity in Japan presents us with a number of paradoxes. For example, although the majority of Japanese today choose Christian-style weddings, the actual number of Christians amounts to less than one per cent of the total population (as opposed to about 25 per cent in its close cultural neighbour, South Korea). This 'failure' contrasts with the relatively greater growth of Christianity in the late sixteenth and early seventeenth centuries, even though the total number of missionaries was much smaller and the linguistic and logistical barriers greater. Perhaps the greatest paradox occurred after Christianity was virtually eliminated through an increasingly severe campaign of persecution from 1614 onwards. Small groups in isolated communities succeeded in preserving recognisably Christian beliefs and practices. However, many of these groups refused to accept the authority of Roman Catholic missionaries when they returned to Japan in the second half of the nineteenth century.

In the course we will consider these and other issues, using a combination of primary and secondary materials. By studying the activities and ideas of missionaries, Japanese Christians, and Japanese who did not become Christian, students will gain general understanding of the dynamics of cross-cultural contact. They will also learn about the nature of history through interpreting primary materials and studying different approaches to the history of Christianity in Japan.

Recommended Reading:

There will be a selection of assigned readings for each class (in Japanese, English and occasionally in other European languages or Chinese). Students will find it useful to start the course with a basic knowledge of Japanese history, Japanese religion, and Christianity. All suggestions for reading will be displayed on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>).

Class Schedule per week:

1. Orientation and overview
2. The background: Christianity missionary activity and religion in Japan
3. Jesuit approaches to Japan
4. Japanese approaches to Christianity
5. Christianity and Japanese politics
6. Christianity in Tokugawa Japan (1) Government policies
7. Christianity in Tokugawa Japan (2) Responses to government policies
8. The return of Roman Catholic missionaries and the 'hidden' Christians
9. Christianity and social change in Japan 1859-1945
10. Christianity and patriotism in Japan 1859-1945
11. Christianity in Japan in the second half of the twentieth century
12. Christianity in Japan today
13. Concluding remarks

Message to those taking this Course:

I hope to attract students from a variety of backgrounds. This is because the course will gain from the combined viewpoints of people from areas which have sent Christianity missionaries to Japan, such as Portugal and the United States, and of people from areas which have played host to Christian missionaries, both in Asia (including Japan itself) and elsewhere.

I will expect students to attend all classes, on time, to do the assigned readings, and to participate in class presentations and discussions. Sessions will be organised into a combination of formal lectures and interactive seminars.

Grading Methods:

Oral presentations(30%), Reports(At least one short and one long (50%) , Attendance and Participation(20%)

Questions, Requests:

Students wishing to ask a question or arrange an appointment should talk to me before or after classes, or send an e-mail. My e-mail address is given on my web site (<http://web.hc.keio.ac.jp/~hjb/>)

多民族社会としての日本

(秋学期)(Fall)

MULTIETHNIC JAPAN

柏崎千佳子

経済学部助教授

Chikako Kashiwazaki

Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, *zainichi* Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary — Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (20%), presentations (20%), and reading/writing assignments including a short essay and a term paper of 1,800+words (60%).

政策決定、歴史的記憶、人種から見る明治期日本外交

(秋学期)(Fall)

JAPANESE DIPLOMACY IN THE MEIJI ERA

飯倉章

国際センター講師 (城西国際大学教授)

Akira Iikura

Lecturer, International Center (Professor Josai International University)

Sub Title:

Decision-making, historical memory and race

Course Description:

This course aims to examine Japanese diplomacy in the Meiji era from diverse angles and provide students with some new perspectives on the historical events in the period such as the triple intervention, the Anglo-Japanese alliance, and the Russo-Japanese War. Students will gain an understanding of Japanese diplomacy in the Meiji era and learn how to analyze historical events through decision-making theories, historical memory, and the concept of race.

Text Books:

No textbook will be used. Handouts will be given as reading assignments.

Reference Books:

Recommended readings will be suggested in the course of the lecture.

Class Schedule per week:

1. Introduction to the course and decision-makers in the Meiji era
2. The trauma of Japanese diplomacy: unequal treaties, the triple intervention and the Portsmouth treaty
3. The Yellow Peril and its influence on Japanese foreign relations
4. The Anglo-Japanese alliance and the question of race
5. The lessons of the Anglo-Japanese alliance: Is an alliance with an "Anglo-Saxon" state reliable?
6. Was the war evadable or inevitable?: perception and misperception of Japanese decision-makers before the Russo-Japanese war
7. The Russo-Japanese war as an icon in historical memory
8. Wrong lessons from the "success" of the war and the "defeat" in diplomacy
9. Explaining the Russo-Japanese war through the application of Graham Allison's decision-making theories
10. The changing views of Japan during the Russo-Japanese war: Japan from protégé to world power
11. The wars and leaders in the Meiji era that live in Japanese culture

Message to those taking this Course:

The lecturer will put special emphasis on the Russo-Japanese war of 1904–05 by showing some new scholarly works, popular history and commemorative articles on the war that appear mainly during the years 2004 and 2005, the hundredth anniversary of the war. The lecturer will illustrate the lecture by using slides and videotapes.

Grading Methods:

The final exam will be given based on the lecture. A short term paper on one of designated questions will be assigned. Attendance and class participation will be particularly important.

日本の文学

(秋学期)(Fall)

JAPANESE LITERATURE

アーマー , アンドルー 文学部教授

Andrew Armour Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Instructions and materials are provided on the class website (www.armour.cc/jlit.htm).

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the class website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Messages to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q&A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

20 世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響

(秋学期) (Fall)

THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION

レイサイド, ジェイムス 法学部教授

James M. Raeside

Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki.

Reference Books:

Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』

English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour

Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』

English Translation: A strange Tale from East of the River

Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』、『地獄変』、『河童』

English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa

Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』、『蓼喰う虫』

English Translation Naomi; Some Prefer Nettles

Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』、『憂国』

English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"

Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』

English Translation Silence

Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』

(There Stands my Pagoda)

Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』

English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!

Murakami Haruki. 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』

English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

Grading Methods:

Reports

Sub Title:

The slow pace of economic reform

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese economic system, the style of economic regulations/deregulations and how the central/local government's involvement in many areas of the economy differs from other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, 'Arthritic Japan' which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) show several illustrative videos and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries. There will also be some special one-off guests who will talk about their experiences in dealing with regulations in the Japanese trade environment (all speeches will be given in English).

Text Books:

Edward, J. Lincoln, Arthritic Japan: the slow pace of economic reform, Brookings, 2001.
(Now available in Japanese translation (Nippon-hyoron-sha, 2004))

Reference Books:

Additional materials will be provided during some sessions as necessary.

Class Schedule per week:

(Subject to some changes):

Session 1 guidance and introduction

Session 2-4 the Japanese postwar economic system and related theories

Session 5-6 industrial policy and government involvement in the economy

Session 7-8 the bubble economy and macroeconomic policies

Session 9 the arguments about the current "structural reform" issue

Session 10-11 Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system

Session 12-13 problems (in topics) with regard to current systemic economic reform and deregulation

Message to those taking this Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give the students copies of journal articles (such as those from the Japan Times) as supplementary materials. The students will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles or the videos shown in the lectures.

Grading Methods:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Questions, Requests

The lecturer's contact address is noriko@fbc.keio.ac.jp

Sub Title:

'Amae' Reconsidered

Course content:

This course is designed to reconsider comprehensively the concept of 'Amae' which was first introduced as a key concept for understanding Japanese psychology by Dr. Doi, as the Japanese society itself has undergone a considerable change under the influence of the globalization since then, and because there has been the accumulated theoretical, speculative or empirical research including cross cultural one which shows the existence of *Amae* outside of Japan. Therefore, this course will explore answers to the following questions: 1) is *Amae* still a key concept for understanding Japanese psychology?, 2) how the expression and satisfaction of *Amae* needs is transformed in contemporary Japan, 3) to what extent and in what form *Amae* is found among people across cultures, and 4) what kind of challenges and/or benefits this Japanese concept can give to those people who do not find the exact equivalent in their mother tongues.

Textbooks:

no designated textbook and handouts will be distributed.

References:

The Anatomy of Dependence by Takeo Doi, Kodansha International, .1973.

The Anatomy of Self by Takeo Doi, Kodansha International, 1986.

Dependency and Japanese Socialization by Frank A. Johnson, New York University Press, 1993.

Course schedule:

1. Orientation to the course and the drawing task of "my relationship with my mother in my childhood"
2. Multiple definitions of *Amae*
3. Understanding *Amae* through visual images: comparison of 'Peanuts' and '*Doraemon*'
4. Healthy *Amae* Interaction: mutuality and reciprocity in Japanese social relationships
5. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese companies
6. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through empirical research
7. Transformation of *Amae* in contemporary Japanese families seen through children's drawings of meals and HTP test
8. Cross cultural empirical research on *Amae*
9. An American expatriate's response to *Amae* interaction in Japan
10. *Amae* in cross cultural counseling cases in Japan
11. Functions of healthy *Amae*: social support?
12. *Amae* and Aggression from cross cultural perspectives
13. What do foreigners gain by learning about the concept of *Amae* contribute to peoples
14. Wrap-up session

Messages to students:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion. Students are expected to complete reading assignment before coming to class.

Evaluation:

Overall grade will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Questions and consultation:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

日本の宗教：救済の探求

(秋学期 X Fall)

RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION

ナコルチェフスキー , アンドロイ 文学部助教授

Andrei Nakortchevski Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as "Religions in Japan" and not as "Japanese Religions." Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion — Shinto and maybe some eclectic so called "new religions", and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities — art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle — "In Search of Salvation." Especially this aspect becomes important when we deliberate "new religions", including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

日本経済の展望

(秋学期)(Fall)

ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN

市川博也

国際センター講師 (上智大学教授)

Hiroya Ichikawa

Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Books:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule per week:

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "Reform and Reconstruction" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy — backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia — the labours Sisyphus —"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization — the Linchpin of Reform-"
chapter 11 "Foreign Direct Investment — A Sea Change —".
See Nakamura chapter 7.
9. Discuss "The Collapse of the Bubble Economy" Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, "The political Economy of Japanese monetary Policy,"
chapter 5 "The Bubble Economy and its Collapse"
chapter 6 "Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Usen Companies, and Regulatory Inertia." The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. "Financial integration — The Iceberg Cracks —".
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan's Economic Growth
chapter 1 "Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation"
chapter 2 "Fiscal Policy Works When it is tried".
chapter 3 "The Short and Long of Fiscal Policy" in Adam S. Posen, Restoring Japan's Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 "Fiscal dilemmas," chapter 7 "Monetary magic bullets are blanks", chapter 8 "Japan cannot export its way

out”.

Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.

11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.
12. Can Japan Compete?
Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”
Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,
Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”
Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000
Richard Katz, chapter 16 “Competition policy — Not enough competition, even less policy”.
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises — The Moment is Clear, the destination is not.”
Chapter 19. “Tax Reform — Don’t Exacerbate Anorexia”.

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.
High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

家族の近代

(秋学期)(Fall)

THE FAMILY IN HISTORICAL PERSPECTIVE

ノッター , デビッド 経済学部助教授

David M. Notter Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

In this course we will examine the family in historical and sociological perspective. The emphasis will be on “modern” family arrangements in nineteenth- and twentieth-century America, but some consideration will also be given to the family in Japan and Europe, and modern family arrangements will also be compared and contrasted with traditional family arrangements. The course will be organized thematically in accordance with the stages of the life course: childhood; adolescence; marriage; and old age.

Text Books:

Family: The Making of an Idea, an Institution, and a Controversy in American Culture by Betty G. Farrell

Grading Methods:

Evaluation will be based on attendance, participation in formal class discussions, essays, and a final paper.

日本の金融ビッグバン

(春学期)(Spring)

FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN

ハリス , グレアム O.B.E. 商学部非常勤講師

Graham Harris O.B.E. Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Books:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign

and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established — many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation

ジャパニーズ・エコノミー

(春学期)(Spring)

JAPANESE ECONOMY

小島 明

商学研究科教授

Akira Kojima

Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

“Japan's Policy Trap Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance”, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

“Balance Sheet Recession Japan's Struggle with Uncharted Economics and its global implications”, by Richard C, Koo, 2003 John Wiley & Sons Pte Ltd.

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam

ECONOMY OF JAPAN

吉野 直行

経済学部教授

Naoyuki Yoshino

Professor, Faculty of Economics

Course Schedule per week (Subject to Change):

「Economy of Japan」

1. Historical fluctuations of Japanese Economy and the Monetary Policy
2. Flow of Funds Table of Japanese Economy
(Government Sector, Financial Sector, Firm Sector, Households' Sector)
3. Monetary Policy of Japan, Asset Price Inflation and Recent Recession
4. Fiscal Policy of Japan, Budget Deficits
5. Industrial Policy of Japan, Tax Policy and Fiscal Investment Policy
6. Capital Market of Japan (Bond market, equity market)
7. Bank Failures and Bank Restructuring
8. Aging population of Japan and Its impact on Japanese Economy
9. Privatization of Postal Savings and Japanese Financial Market
10. Currency Crisis of Asia, Its causes and consequences
11. Exchange Rate Policy of Asia and Optimal Exchange Rate System
12. Effectiveness of Public Works in Japan and Revenue Bond
13. Central and Local Government Relations in Japan
14. Japanese Policy Making and Incentive Mechanism
15. Final Examination

科学技術文化特論

(秋学期) (Fall)

SCIENCE, TECHNOLOGY AND CULTURE

ドゥウルフ, チャールズ

理工学部教授

Charles De Wolf

Professor, Faculty of Science and Technology

Course Description:

The leitmotif of this course is the question of how our perceptions of and approaches to science are influenced both by the Zeitgeist and by the particular culture in which we have grown up. How, for example, is the "evolution controversy" in America a peculiarly "American" phenomenon? How is it that Japanese scientists and engineers appear to be (on the whole) remarkably indifferent to ideological issues? Other topics include: (1) What is a proper or possible subject of scientific inquiry. To what extent, for example, can the study of language be considered "scientific"? (2) What is the appropriate role of scientists in matters political and social? In addition to the primary goals discussed above, it is hoped that this course will enable non-Japanese students to have a better understanding of Japanese history and culture through a cross-cultural approach to the philosophy of science. Students are strongly encouraged to participate actively, discussion being preferred to "lecturing."

Texts:

Materials to be distributed by instructor

Recommended Readings:

To be announced

Class Schedule (Subject to change)

1. Words for science: the concept of science in historical and cultural perspective
2. "Hard sciences" vs. "Soft sciences"
3. Linguistic science I: an historical overview
4. Linguistic science II: How "scientific" is linguistics?
5. Science and culture
6. Science and ideology
7. Science vs. scientism

- 8.The evolution debate in cross-cultural perspective
- 9.Science in Japan: an historical overview
- 10.Science and technology: science vs. technology
- 11.The role of the scientist in society: a cross-cultural persepective
- 12.Loose ends

Evaluation:

Attendance and participation are most important.

他大学大学院との相互科目履修に関する協定

慶應義塾大学大学院文学研究科修士課程および学習院大学大学院人文科学研究科博士前期課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程または博士前期課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程または博士前期課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則（平成14年11月1日）

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

慶應義塾大学大学院文学研究科および早稲田大学大学院文学研究科の修士課程における相互科目履修に関する協定書

昭和48年12月1日締結
平成14年11月1日改正

記

第1条 両研究科の学生は、昭和49年4月より、相互に相手側研究科設置科目を修士課程在学中に計8単位を限度として履修することができる。

第2条 第1条に該当する学生は大学院交流学生と称する。

第3条 第1条に規定する履修科目については、受入側研究科はその学則にもとづいて成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。

第4条 相手側研究科の設置科目を履修する学生は自己の属する研究科指導教員の承認をうけ、かつ相手側研究科の担当教

員の許可をうけなければならない。ただし、担当教員は学生数その他の都合からこれを許可しないことがある。

第5条 本制度の運用について協議の必要を生じた時は、直ちに両研究科間で協議し、常に円滑な運用と将来の発展に努力するものとする。

第6条 本制度は昭和47年度および48年度を試行期間として、昭和47年4月より実施してきたものであるが、昭和49年4月より正規に発足させるものである。

第7条 本制度に関する内規は別に定める。

附 則

この協定は昭和48年12月1日から施行する。

附 則（平成14年11月1日）

この協定は平成15年4月1日から施行する。

以 上

（単位互換協定）

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、教育の一層の充実を目指して、両大学大学院研究科の学生が受入大学大学院研究科の授業科目を履修することについて協定を締結する。

（受 入）

第1条 両大学大学院研究科は、受入大学大学院研究科の授業科目の履修および単位の修得を希望する学生を、相互に受け入れることができる。

2 学生を受け入れるための手続は、別に定める。

（受入学生の身分）

第2条 両大学大学院研究科は、前条によって受け入れる学生を交流学生と称する。

（学生数）

第3条 当該年度の交流学生数は、原則として両大学大学院研究科双方同数とする。

（履修期間）

第4条 交流学生の履修期間は、当該学生の履修科目の設置期間とする。

（履修科目の範囲および単位数）

第5条 交流学生が履修できる授業科目および単位数は、別に定める。

（履修方法・単位の授与・成績評価等）

第6条 交流学生の履修方法、単位の授与および成績評価等については、受入大学の大学院研究科の定めるところによる。

2 交流学生が修得した単位の認定に関わる事項は、当該学生の所属する大学の大学院研究科が定めるところによる。

（学費等）

第7条 交流学生の学費等は、相互に徴収しないものとする。

（覚 書）

第8条 本協定書の実施に必要な事項について定めるために、覚書を締結する。

(その他)

第9条 本協定書は、双方の署名によって発効し、2003年4月1日より実施する。ただし、発効日より3年を経過した後に見直しを行う。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する覚書

慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科は、「慶應義塾大学大学院文学研究科と早稲田大学大学院教育学研究科の学生交流に関する協定書」(2002年12月1日付)に基づき本覚書を締結する。

1. 対象者

両大学大学院研究科に在学する修士課程正規学生を対象とする。

2. 申請および承認手続

交流学生として科目の履修を希望する学生は、所定の申請手続をとり、所属大学大学院研究科の指導教員の承認を受け、受入大学の大学院研究科の履修希望科目担当教員の許可を得るものとする。

3. 履修可能科目および単位数

(1) 交流学生が履修できる授業科目は、学生を受け入れる大学の大学院研究科が定め、それぞれ相手大学の大学院研究科へ通知する。

(2) 交流学生が履修できる単位数の上限は、在学中8単位とする。

4. 施設利用の便宜

交流学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。

5. 学費等

協定第7条の学費の内訳は、授業料・施設費・演習料・実験実習費等とする。

6. その他

本覚書に定めるもののほか、本協定の実施に関し必要な事項は、両大学大学院研究科の協議によって定める。

2002年12月1日

慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科における大学院特別聴講生制度に関する協定

※平成13年度新生より哲学専攻が哲学・倫理学専攻に改組されました。

1. 慶應義塾大学大学院文学研究科※哲学専攻(哲学・倫理学分野)および上智大学大学院哲学研究科に在籍する学生が、研究上の必要により相手側研究科設置の授業科目の履修を希望する場合、所属研究科の定める範囲内で履修することができる。

2. 第1項に該当する学生は大学院特別聴講生と称する。

3. 定められた手続を経て、相手側研究科生の履修申込みを受けたときは、当該研究科は正規の授業に支障のないかぎり、履修を許可する。

4. 履修が許可された科目については、受入側研究科は相手側

研究科の学則に基づいて、成績を評価し、単位を認定して相手側研究科に通知する。相手側研究科は修士課程の単位としてこれを認めるものとする。但し、後期博士課程の学生については、聴講のみとし、単位・成績の認定は行わないこととする。

5. 本制度に関する諸手続は別に定める。

6. 本制度に関する内規は別に定める。

7. 本制度の実施に関する変更は両研究科間の協議により行うものとする。

附 則

本制度は1995年4月1日より施行する。

大学院特別聴講生制度に関する諸手続について

1. 大学院特別聴講生届(所属大学の学事担当部署にあり)に必要事項を記入して、指導教員の承認をうける。次に相手校に赴き、講義担当者の当該授業に出席して承認を受けた後、相手校学事担当部署へ提出すること。

2. 履修が許可された場合、指定の期間内に各学事担当部署窓口にて特別聴講生届用紙本人控と引換えに特別聴講生証を交付する。

3. 相手校の授業科目の履修を希望する場合は、履修決定以前の聴講の段階でも必ず講義担当者の許可を得ること。

4. 万一、履修を途中でやめるようなときは、速やかに講義担当者、相手校学事担当部署および所属大学の学事担当部署に連絡すること。

5. 相手校の授業に関する連絡事項は、所属大学に掲示するので充分注意すること。

関係規程抜粋

文学研究科在籍者に特に関わりの深い規程について抜粋してありますので、履修要項と合わせて参照して下さい。なお、大学院学則については、入学時に配付する慶應義塾大学大学院学則を参照して下さい。

〈1 学 位〉

- 1-1 学位規程（抜粋）
- 1-2 学位の授与に関する内規

〈2 奨 学 金〉

- 2-1 大学院奨学規程
- 2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程
- 2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程細則

〈3 授業料減免〉

- 3-1 授業料等減免規程
- 3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

〈4 そ の 他〉

- 4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規
- 4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学科
その他の学費に関する取扱い内規

学位請求論文製本表紙見本

1 学 位

1-1 学位規程 (抜粋)

昭和31年2月17日制定
平成13年12月7日改正

第1条 (目的) 本規程は、慶應義塾大学学部学則及び大学院学則に規定するもののほか、慶應義塾大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

第2条 (学位) 本大学において授与する学位は次の通りとする。

1 学 士

文 学 部

人文社会学科	
哲学専攻	学士 (哲学)
倫理学専攻	学士 (哲学)
美学美術史学専攻	学士 (美学)
日本史学専攻	学士 (史学)
東洋史学専攻	学士 (史学)
西洋史学専攻	学士 (史学)
民族学考古学専攻	学士 (史学)
国文学専攻	学士 (文学)
中国文学専攻	学士 (文学)
英米文学専攻	学士 (文学)
独文学専攻	学士 (文学)
仏文学専攻	学士 (文学)
図書館・情報学専攻	学士 (図書館・情報学)
社会学専攻	学士 (人間関係学)
心理学専攻	学士 (人間関係学)
教育学専攻	学士 (人間関係学)
人間科学専攻	学士 (人間関係学)

経 済 学 部

法 学 部

商 学 部

医 学 部

理 工 学 部

機械工学科	学士 (工学)
電子工学科	学士 (工学)
応用化学科	学士 (工学)
物理情報工学科	学士 (工学)
管理工学科	学士 (工学)
数理科学科	
数学専攻	学士 (理学)
統計学専攻	学士 (工学)
物理学科	学士 (理学)
化学科	学士 (理学)
システムデザイン工学科	学士 (工学)
情報工学科	学士 (工学)
生命情報科	学士 (理学) 又は 学士 (工学)

総合政策学部

環境情報学部

看護医療学部

2 修 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	修士 (哲学)
----------	---------

美学美術史学専攻	修士 (美学)
史学専攻	修士 (史学)
国文学専攻	修士 (文学)
中国文学専攻	修士 (文学)
英米文学専攻	修士 (文学)
独文学専攻	修士 (文学)
仏文学専攻	修士 (文学)
図書館・情報学専攻	修士 (図書館・情報学)
経済学研究科	修士 (経済学)
法学研究科	修士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	修士 (社会学)
心理学専攻	修士 (心理学)
教育学専攻	修士 (教育学)
商学研究科	修士 (商学)
医学研究科	
医科学専攻	修士 (医科学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
総合デザイン工学専攻	修士 (理学) 又は 修士 (工学)
開放環境科学専攻	修士 (工学)
経営管理研究科	修士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	修士 (政策・メディア)

3 博 士

文学研究科

哲学・倫理学専攻	博士 (哲学)
美学美術史学専攻	博士 (美学)
史学専攻	博士 (史学)
国文学専攻	博士 (文学)
中国文学専攻	博士 (文学)
英米文学専攻	博士 (文学)
独文学専攻	博士 (文学)
仏文学専攻	博士 (文学)
図書館・情報学専攻	博士 (図書館・情報学)
経済学研究科	博士 (経済学)
法学研究科	博士 (法学)
社会学研究科	
社会学専攻	博士 (社会学)
心理学専攻	博士 (心理学)
教育学専攻	博士 (教育学)
商学研究科	博士 (商学)
医学研究科	博士 (医学)
理工学研究科	
基礎理工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
総合デザイン工学専攻	博士 (理学) 又は 博士 (工学)
開放環境科学専攻	博士 (工学)
経営管理研究科	博士 (経営学)
政策・メディア研究科	
政策・メディア専攻	博士 (政策・メディア)

② 前項第3号に定めるほか博士 (学術) の学位を授与することができる。

③ 第5条に定める者には、学位論文を提出した研究科に応じ第1項第3号の学位を授与する。

第2条の2（学士学位の授与要件） 学士の学位は、大学を卒業した者に与えられる。

第3条（修士学位の授与要件） 修士の学位は、大学院前期博士課程を修了した者に与えられる。

第4条（課程による博士学位の授与要件） 博士の学位は、大学院博士課程を修了した者に与えられる。

第5条（論文による博士学位の授与要件） 博士の学位は、研究科委員会の承認を得て学位論文を提出して論文の審査に合格し、かつ大学院博士課程の修了者と同等以上の学識があることを確認（以下「学識の確認」という）された者に与えられる。

第6条（学識の確認の特例） ① 大学院博士課程における教育課程を終え、学位論文を提出しないで退学した者のうち、退学の日から起算して研究科委員会が定める年限以内に論文による博士学位を申請した者については、研究科委員会が適当と認めた場合、学識の確認の一部若しくはすべてを行わないことができる。

② 学位論文以外の業績及び経歴の審査によって、研究科委員会が学識の確認の一部若しくはすべてを行う必要がないと認めた場合には、当該審査をもって学識の確認の一部若しくはすべてに代えることができる。

第7条（課程による学位の申請） ① 第3条の規定に基づき修士学位を申請する者は、学位論文3部を指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

② 第4条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、指導教授を通じて当該研究科委員会に提出するものとする。

第8条（論文による学位の申請） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者は、学位申請書に学位論文3部及び所定の書類を添え、その申請する学位の種類を指定して、学長に提出しなければならない。

第9条（審査料） 第5条の規定に基づき博士学位を申請する者に対する審査料は、次の通りとする。

- 1 本大学大学院博士課程の教育課程を終え学位論文を提出しないで退学した者 50,000円
- 2 本大学学士又は修士の学位を与えられた者で前号の定め以外の者 70,000円
- 3 第1号・第2号のいずれにも該当しない者 100,000円
- 4 本塾専任教職員である者 20,000円
(医学研究科については40,000円)

第10条（審査並びに期間） ① 修士及び博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験等の合否は、当該研究科委員会が判定する。

② 博士の学位論文の審査並びにこれに関連する試験及び学識の確認等は、論文受理後1年以内に終了するものとする。

第11条（審査委員会） 研究科委員会は、学位論文の審査並びにこれに関連する試験等を行うために、関係指導教授及び関連科目担当教授2名以上から成る審査委員会（主査及び副査）を設置しこれに当たらせる。ただし、必要がある場合は助教教授又は専任講師・講師（非常勤）等を特に審査委員会に加えることができる。

第12条（審査結果の報告・判定方法） ① 審査委員会は、論文審査の要旨並びに試験の成績等を記録して研究科委員会に報告し、かつ、その意見を開陳する。

② 研究科委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、その3分の2以上の賛同をもって学位論文の審査並びに試験の合否を決定する。

③ 前項の議決は、無記名投票をもって行う。

第13条（学位授与） 研究科委員会において学位論文の審査並びに試験に合格した者に対し、学長は当該研究科委員会の報告に基づき学位を授与する。

第14条（学位論文要旨の公表） 本大学は博士の学位を授与したとき、当該博士の学位を授与した日から3月以内にその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

第15条（学位論文の公表） 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位の授与を受けた日から1年以内にその論文を印刷公表し「慶應義塾大学審査学位論文」と明記するものとする。ただし、学位の授与を受ける前にすでに印刷公表したときはこの限りではない。

第16条（学位の表示） 学位の授与を受けた者が学位の名称を用いるときは、学位の後にこれを授与した本大学名を「(慶應義塾大学)」と付記するものとする。

第17条（学位の取消） 不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したとき、又は学位を得た者がその名誉を汚辱する行為があったときは、当該研究科委員会及び大学院委員会の議を経てその学位を取消するものとする。

第18条（学位記及び書類） 学位記及び学位授与申請関係書類の様式は、別表の通りとする。

第19条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。ただし、第2条第1項第1号及び第2条の2については大学評議会の議を経てこれを行う。

附 則

① この規程は平成14年4月1日から施行する。
〔以下省略〕

1-2 学位の授与に関する内規

昭和59年3月16日制定
平成12年5月16日改正

第1条 慶應義塾大学学位規程第13条（学位授与）に関する取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 論文博士の学位授与及び博士課程単位修得退学者で再入学しない者に対する課程博士の学位授与に関しては、次の通り行うものとする。

1 学位授与日は、研究科委員会の議決日とする。

2 研究科委員会が学位論文審査合格を議決した日以降、「学位取得証明書」を発行できるものとする。

3 学位の授与手続きは、次の通りとする。

イ 研究科委員会の合否判定議決に基づき、研究科委員長はその結果を速やかに学長に報告する。

ロ 学長は、研究科委員長の報告に基づき合格者に学位を授与する。

4 学位記は、学位授与式において授与する。

第3条 修士の学位授与及び博士課程に在学している者に対する課程博士の学位授与に関しては、前第2条第3号と同様の手続きを経て当該年度末（3月23日）をもって学位を授与する。

② 前項の規定にかかわらず、修士課程においてあらかじめ研究科委員会の承認を得て、学位論文を提出締切期日までに提出せず次年度も引続き在学している者が、研究科委員会の特に認めた期日までに学位論文を提出し課程修了を認定された場合には、春学期末日をもって学位を授与することができる。

- ③ 第1項の規定にかかわらず、後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該春学期末日をもって学位を授与することができる。
- ④ 前項の規定にかかわらず後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）に在学する者で、大学院学則第109条第3項のただし書（医学研究科については同条第4項のただし書）の適用を受け、在学する年度途中において特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。
- ⑤ 第1項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、春学期末日をもって課程修了を認定された場合には、当該第1学期末日をもって学位を授与することができる。
- ⑥ 前項の規定にかかわらず、「大学院在学期間延長者取扱い内規」により在学する者が、在学する年度途中において、特に課程修了を認定された場合には、認定された日をもって学位を授与することができる。
- ⑦ 学位記は、学位授与式において授与する。

第4条 学長は、学位を授与した者の氏名その他必要事項を取りまとめて、年2回大学院委員会の各委員に報告しなければならない。

第5条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

附 則（平成8年3月8日）

第1条 この内規は、平成12年4月1日から実施する。

第2条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

2 奨学金

2-1 大学院奨学規程

平成2年4月13日制定

平成10年4月21日改正

第1章 総 則

第1条（根拠） 慶應義塾大学は、大学院学則第16節奨学制度に基づき、貸費及び給費の奨学制度を置く。

第2条（奨学金の種類・金額） ① 奨学金の種類は、次の通りとする。

- 1 貸費奨学金（無利子） 修士課程（前期博士課程）学生対象（但し、外国人留学生を除く。）
- 2 給費奨学金 後期博士課程（以下「博士課程」という。）学生、医学研究科博士課程学生、私費外国人留学生対象

② 前項に定める奨学金の年額は、次の通りとする。

- | | |
|-------------------|----------|
| 1 文、経済、法、社会、商学研究科 | 400,000円 |
| 2 医学、経営管理研究科 | 600,000円 |
| 3 理工学、政策・メディア研究科 | 500,000円 |

第2章 貸 費 生

第3条（資格） 貸費生の資格は、大学院修士課程の学生（但し、外国人留学生を除く。）とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。

- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

- 3 原則として、修士課程1年生であること。

第4条（期間） 貸費の期間は、大学院学則に定める修士課程標準修業年限の2か年とする。但し、修士課程2年生が貸費生に採用された場合は、1か年とする。

第5条（申請） 貸費を受けようとする者は、所定の申請書に学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第6条（選考） 貸費生は、第3条の条件により選考する。

第7条（決定） 前条による選考は、別に定める大学院奨学委員会（以下「委員会」という。）において行い、塾長がこれを決定する。

第8条（家計急変者に対する救済措置等） 天災その他の災害及び家計支持者の死亡、失職等のため家計が急激に変化し、学費の納入が困難になった者等若干名については、第3条第3号の規定にかかわらず、貸費生として追加採用することができる。

第9条（誓約書） 貸費生として決定された者は、所定の誓約書を連帯保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。

第10条（身分等変更の届出） 貸費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病氣・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、就学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第11条（貸与の休止） 委員会は、貸費生が休学・留学した場合、その間貸費生の資格を休止することができる。

第12条（貸与の復活） 前条の規定により貸費生の資格を休止された者が、休止の理由となったものが消滅した場合、委員会は、申請により貸与を復活することができる。但し、休止された時から3か年を経過したときは、この限りではない。

第13条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、貸費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第10条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他貸費生として不適当と認められた場合

第14条（貸与の辞退） 貸費生は、いつでも貸与を辞退することができる。この場合には、連帯保証人と連署の届出書を、学生総合センターに提出しなければならない。

第15条（貸与金借用証書の提出） 貸費生が次の各号に該当する場合は、貸与金借用証書に貸与金返還総額等を記載し、連帯保証人及び保証人と連署の上、学生総合センターに提出しなければならない。連帯保証人及び保証人の使用する印鑑については、印鑑証明を必要とする。

- 1 貸与期間が満了した場合
- 2 貸与を期間中に辞退した場合
- 3 第13条による失格の場合

第16条（貸与金の返還） ① 貸与金の返還は、原則として貸与が終了した年の12月から毎年1回の年賦とし、貸与年数の4倍の年数以内に全額を返還するものとする。但し、貸与金はいつでも繰り上げ返還することができる。

② 第13条による失格者については、貸与金の全額を直ちに返還しなければならない。

第17条（返還猶予） ① 貸費生であった者が次の各号に該当

する場合には、委員会は、本人の申請により貸与金の返還を猶予することができる。

- 1 災害又は疾病により返済が困難となった場合
- 2 貸与期間終了後、引き続き修士課程に在学している場合
- 3 修士課程修了後、博士課程進学を目指している場合

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の返還を猶予することができる。

③ 返還猶予期間は1か年とするが、返還猶予の理由が存続する場合は、第1項第3号に基づく場合を除いて、申請により1年ごとに延長することができる。但し、原則として3か年を超えて延長することはできない。

第18条（返還免除） ① 貸費生であった者が次の各号に該当する場合には、委員会は、本人又は連帯保証人の申請により、貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 博士課程に進学し、学位を取得した場合、あるいは博士課程に3か年以上在学して所定の単位を取得し退学した場合。但し、博士課程を途中で退学した者については免除を認めない。
- 2 貸与金返還完了前に死亡した場合。この場合には、連帯保証人又は相続人は、死亡時から6か月以内に、貸与金返還免除申請書を、死亡診断書又は戸籍抄本を添えて、学生総合センターに提出しなければならない。

② 前項の規定にかかわらず、委員会は、その理由が相当であると認めるときは、申請により貸与金の全部又は一部の返還を免除することができる。

第3章 給費生

第19条（資格） 給費生の資格は、大学院博士課程学生及び私費外国人留学生とし、次の条件を備えていなければならない。

- 1 研究の意欲を持ち、経済的に修学が困難であること。
- 2 学業成績・人物共に優秀で健康であること。

第20条（期間） 給費の期間は、1か年とする。引き続き給費を希望する場合、再申請は妨げないが、3か年（医学研究科は4か年）を超えて給費を受けることはできない。

第21条（申請） 給費を受けようとする者は、所定の申請書に、学業成績証明書、健康診断書及び連帯保証人等の所得証明書を添えて、学生総合センターに申請するものとする。

第22条（選考） 給費生は、第19条の条件により選考する。

第23条（決定） 前条による選考は、委員会において行い、塾長がこれを決定する。

第24条（身分等変更の届出） 給費生は、次の各号に該当する場合は、直ちに学生総合センターに届け出なければならない。但し、本人の病気・死亡などの場合は、連帯保証人が代わって届け出なければならない。

- 1 休学、留学、退学
- 2 本人及び連帯保証人の氏名、住所、その他重要事項の変更

第25条（失格） 委員会が次の各号により不適格と認めた場合、給費生はその資格を失う。

- 1 大学院学則に基づく休学、退学、停学の場合
- 2 申請書及び提出書類の記載内容に虚偽があった場合
- 3 正当な理由がなく第24条に定める届け出を怠った場合
- 4 その他給費生として不適当と認められた場合

第26条（返還） ① 給費生が前条の規定により給費生としての資格を失った場合は、既にその年度に給付された金額の全部又は一部を返還しなければならない。委員会は、この場合の返還方法を、審査の上定める。

② 前項の規定にかかわらず、次の各号に該当する場合は、委員会は、申請により既に給付された奨学金の全部又は一部の返還を免除することができる。

- 1 死亡した場合
- 2 第25条第1号の規定により、給費生として資格を失った場合

第27条（事務） 本制度の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

第28条（規定の改廃） この規程の改廃は、委員会の議を経て、塾長がこれを行う。

附 則（平成10年4月21日）

- ① この規程は、平成10年4月1日から施行する。
- ② 平成3年3月31日以前の課程入学者については、旧・慶應義塾大学大学院奨学規程を適用する。
- ③ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）第1学年入学者については、本規程第3条から第18条を適用しない。
- ④ 平成10年4月1日以後の修士課程（前期博士課程）入学者を、本規程第2条第1項第2号及び第19条の対象に加えるものとする。

2-2 小泉信三記念大学院特別奨学金規程

昭和52年4月12日制定
昭和54年7月27日改正
平成14年5月1日改正
平成16年3月15日改正

第1条 小泉信三記念奨学金規程第2条第1号に基づき、研究者の養成を目的として大学院に特別奨学金による奨学研究生を置く。

第2条 奨学研究生は、学部第4学年に在学し大学院への進学を志願する学生、または大学院に在学する学生の中から、これを選考する。

第3条 奨学研究生の選考は、各研究科委員会の推薦により、小泉基金運営委員会の議を経て学長がこれを決定する。

第4条 奨学研究生には特別奨学金として、月額30,000円を給付し、その期間は1年とする。ただし、審査の上、この期間を更新することができる。

第5条 この特別奨学金規程に関する事務は、研究支援センター本部が担当する。

第6条 この規程に関する細則は別に定める。

付 則

- ① この規程は、昭和52年4月1日から施行する。
- ② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程とする。

付 則（昭和54年7月27日）

この規程は、昭和54年9月1日から施行する。

附 則（平成14年5月1日）

この規程は、平成14年5月1日から施行する。

附 則（平成16年3月15日）

この規程は、平成16年3月15日から施行する。

2-3 小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則

昭和52年4月12日制定
昭和54年7月27日改正
平成14年5月1日改正
平成16年3月15日改正

平成11年11月26日改正
平成14年7月12日改正

第1条 小泉基金運営委員会委員長は、毎年奨学研究生を公募する。

第2条 奨学研究生は、大学院に在学し、次に掲げる各号の条件を備えていなければならない。

- 1 学業成績・人物共に優秀であること
- 2 将来、研究者たり得る資質ありと認められること
- 3 健康であること

第3条 奨学研究生を志望する者は、次の書類を整えて、保証人連署の上、研究支援センター本部に提出しなければならない。

- 1 願書
- 2 履歴書
- 3 成績証明書 大学学部1年から申請時までの成績証明書
- 4 健康診断書

第4条 各研究科委員会は、奨学研究生を志望した者について審議し、順位を付して小泉基金運営委員会に推薦しなければならない。

第5条 奨学研究生は、次の理由により身分に変更を生じた場合は、保証人連署の上、直ちに学長に届け出なければならない。

- 1 休学・復学・退学
- 2 本人及び保証人の身分・住所その他重要事項の変更。ただし、本人が病氣・死亡等の場合は、保証人が代って届け出なければならない。

第6条 小泉基金運営委員会が、次の理由により不適格と認めた場合は、奨学研究生としての資格を失うものとし、すでに支給した奨学金の全部もしくは一部を返還させることがある。

- 1 この奨学金設定の趣旨に反し、かつ塾生としての本分にもとる行為があった場合
- 2 提出書類に虚偽の記載をした場合
- 3 正当な理由なく第5条に定める届け出を怠った場合

第7条 奨学研究生が退学した場合は、給付を打ち切るものとする。

付 則

- ① この細則は、昭和52年4月1日から施行する。
- ② 現行小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則は旧・小泉信三記念大学院特別奨学金規程施行細則とする。

付 則（昭和54年7月27日）

この細則は、昭和54年9月1日から施行する。

付 則（平成14年5月1日）

この細則は、平成14年5月1日から施行する。

付 則（平成16年3月15日）

この細則は、平成16年3月15日から施行する。

3 授業料減免

3-1 授業料等減免規程

平成元年7月18日制定
平成2年4月1日施行

第1条（目的） 慶應義塾大学は、疾病・傷害によって授業を長期にわたり休学している学部学生並びに大学院生で、経済上授業料等（大学院にあつては在学料等、以下授業料等という）の納入が著しく困難な学生に対し、審査のうえ、一定の期間授業料等を減免することが出来る。

第2条（対象） ① 減免を受けようとする者は、1年以上の長期にわたり入院又は通院している者並びに自宅療養をしている者で、休学の2年目以降の者でなければならない。

② 母国において兵役に就くために休学する者。この場合に限り1年目から減免する。

第3条（申請） 前条に該当する者が減免を申請する場合は、所定の申請書に休学許可書、診断書並びに家計支持者の所得を証明する書類を添えて、学生総合センター長に提出しなければならない。

第4条（減免額） ① 減免を認められた者の減免額は、文科系学部・同大学院研究科については授業料等の半額、医学部・同大学院研究科、理工学部・同大学院研究科、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策メディア研究科及び看護医療学部については授業料等の半額及び実験実習費の半額とする。なお、総合政策学部、環境情報学部、大学院政策・メディア研究科及び法学部政治学科9月入学者は、休学期間が6か月毎のため減免額も半年分の半額とする。

② 正課又は課外活動中の事故による傷害で休学している場合、その事由を斟酌し、減免額を全額とすることができる。

第5条（審査） 第1条による審査は、大学学部生については大学奨学委員会、大学院生については大学院奨学委員会がこれを行い、塾長が決定する。

第6条（減免の取消し） 休学者が虚偽の申請その他不正の方法で減免を受けた場合には、減免の措置を取り消すとともに、既に減免を受けた授業料等の全部又は一部を納入させることが出来る。

第7条（就学の届出） 休学者が就学した時は、速やかに書面をもってその旨学生総合センター長に届け出なければならない。

第8条（規程の改廃） この規程の改廃は、大学奨学委員会並びに大学院奨学委員会の議を経て、塾長が決定する。

第9条（所管） この規程の運営事務は、学生総合センターの所管とする。

附 則（平成元年7月18日）

この規程は、平成2年4月1日から施行する。

附 則（平成11年11月26日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年7月12日）

この規程は、平成14年8月1日から施行する。

3-2 留学期間中の学費の取り扱いに関する規程

平成元年5月23日制定
平成2年4月1日施行
平成12年5月30日改正

第1条 慶應義塾大学学部学則第153条及び慶應義塾大学大学

院学則第124条により外国の大学に留学する学生（以下留学生という）の学費に関する取り扱いは、この規程の定めるところによる。

第2条 留学期間中の学費の取り扱いは、次の通りとする。

- 1 留学の始まる日（以下留学開始日という）の属する年度の学費は納入するものとする。但し、留学の奨励を図るため、別に定めるところにより、留学に要する経費の一部を補助することがある。
- 2 留学の延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して1年6か月以上2年以内（医学研究科博士課程は2年6か月以上3年以内）の場合は、留学開始日から1年（医学研究科博士課程は2年）を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。
- 3 留学の再延長が認められ、その許可された延長期間が留学開始日から起算して2年6か月以上3年以内（医学研究科博士課程は3年6か月以上4年以内）の場合は、留学開始日から2年（医学研究科博士課程は3年）を経過した日の属する年度の授業料（在学料）及び実験実習費の半額を免除する。

第3条 留学生が留学の許可を取り消された場合は、その間に免除した学費の一部又は全額を納入させることがある。

第4条 この規程の適用に当たり疑義を生じた場合は、その都度塾長が決定する。

第5条 この規程の改廃は、塾長がこれを決定する。

附 則（平成元年5月23日）

- ① この規程は、平成2年4月1日から施行する。
- ② この規程の制定により、昭和56年5月12日制定、同年4月1日施行の留学期間中の学費の取り扱いに関する規程は、これを旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程とする。
- ③ この規程は、留学開始日が平成2年4月1日以降の者に適用する。
- ④ この規程の施行前、既に留学を許可され留学している者の学費については、旧・留学期間中の学費の取り扱いに関する規程を適用する。

附 則（平成12年5月30日）

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

4 その他

4-1 大学院在学期間延長者取扱い内規

昭和59年3月16日制定

第1条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において、当該課程修了要件のうち学位論文の審査並びに最終試験を除き所定の教育課程を終えた後、引続き博士学位取得のため在学する者の取扱いは、この内規の定めるところによる。

第2条 在学期間延長を希望する者は、指導教授の許可を得て研究科委員会に「在学期間延長許可願」を提出し、承認を得なければならない。

第3条 研究科委員会は、研究継続の必要性等在学を延長する十分な理由があると認め、かつ教育並びに研究に支障のない場合、大学院学則第128条に定める在学最長年限を超えない範囲で引続き1年間（4月1日～翌年3月31日）の在学を許

可できるものとする。

第4条 在学期間延長者が延長期間終了後も引続き在学を希望するときには、新たに「在学期間延長許可願」を提出し、研究科委員会の承認を得なければならない。

第5条 学則定員その他の理由から延長が認められない場合は、大学院学則第153条に定める研究生として受け入れることができる。

付 則

第1条 この内規は、昭和59年4月1日から施行する。

第2条 この内規は、昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

第3条 付則第2条の規定にかかわらず、博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出年限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については、昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は、大学院委員会の議を経て学長が行う。

4-2 大学院在学期間延長者並びに年度途中の修了者に対する在学料その他の学費に関する取扱い内規

昭和59年3月30日制定

平成8年3月8日改正

第1条 本塾大学大学院において「学位の授与に関する内規」第3条第2項若しくは第3項により第1学期末日をもって課程修了する者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の2分の1に相当する額
- 2 施設設備費（毎年）
大学院学則第131条に定める金額
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

第2条 本塾大学大学院後期博士課程（医学研究科にあっては博士課程）において「大学院在学期間延長者取扱い内規」による在学期間延長者の学費は、次の通りとする。

- 1 在学料（毎年）
大学院学則第131条に定める金額の4分の3
- 2 施設設備費（毎年）
免除
- 3 実験実習費（毎年）
大学院学則第132条に定める金額

② 在学期間延長者が「学位の授与に関する内規」第3条第4項および第5項により年度途中の日をもって課程修了する場合の在学料は、その課程修了の日が第1学期末日までの者に限り前項に定める金額の2分の1に相当する額。

第3条 「大学院在学期間延長者取扱い内規」第5条による研究生は、大学院学則第153条第2項に定める登録料を免除し、初年度に限り選考料を徴収しない。

附 則

第1条 この内規は、平成8年4月1日から施行する。

第2条 この内規の修了課程に係る本則第1条については、昭

和59年4月1日から適用する。

第3条 この内規の後期博士課程（医学研究科にあつては博士課程）に係る本則第2条及び第3条については，昭和58年度以降に医学研究科博士課程に入学した者並びに昭和60年度以降に後期博士課程に入学又は進学した者に適用する。

② 前項の規定にかかわらず，博士課程所定単位修得退学者に対して課程による学位論文提出期限を「博士学位に関する内規」に沿って定めている研究科に在学する者については，昭和59年4月1日からこの内規を適用することができる。

第4条 この内規の改廃は，塾長が決定する。

学位請求論文製本表紙見本

(1) 表紙

○○論文 平成○年度（20○○）	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 論 題 </td> </tr> </table>	論 題
論 題	
慶應義塾大学 大学院 文学研究科 ○○○ 専攻 ○○○ 分野	
<table border="1" style="width: 80%; margin: auto;"> <tr> <td style="text-align: center; padding: 10px;"> 氏 名 </td> </tr> </table>	氏 名
氏 名	

※ 「○○○ 分野」の記載は、史学専攻のみ

(2) 背表紙

	} 1.0 cm
20○○	
	} 1.0 cm
○ ○ 論文	
	} 1.0 cm
論	
題	
氏	
名	
	} 5.0 ~ 6.0 cm

